

一般社団法人

日本保育学会

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

第78回大会 中部ブロック プログラム

大会テーマ

保育と学びのテクスチャー

2025年5月10日(土)・11日(日)

会場：長野県立大学

主催：一般社団法人 日本保育学会 第78回大会実行委員会

後援：長野県立大学



一般社団法人
日本保育学会 第78回大会

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

テーマ

保育と学びのテクスチャー

【プログラム】

主催：一般社団法人 日本保育学会 第78回大会実行委員会

～表紙デザイン～



本大会のテーマは、「保育と学びのテクスチャー」です。テクスチャーとは、ものの表面の質感のことを意味し、手触りとも言い換えられる言葉です。今回の表紙デザインでは、触ってその質感が確かめられるような雰囲気を目指しました。また、こどもの最初期の描画過程であるスクリブル（なぐり描き）の要素を取り入れ、自由闊達な画面構成を意識しています。実際の大会においても、直接対話の質感を味わい、自由闊達な意見が交わされることを願っています。

（宮城正作：長野県立大学）

目 次

■ご挨拶	4
■会場までのアクセス	5
■会場案内図	6

1. 大会参加者の方へ

■大会に参加される皆様へ	12
■大会日程	15
■会場と発表区分	16

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

■研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ	24
■大会研究発表に関する規程	27
■一般社団法人日本保育学会 研究奨励賞規程	29
■第 78 回大会日本保育学会発表資料作成におけるガイドライン	31
■一般社団法人日本保育学会 オンライン参加に関するガイドライン	32

3. 講演・シンポジウム

■基調講演	大会 1 日目 09:40 ~ 11:10	34
■各種シンポジウム・企画	大会 1 日目 13:00 ~	36
	大会 2 日目 10:00 ~	44

4. 自主シンポジウム

■自主シンポジウム	52
-----------------	----

5. 研究発表

■口頭発表	74
■ポスター発表	93

6. 人名索引

■人名索引	130
-------------	-----

7. 大会実行委員会について

■一般社団法人日本保育学会	大会実行委員会規程	142
■一般社団法人日本保育学会	大会開催細則	143
■日本保育学会第 78 回大会	協賛企業・団体	144
■日本保育学会第 78 回大会	実行委員会	146

日本保育学会第 78 回大会を開催するにあたってのご挨拶

一般社団法人 日本保育学会 第 78 回大会の開催を中部地区、長野県立大学（長野市）でお引き受けしました。2019 年に大妻女子大学で開催された第 72 回大会以来、6 年ぶりの対面での開催となります。

大会テーマは「保育と学びのテクスチャー」といたしました。保育の実践や研究には、本学会が伝統的に大切にしてきた保育の息づかいや手触り感とでも形容できる質感（テクスチャー）を抜きにして語ることはできないと思われます。

新型コロナウイルス感染症が広がる中で、ICT の活用が急速に広がったとはいえ、日々の保育、保育に関する研究や実践の交流は多くの制約の中で行われてきました。この経験を通して私たちは改めて直接的な人との交流が人間の成長や学びにとって重要であり、欠かせないものであることを再認識したといえるのではないのでしょうか。

しかし、この間にも急速な少子化、保育・幼児教育、子育て・子育てをめぐる問題は社会的課題として重要性を増してきています。「こどもまんなか社会」をめざすという政策の方向性は評価できる一方で、実践や支援、研究、養成を通して子どもや子育てに携わる私たちの手触り感はどうでしょうか。第 78 回大会では、日本保育学会の目的である子どもの健やかな発達と幸福につながることをめざして、直接の対話や交流を通して、大いに議論し、たがいの思いの機微に接し、今後の交流や研究の広がりにつながる機会にしてほしいと願っています。

第 78 回大会は、一般社団法人 日本保育学会の久しぶりの対面開催ということを鑑み、基調講演を本学会の第 7 代および第 9 代の会長を務め、わが国の保育・教育をリードされている秋田喜代美先生にお願いしました。「保育実践の質感を問う：保育の心もちの探究へ」と題する講演をもとに、保育実践や保育研究のあり方をその特性も含めてあらためて考える機会になることを願っています。その他、大会プログラムは次ページに示した内容を予定しています。

最後にいくつかお願いなどがございます。

久しぶりの対面での大会になりますが、従前の対面開催のポスター発表と変更になる点もあります。今後の大会がオンラインと対面開催を隔年で行うという理事・評議員会の意向をふまえ、申し込みや発表の手続き、準備などオンライン開催の場合と共通化することが多くなる予定です。こうした方法での対面開催が初めてになることから、ご不便をおかけすることがあるかもしれません。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

また、会場となる長野県立大学は長野市内の住宅地の中にある収容定員 1,000 名ほどの小さな大学です。そのため、交通アクセスや食事、宿泊、大学施設などにご不便をおかけするかもしれません。大会当日は宿泊施設の混雑が予想されるため、早めの宿泊先の確保（ご予約）をご検討ください。

開催に向け、中部地区の理事・評議員の皆様の協力を得て、実行委員会を中心に準備を進めております。新緑と山並みの美しい長野の 5 月に皆様のご参加を心よりお待ちしております。

※なお本大会は、ながの観光コンベンションビューローの支援を受けています。長野市内の宿泊施設利用を積極的にご検討いただけると幸いです。

2025 年 3 月

一般社団法人日本保育学会第 78 回大会
実行委員長 太田 光洋

会場までのアクセス

■会 場：長野県立大学 三輪キャンパス 〒380-8525 長野県長野市三輪8-49-7

■駐車場：学内には駐車場がありません。また周辺にも有料駐車場等がないので公共の交通機関にてご来場ください。

■長野駅からのアクセス：

臨時バス 無料 ※学会参加者専用

JR長野駅東口【ユメリアバスパーク】32・33番バスのりばより臨時バスを運行。

⇔臨時バス(所要約10分/無料)⇔ 終点「康楽寺駐車場」下車(徒歩5分)

■運行時間／ 5月10日(土)長野駅発8:30始発～康楽寺最終19:00発(約6～10分間隔)
5月11日(日)長野駅発8:10始発～康楽寺最終17:00発(約6～10分間隔)

長野電鉄 JR長野駅善光寺口乗り換え

⇒長野電鉄(乗車6分)「本郷」駅下車(徒歩10分)



長野電鉄
時刻表

長電バス JR長野駅善光寺口6番バスのりば

⇒長電バス(乗車15～20分)「城山団地」下車(徒歩5分)

※路線【61】～【64】

※問い合わせ/長電バス長野営業所 TEL.026-296-3208



長電バス
ホームページ

タクシー

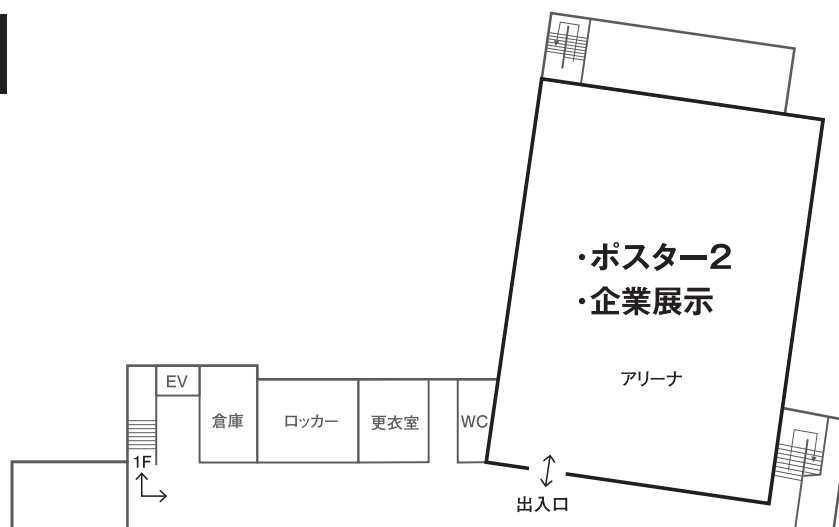
○長野観光 TEL.026-222-1234 ○長野タクシー TEL.026-244-2222

○アルピコタクシー TEL.026-283-8800 ○つばめ長電タクシー TEL.026-241-3255

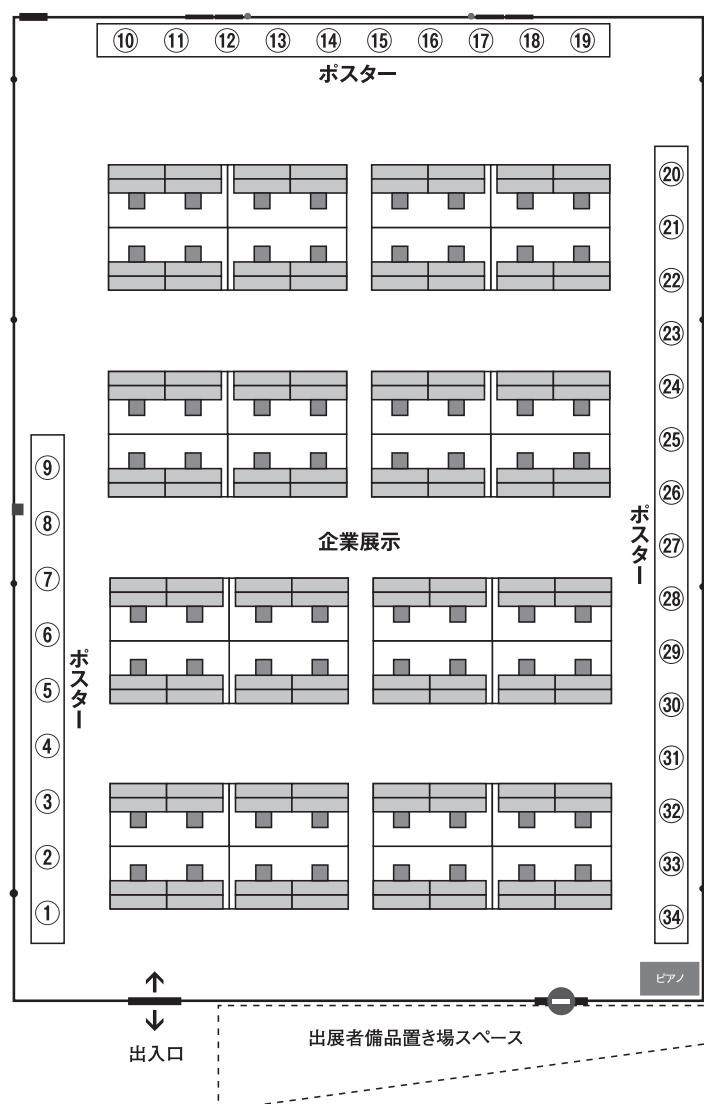


会場案内図①

B1F

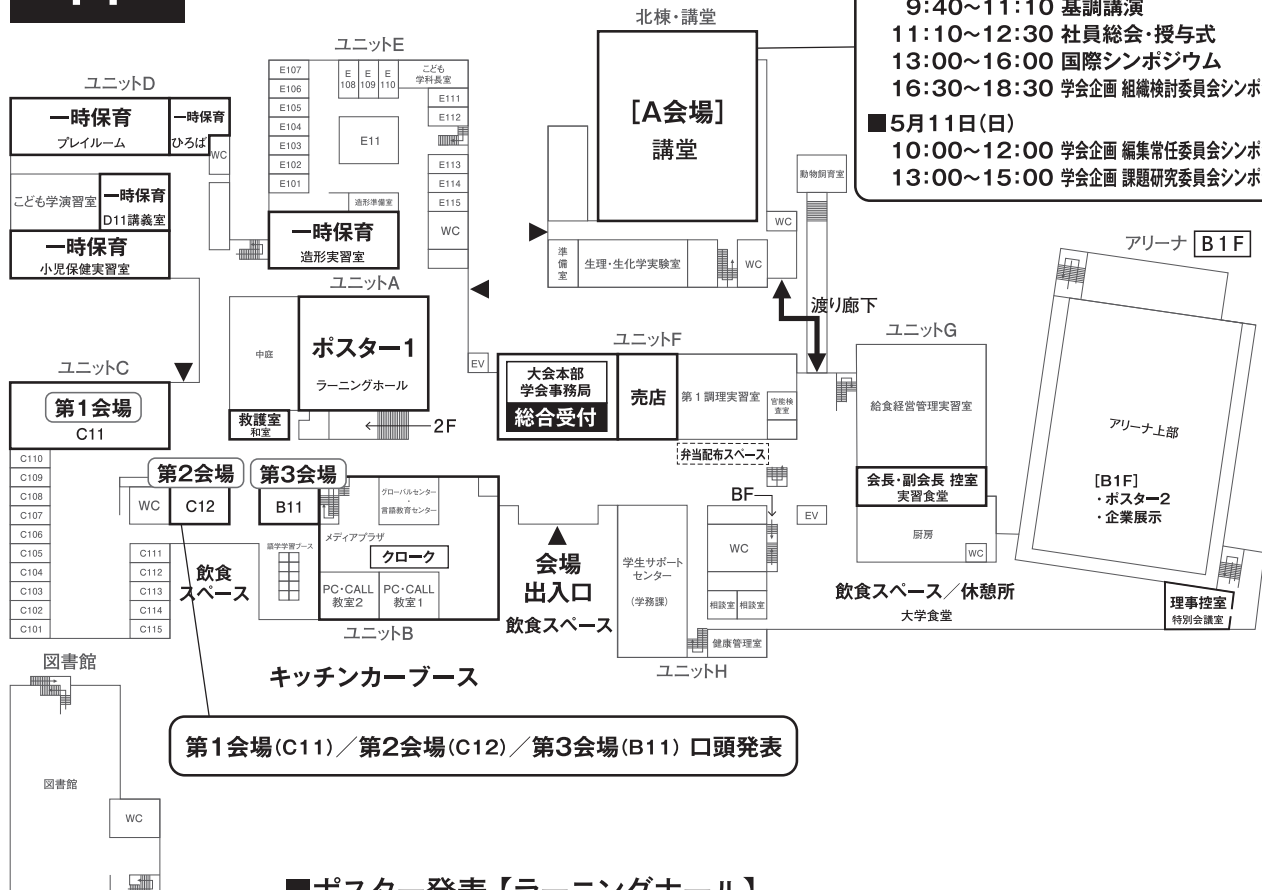


■ポスター発表・企業展示【アリーナ】



会場案内図②

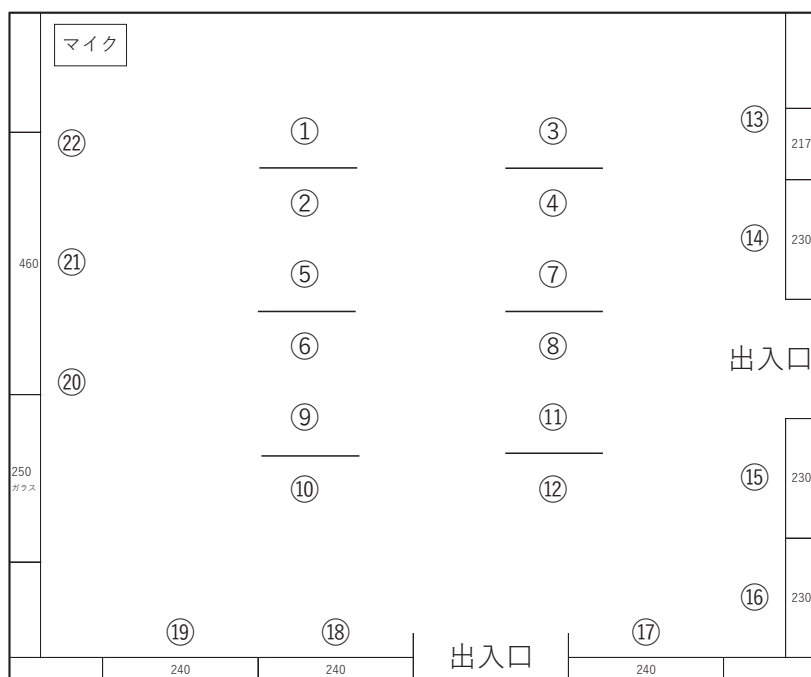
1F



第1会場(C11)/第2会場(C12)/第3会場(B11) 口頭発表

■ポスター発表【ラーニングホール】

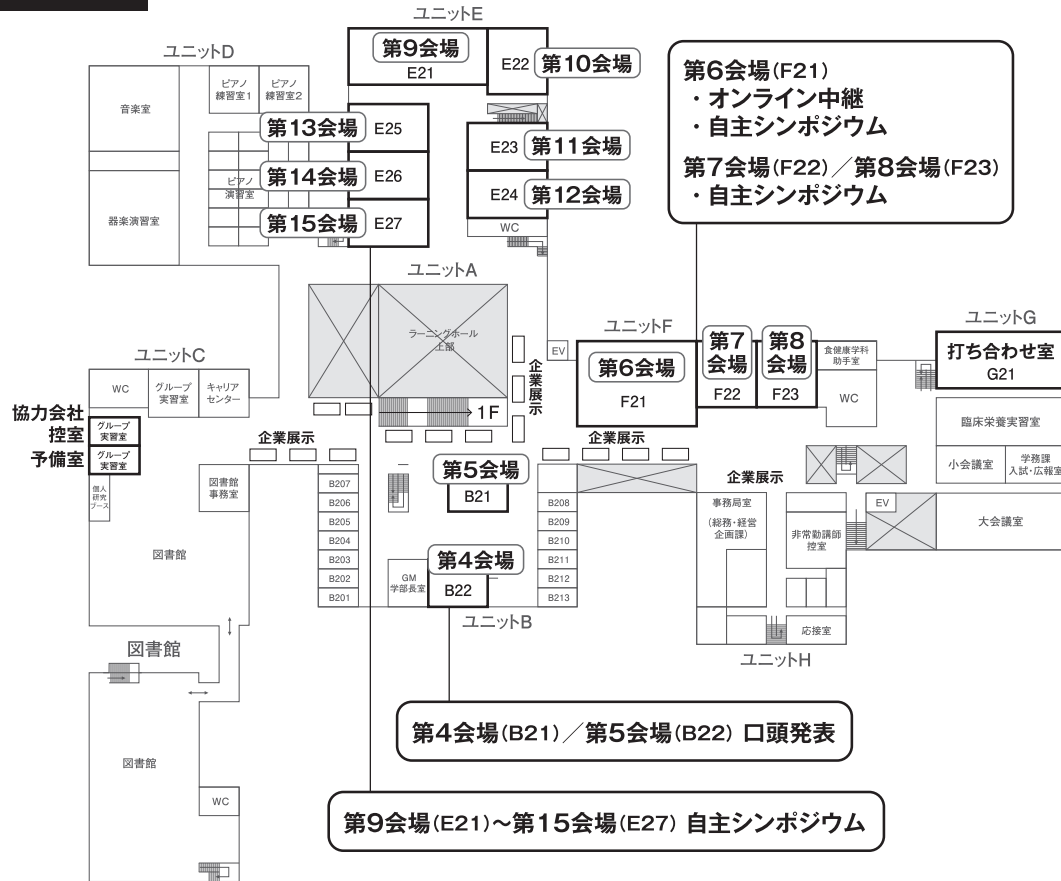
中 庭



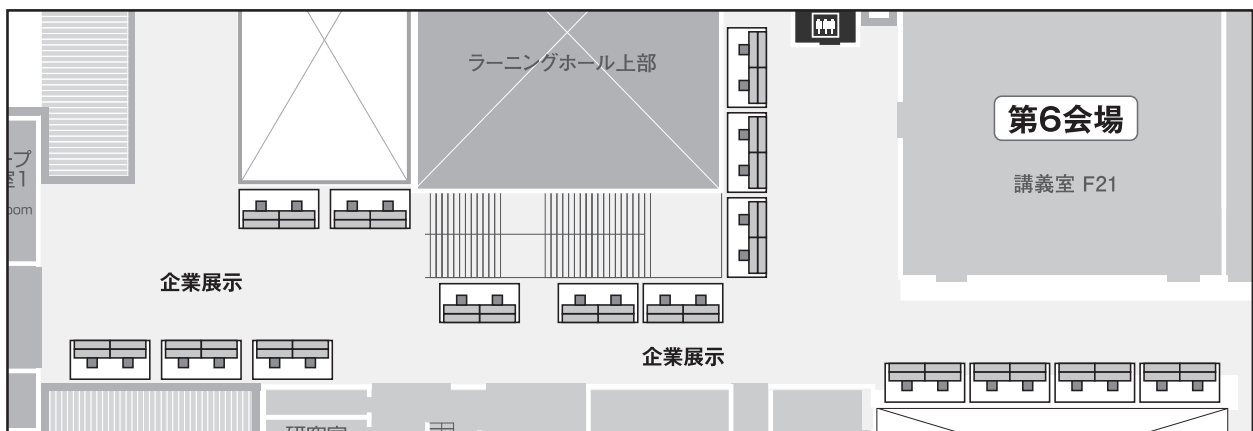
廊 下

会場案内図③

2F



■企業展示



会場案内図④

3 F

[B会場]A31教室

■ **5月10日(土)**
13:30~15:30 実行委員会企画 シンポジウムA
16:10~18:10 実行委員会企画 シンポジウムB

■ **5月11日(日)**
14:00~16:00 実行委員会企画 シンポジウムC

[B会場]A31教室

■ **5月10日(土)**
13:30~15:30 実行委員会企画 シンポジウムA
16:10~18:10 実行委員会企画 シンポジウムB

■ **5月11日(日)**
14:00~16:00 実行委員会企画 シンポジウムC

[B会場]A31教室

■ **5月10日(土)**
13:30~15:30 実行委員会企画 シンポジウムA
16:10~18:10 実行委員会企画 シンポジウムB

■ **5月11日(日)**
14:00~16:00 実行委員会企画 シンポジウムC

[B会場]A31教室

■ **5月10日(土)**
13:30~15:30 実行委員会企画 シンポジウムA
16:10~18:10 実行委員会企画 シンポジウムB

■ **5月11日(日)**
14:00~16:00 実行委員会企画 シンポジウムC

[B会場]A31教室

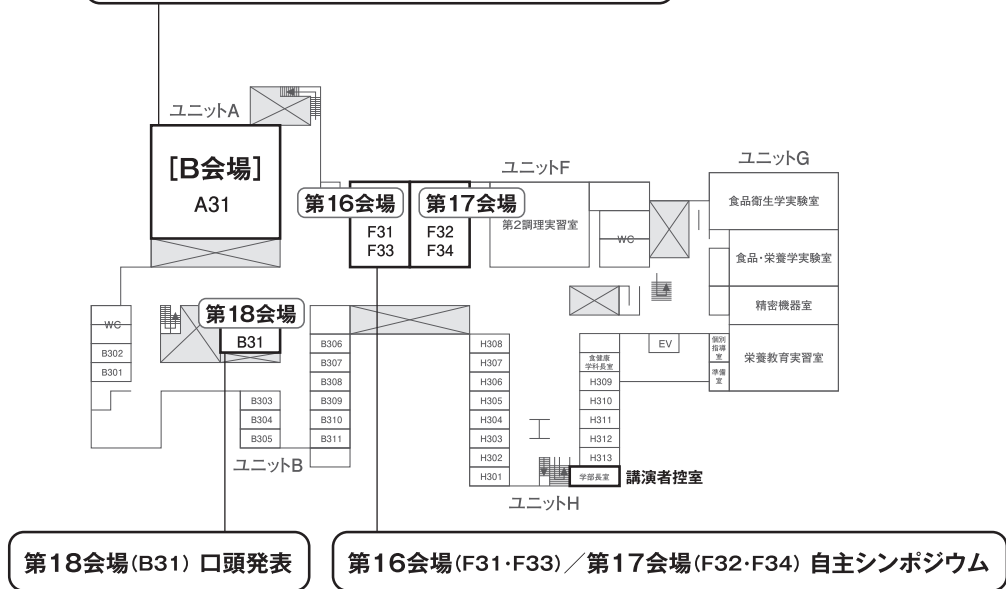
■ **5月10日(土)**
13:30~15:30 実行委員会企画 シンポジウムA
16:10~18:10 実行委員会企画 シンポジウムB

■ **5月11日(日)**
14:00~16:00 実行委員会企画 シンポジウムC

[B会場]A31教室

■ **5月10日(土)**
13:30~15:30 実行委員会企画 シンポジウムA
16:10~18:10 実行委員会企画 シンポジウムB

■ **5月11日(日)**
14:00~16:00 実行委員会企画 シンポジウムC



1. 大会参加者の方へ

1. 大会参加者の方へ

- ◆ 日本保育学会第78回大会は長野県立大学が担当校となり、対面開催にて実施いたします。
- ◆ 自主シンポジウム・口頭発表・ポスター発表のいずれについても、大会当日は概要説明、質疑応答、討議のみとなります。話題提供や発表は、動画もしくはポスターの形で、大会前にオンライン開催ページで公開されます。大会に参加される方は、必ず事前に論文集原稿や動画、ポスターに目を通した上で、当日の質疑応答や討論にご参加ください。なお、基調講演や学会企画、実行委員会企画については事前の動画公開はありません。

■大会参加登録

- ◆ 事前に参加登録をされていない方は、直前登録をしてください。
- ◆ 直前登録期間：2025年3月25日（火）～5月11日（日） 15時まで

【参加費】

参加区分	金額
大会参加費（会員・非会員） ※大会発表論文集（アクセス権）付	10,000 円
地域一般・大学生大会参加費 ※大会発表論文集（アクセス権）付	5,000 円

- ◆ 直前登録方法や参加費の支払い方法については、大会ホームページをご確認ください。
(<https://confit.atlas.jp/guide/event/hoiku78/top>)
- ◆ 今大会においては大会参加証（ネームカード）を、参加登録システムから事前にご自身でダウンロード・印刷し、大会当日に持参してください。
- ◆ 早期参加登録・直前参加登録ともに、領収書は参加登録画面よりログインして自身でダウンロードしてください。

■当日受付

- ◆ 大会当日は、大会参加証（ネームカード）に記載のQRコードを参加受付で提示してチェックインしてください。
- ◆ ネームホルダーは受付に準備してあります。

日付	開設時間	場所
5月10日（土）	8:45～18:30	1F ショールーム
5月11日（日）	8:30～16:45	

■オンライン開催ページ

- ◆ オンライン開催ページでは、プログラム、発表論文集、自主シンポジウム・口頭発表の動画、ポスター発表の資料を閲覧できます。
<https://confit.atlas.jp/guide/event/hoiku78/top>
- ◆ 閲覧期間：2025年4月17日（木）～5月11日（日）
- ◆ 参加登録をされた方には、オンライン開催ページにログインするための案内をメールにてお送りします。なお、ログインの際には、「オンライン参加に関するガイドライン」等の倫理規定について、必ずご確認ください。

- ◆ 自主シンポジウムと口頭発表の動画の再生には、動画配信サービス Vimeo を使用します。Vimeo のサポートするブラウザは以下のとおりです。

Chrome 60⁺、Firefox 60⁺、Microsoft Edge 79⁺、Safari 11⁺

■大会当日（質疑応答・討論への参加）について

【自主シンポジウム】

- ◆ 各会場には企画趣旨・話題提供などを行う登壇者が入室しております。司会者等企画者の進行に従って質疑応答や討論に参加してください。
- ◆ 各会場の収容人数を超えた場合は、入室できませんので予めご了承ください。

【口頭発表】

- ◆ 各会場には、座長と筆頭発表者が入室しております。座長の進行に従って質疑応答や討論に参加してください。
- ◆ 当日は、概要説明のみとなりますので、事前に動画を視聴のうえご参加ください。
- ◆ 各会場の収容人数を超えた場合は、入室できませんので予めご了承ください。

【ポスター発表】

- ◆ 発表説明責任時間中に、ポスター会場にて筆頭発表者等と参加者が議論を行います。座長の進行に従って質疑応答や討論に参加してください。
- ◆ 当日は、概要説明のみとなりますので、事前に資料を閲覧のうえご参加ください。

■注意事項

- ◆ オンライン開催ページに公開されている、自主シンポジウム・口頭発表の動画、ポスター発表の資料等全ての発表等の内容の写真撮影・動画撮影・音声録音・スクリーンショットは禁止いたします。
- ◆ 当日の基調講演、国際シンポジウム、学会・実行委員会企画シンポジウム、自主シンポジウム、研究発表（口頭発表、ポスター発表）の内容の写真撮影・動画撮影・音声録音は原則禁止いたします。なお、記録・報告のためにご自身の発表（他の発表や参加者が写っていない）を撮影する場合のみ許可は必要ありません。

■クローフ

日付	開設時間	場所
5月10日（土）	8：45～19：00	1F メディアプラザ
5月11日（日）	8：30～16：45	

■展示・販売

日付	開設時間	場所
5月10日(土)	10:00～17:00	BF アリーナ、2F キャンパスコモン
5月11日(日)	9:00～16:00	

■売店（弁当販売：事前予約制）

- ◆ 売店にて茶菓・飲料・文具等の購入が可能です。
- ◆ 弁当は、事前予約申込みのあった方のみが対象となります。
※弁当の事前予約申込みは2025年4月15日で締め切られています。

日付	開設時間	場所
5月10日(土)	10:00～15:00	1F 生協
5月11日(日)	10:00～15:00	

■飲食スペース等

- ◆ 飲食スペースとして食堂は常時ご利用可能です（営業はいたしません）。
- ◆ 1F キャンパスコモンにある机椅子のスペースは、飲食可能です。
- ◆ 講堂、教室内、2F と 3F のキャンパスコモンでの飲食はご遠慮ください。
- ◆ 大学構内は禁煙です。（喫煙スペースはございません。）

日付	開設時間	場所
5月10日(土)	9:00～17:00	1F 食堂、1F ショールーム、屋外スペース
5月11日(日)	9:00～16:00	

■一時保育

- ◆ 本大会では、有料で一時保育がございます。
- ◆ 原則的には、事前に予約申込みのあった方が対象になります。希望される方は、大会ホームページをご確認の上、お申込みください。

日付	開設時間	場所
5月10日(土)	9:00～18:40	1F ひろば、他
5月11日(日)	9:00～16:30	

■ゲスト Wi-Fi

- ◆ 当日、ゲスト用の SSID とパスワードを各教室付近に掲示する予定です。ただし、小規模校のため、大人数の利用には円滑に提供できない可能性もございます。予めご了承ください。
- ◆ 本学は Eduroam の参加機関です。ID をお持ちの方は、できるだけ、そちらでの接続をお願いいたします。

大会日程

5月10日(土)		
09:20～09:40	開会式	A会場
09:40～11:10	基調講演	A会場
11:10～12:30	社員総会・授与式	A会場
13:00～16:00	国際シンポジウム	A会場
13:00～14:50	口頭発表(K-A)	第1～5、18会場
13:00～14:30	自主シンポジウム(J-A)	第6～17会場
13:00～14:00	ポスター発表(P-A)	ポスター会場1、2
13:30～15:30	実行委員会企画シンポジウムA	B会場
14:50～16:20	自主シンポジウム(J-B)	第6～16会場
15:00～16:00	ポスター発表(P-B)	ポスター会場1、2
15:10～16:25	口頭発表(K-B)	第1～5会場
16:10～18:10	実行委員会企画シンポジウムB	B会場
16:30～18:30	組織検討委員会シンポジウム	A会場
16:30～17:30	ポスター発表(P-C)	ポスター会場1、2
16:40～18:30	口頭発表(K-C)	第1～5、18会場
16:40～18:10	自主シンポジウム(J-C)	第6～16会場

5月11日(日)		
09:00～10:30	口頭発表(K-D)	第1～5、18会場
09:00～10:30	自主シンポジウム(J-D)	第6～16会場
09:00～10:00	ポスター発表(P-D)	ポスター会場1、2
10:00～12:00	学会企画 編集常任委員会シンポジウム	A会場
10:45～12:15	口頭発表(K-E)	第1～5、18会場
10:45～12:15	自主シンポジウム(J-E)	第6～16会場
11:00～12:00	ポスター発表(P-E)	ポスター会場1、2
13:00～15:00	学会企画 課題研究委員会シンポジウム	A会場
14:00～16:00	実行委員会企画シンポジウムC	B会場
13:00～14:50	口頭発表(K-F)	第1～5、18会場
13:00～14:30	自主シンポジウム(J-F)	第6～16会場
13:00～14:00	ポスター発表(P-F)	ポスター会場1、2
14:45～16:15	自主シンポジウム(J-G)	第6～16会場
15:00～16:00	ポスター発表(P-G)	ポスター会場1、2

会場と発表区分【口頭発表】

【口頭発表】

5月10日（土）

会場	K-A (13:00-14:50)
第1会場	K-A-1 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など
第18会場	K-A-2 保育内容（保育内容総論・遊び）など
第3会場	K-A-3 保育制度・保育行財政など
第5会場	K-A-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 1
第4会場	K-A-5 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 1
第2会場	K-A-6 児童福祉・児童の人権など、その他

会場	K-C (16:40-18:30)
第1会場	K-C-1 乳児保育（0,1,2歳児保育）など
第18会場	K-C-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現） 1
第3会場	K-C-3 保育専門職の養成など 1
第5会場	K-C-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 2
第4会場	K-C-5 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 2
第2会場	K-C-6 幼保一体化・幼保小連携など

会場	K-B (15:10-16:25)
第1会場	K-B-1 保育マネジメントなど 1
第3会場	K-B-2 保育思想・保育理論・保育史など 1
第5会場	K-B-3 児童文化・児童文化財など
第4会場	K-B-4 保育環境・保育教材 1
第2会場	K-B-5 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど 1

5月11日（日）

会場	K-D (9:00-10:30)
第1会場	K-D-1 保育専門職の養成など 2
第18会場	K-D-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現） 2
第3会場	K-D-3 保育思想・保育理論・保育史など 2
第5会場	K-D-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 3
第4会場	K-D-5 教育計画・保育計画・指導計画・評価など、その他
第2会場	K-D-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など 4

会場	K-E (10:45-12:15)
第1会場	K-E-1 保育専門職の養成など 3
第18会場	K-E-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現） 3
第3会場	K-E-3 保育思想・保育理論・保育史など 3
第5会場	K-E-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 5
第4会場	K-E-5 保育環境・保育教材 2
第2会場	K-E-6 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど 2

会場	K-F (13:00-14:50)
第1会場	K-F-1 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など、その他 3
第18会場	K-F-2 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など
第3会場	K-F-3 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現） 4
第5会場	K-F-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 6
第4会場	K-F-5 保育マネジメントなど 2
第2会場	K-F-6 保育専門職の養成など 4

〈補足〉

発表数が4の場合は75分、5の場合は90分、6の場合は110分が在席時間になります。

【ポスター発表】

5月10日（土）

会場	P-A (13:00-14:00)
ポスター会場2 (アリーナ)	P-A-1 幼保一体化・幼保小連携など 1
ポスター会場2 (アリーナ)	P-A-2 幼保一体化・幼保小連携など 2
ポスター会場2 (アリーナ)	P-A-3 児童文化・児童文化財など
ポスター会場2 (アリーナ)	P-A-4 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-A-5 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現） 1
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-A-6 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現） 2

会場	P-C (16:30-17:30)
ポスター会場2 (アリーナ)	P-C-1 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など 1
ポスター会場2 (アリーナ)	P-C-2 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など 2
ポスター会場2 (アリーナ)	P-C-3 発達論・心身の発達など
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-C-4 保育思想・保育理論・保育史など、その他
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-C-5 保育マネジメントなど

会場	P-B (15:00-16:00)
ポスター会場2 (アリーナ)	P-B-1 保育者の資質能力・保育者の専門性など 1
ポスター会場2 (アリーナ)	P-B-2 保育者の資質能力・保育者の専門性など 2
ポスター会場2 (アリーナ)	P-B-3 保育専門職の養成など、その他 1
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-B-4 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現） 3
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-B-5 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現） 4

5月11日（日）

会場	P-D (9:00-10:00)
ポスター会場2 (アリーナ)	P-D-1 保育専門職の養成など 2
ポスター会場2 (アリーナ)	P-D-2 保育専門職の養成など、その他 3
ポスター会場2 (アリーナ)	P-D-3 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 1
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-D-4 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）、その他 5
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-D-5 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解） など

会場	P-F (13:00-14:00)
ポスター会場2 (アリーナ)	P-F-1 保育専門職の養成など 4
ポスター会場2 (アリーナ)	P-F-2 保育専門職の養成など 5
ポスター会場2 (アリーナ)	P-F-3 保育専門職の養成など 6
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-F-4 保育環境・保育教材 1
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-F-5 保育環境・保育教材 2

会場	P-E (11:00-12:00)
ポスター会場2 (アリーナ)	P-E-1 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 2
ポスター会場2 (アリーナ)	P-E-2 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 3
ポスター会場2 (アリーナ)	P-E-3 乳児保育（0,1,2 歳児保育） など、その他
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-E-4 教育計画・保育計画・指導計画・評価など、その他
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-E-5 保育内容（保育内容総論・遊び） など

会場	P-G (15:00-16:00)
ポスター会場2 (アリーナ)	P-G-1 保育者の資質能力・保育者の専門性など 3
ポスター会場2 (アリーナ)	P-G-2 保育者の資質能力・保育者の専門性など 4
ポスター会場2 (アリーナ)	P-G-3 保育者の資質能力・保育者の専門性など 5
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-G-4 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現） 6
ポスター会場1 (ラウンジホール)	P-G-5 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現） 7

【自主シンポジウム】

5月10日（土） 13:00～14:30

会場名	講演番号	テーマ
第6会場	J-A-1	ダイバーシティ・インクルージョン保育を進めるための人材育成・体制整備を図る園経営と今後の展望
第9会場	J-A-2	子どもの権利から保育士配置基準を考える～保護者・保育者はなぜ声をあげたのか？～
第10会場	J-A-3	インクルーシブな保育の立ち位置と可能性をめぐって
第11会場	J-A-4	「子どもの遊び『想像の世界』を生きる表現教育」 ～保育者養成における表現教育の今を問う～
第12会場	J-A-5	父親の乳幼児への語りかけ方について考えるーマザリーズの視点からー
第13会場	J-A-6	子どもの声からはじまる保育アセスメント：ドキュメンテーションを中心に
第14会場	J-A-7	睡眠教育・みんなくってなに？
第15会場	J-A-8	保育制度のナショナルミニマム／ローカルオプティマムの現状と保育者配置、労働条件と保育
第7会場	J-A-9	日本におけるアトリエリスタの保育実践 ー『レジヨ・エミリアにおけるアートと創造性』の翻訳を通じた対話からー
第8会場	J-A-10	幼児のデジタルリテラシーを育成する手法の検討
第16会場	J-A-11	医療的ケア児保育の実践と学びあい ー入園から就学までの育ちと保育者・看護職の学びー
第17会場	J-A-12	令和の日本型保育改革 ー藤森メソッドの試みー

5月10日（土） 14:50～16:20

会場名	講演番号	テーマ
第6会場	J-B-1	「背中の保育」から探る「日本型保育実践」の魅力：実践者と研究者の対話から
第9会場	J-B-2	子どもたちの「体験」が「学び」になるためには何が必要か？ ～教育ドキュメンテーション (pedagogical documentation) の役割と課題～
第10会場	J-B-3	地方都市での「気になる子」の保護者支援における養成校と保育現場の協働 ー筑豊地域における三つの実践報告をもとにしてー
第11会場	J-B-4	ラーニングストーリーを実習生が書く意味を問う：記録がもたらす子ども理解の新たな形
第12会場	J-B-5	「子どもをあらわすということ」を考える
第13会場	J-B-6	パネルシアターをどのように授業に取り入れるか ー保育者養成校における実践を通してー
第14会場	J-B-7	知育玩具のある保育の風景
第15会場	J-B-8	保育学生が人と関わりたいと思う授業づくり ー講義科目における意見交換のあり方ー
第7会場	J-B-9	0歳児保育にかかわる質の評価と展望
第8会場	J-B-10	発達障害のある子どもを含む集団保育への音楽療法 ー幼児期を臨界期とする感覚機能育成のための音楽の活用法ー
第16会場	J-B-11	インクルーシブな保育を継続し、深めていくために考えるべきこと

5月10日（土） 16:40～18:10

会場名	講演番号	テーマ
第6会場	J-C-1	自然災害と保育～いのちを守るためにできること～
第9会場	J-C-2	ろう教育におけるデフフッドの観点から「遊び保育」を考える
第10会場	J-C-3	「こども誰でも通園制度」の意義と地域における保育施設の役割—こどもの育ちに焦点をあてて
第11会場	J-C-4	ことばは、出来事（こと）の端（は） —「保育（こと）」を丸ごと語り合おう—
第12会場	J-C-5	トライアル・アンド・エラーから学ぶ質の向上を目指す保育マネジメント（4） ～保育実践とマネジメントの両義的方向性～
第13会場	J-C-6	感じ合う保育の省察に向けて
第14会場	J-C-7	乳幼児教育・保育のカリキュラム編成および指導計画の作成に関する養成教育の現在とこれから —子ども中心信念（child-centered beliefs）を観点として—
第15会場	J-C-8	学生・保育現場・養成校の3者におけるよりよい実習の在り方Ⅱ —共同体として学びを繋げるための具体的方策—
第7会場	J-C-9	多様性を尊重し一人ひとりが輝く保育を目指して（1） —安心して自己発揮し、共に育ちあうための保育者の役割—
第8会場	J-C-10	保育における子どもと音楽を考える
第16会場	J-C-11	認定こども園における2-3歳接続期の課題Ⅱ

5月11日（日） 9:00～10:30

会場名	講演番号	テーマ
第6会場	J-D-1	自律・自走型研修の開発—保育現場・行政・養成校による連携と協働—
第9会場	J-D-2	子どもの権利について考える —子どもの権利の歴史的変遷・日本国憲法との関係・こども家庭庁の実践—
第10会場	J-D-3	保育者の専門性研究と養成・現職教育の接合点を探る
第11会場	J-D-4	限られた保育スペースで実現する乳幼児の運動遊び—布製ボールを活用した新たな可能性—
第12会場	J-D-5	インクルーシブ保育・幼児教育における「カリキュラム・マネジメント」とは
第13会場	J-D-6	表現は指導するものか
第14会場	J-D-7	共に生きる —神様の愛を感じること—
第15会場	J-D-8	構成遊びにおける発達と保育 —実証的知見に基づいた検討—
第7会場	J-D-9	「それっておもしろいか？」 ～こどもの世界をご機嫌で語る保育者のまなざし～
第8会場	J-D-10	保育現場における「楽器」のあり方を問う
第16会場	J-D-11	保育関係者が対応に苦慮する保護者の特徴 ～実証研究および事例研究からの知見～

5月11日（日） 10:45～12:15

会場名	講演番号	テーマ
第6会場	J-E-1	子どもを育む木製玩具 ～デザイン・環境・保育における活用から考える～
第9会場	J-E-2	子どもの主体的なあそび、学び、育ちを支える園庭・校庭・まちの環境について考える 8 ～子どもと保育者（園）の小さな挑戦の積み重ねの機会の大切さを考える ―環境設定、安全性も踏まえて～
第10会場	J-E-3	ユーモアで遊ぶ・かかわる ―おとなが楽しむと、子どものセンスが光る―
第11会場	J-E-4	多文化の背景を持つ子どもと遊び ―インクルーシブな保育の実現に向けて
第12会場	J-E-5	保育カリキュラムが生成する倫理的価値 ―保育実践において「逸脱」を語るには―
第13会場	J-E-6	韓国における育ちあう多文化保育の実践
第14会場	J-E-7	地方におけるインクルーシブな保育の課題と展望
第15会場	J-E-8	非都市部における保育と子どもの発達の現状と課題 ―福岡県筑豊地方における3歳児から5歳児の縦断研究を通して―
第7会場	J-E-9	子ども主体の保育と安全③ ―低年齢児の主体的な遊びと安全について考える
第8会場	J-E-10	「保育事故」をなくすために（9）―「こども誰でも通園制度」で子どもの命は守れるか―
第16会場	J-E-11	保育者養成校における特別支援教育 ―授業実践から保育と特別支援教育との親和性を探る―

5月11日（日） 13:00～14:30

会場名	講演番号	テーマ
第6会場	J-F-1	ケアと学びの保育リーダーシップ―関係性の変容をもたらす実践アプローチ―
第9会場	J-F-2	子どもの権利に基づく保育実践を考える ―相模原市の取り組みより―
第10会場	J-F-3	「保育する身体」を問いなおす―子どもの人間学の視点から
第11会場	J-F-4	保育現場における子どもと家庭のアセスメントの理解を深めるための研修プログラムの構築と試行
第12会場	J-F-5	ペダゴジカル・ドキュメンテーション、なに？だれのため？なんのため？
第13会場	J-F-6	保育的事実の構築
第14会場	J-F-7	園内研修とマネジメントで保育現場はどう変わるか？
第15会場	J-F-8	保育の場で後輩と共に働くことで見えてくること
第7会場	J-F-9	遊びを通じた NOS（Nature of Science）の学びを探る ― 保育環境におけるモノやコトとの関わりから ―
第8会場	J-F-10	孫育ての現状と課題 ―子育て知識・世代間ギャップ・孫育てイメージからの検討―
第16会場	J-F-11	韓国における保育者養成の現状と課題 ― 保育と幼児教育の質の確保に向けた取り組み（2016年～2024年）―

5月11日(日) 14:45～16:15

会場名	講演番号	テーマ
第6会場	J-G-1	社会的子育てを育む環境を考える
第9会場	J-G-2	子どもを真ん中に保育を考えるⅤ ～子どもの「なる」姿をめぐる～
第10会場	J-G-3	位置測位システム活用の可能性を考える～保育の可視化と質の維持・向上をめざして～
第11会場	J-G-4	幼保小接続に取り組む保育者・教師の実践的思考
第12会場	J-G-5	幼児～児童期における学びが自覚化する教師の働きかけ
第13会場	J-G-6	コミュニティ再生における遊び心の持つ意味③ —大人の遊び心が育つ体験から考える—
第14会場	J-G-7	公立幼稚園における学びの継承—未来にむけて
第15会場	J-G-8	「愛と知の循環」の保育実践
第7会場	J-G-9	評価スケールと保育の質の向上：保育実践と組織の評価— ECERS/ITERS,PAS の可能性
第8会場	J-G-10	支え、繋ぎ、育む：日本のインクルーシブな保育への展望（4） —子ども理解を支える保育者のまなざし、かかわり、園内体制—
第16会場	J-G-11	対人関係の苦手な学生が保育専門職に就くために —保育現場への実態調査をもとにして—

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

2. 研究発表者・自主シンポジウム関係者の方へ

■大会発表について

- (1) 日本保育学会第78回大会は長野県立大学が担当校となり、大会は対面開催によって行われます。皆様が事前に作成された動画やポスターは4月17日（木）から大会参加者が視聴することができるようになっています。なお、大会当日は概要説明のみで質疑応答に入ります。
- (2) 予め「大会に参加される皆様へ」をご確認ください。
- (3) 各発表者は、「大会研究発表に関する規程」と『保育学研究倫理ガイドブック2023 子どもの幸せを願うすべての保育者と研究者のために』を熟読の上、ご発表ください。規程やガイドブックに記載の内容および、大会に関わる注意事項などが守られていない場合、発表後であっても発表が認められず、発表取り消しとなることがあります。

■自主シンポジウム

- ◆ 自主シンポジウムの時間は90分です。
- ◆ 筆頭企画者には、企画趣旨や話題提供等の動画を事前にオンライン開催ページにアップロードしていただきます。参加者は事前にその動画を視聴した上で当日の自主シンポジウムに参加します。大会当日は、各自主シンポジウムの90分間に、指定討論者の指定討論・話題提供者からの回答、参加者との討論等を行っていただきます。自主シンポジウムの開始時間になりましたら、筆頭企画者進行のもと、自主シンポジウムをスタートしてください。
- ◆ 事前の打ち合わせのための時間がないため、指定討論や参加者との討論等のための時間配分については大会前日までに筆頭企画者の責任のもと、全登壇者と済ませておいてください。

■口頭発表

(1) 口頭発表の座長の方へ

- ◆ ご担当セッション開始15～5分前までに、担当の会場へ入室してください。
- ◆ セッション開始の時間になりましたら、セッションをスタートしてください。
- ◆ 筆頭発表者は、事前に研究発表動画をオンライン開催ページにアップロードしています。参加者は事前にその動画を視聴した上で当日の口頭発表会場に参加します。大会当日は、研究発表に対する概要説明と質疑応答、討論を行います。
- ◆ 各研究発表は概要説明5分、質疑応答10分で、最後に全体討論を行います。時間厳守にご協力をお願いします。
- ◆ セッション開始前に、筆頭発表者が揃っているかどうかをご確認ください。
不在の筆頭発表者がいた場合は、大会の実行委員本部までご連絡ください。
- ◆ セッションは90分（5名）ですが、発表者数によって、在席時間が異なります。大会プログラムをご参考に全体討論の時間も確保ください。
- ◆ 本大会においても、例年通り2名の座長をお願いしております。座長のお二人におかれましては、セッション開始前に打ち合わせを行い、スムーズな進行にご協力をお願いします。

(2) 口頭発表の筆頭発表者の方へ

- ◆ セッション開始 15 ～ 5 分前までに、セッション会場へ入室してください。
- ◆ セッション開始前にセッション会場での受付（出席確認）を済ませ、その会場にて待機してください。セッション終了前に退席することはできません。
- ◆ 各研究発表は概要説明 5 分、討論 10 分で、最後に全体討論を行います。時間厳守にご協力をお願いします。
- ◆ 大会当日は、3 月 26 日までに提出いただいた発表資料の動画をもとに概要説明を述べてください。
- ◆ 筆頭発表者変更や大会当日の欠席は、運営事務局（hoiku78@pcojapan.jp）へメールでご連絡ください。

■ポスター発表

(1) ポスター発表の座長の方へ

- ◆ ご担当セッション開始 15 ～ 5 分前までに、担当の会場へ入室してください。
- ◆ 各セッションは 60 分間です。発表者の在席時間は 30 分間です。ポスターの掲示場所と、前半在席か後半在席かは、別途示します。
- ◆ セッション開始、交代、終了は、実行委員会が指示をします。
- ◆ 筆頭発表者は、事前にポスター資料をオンライン開催ページにアップロードしています。参加者は事前にその資料を閲覧した上で当日のポスター発表会場に参加します。大会当日は、研究発表に対する概要説明とグループ討論、個別討論を行います。
- ◆ 各研究発表は、概要説明 3 分、質疑応答 27 分（グループ討論 12 分、個別討論 15 分）を目安に行います。
- ◆ セッション開始前に、筆頭発表者が揃っているかどうかをご確認ください。不在の筆頭発表者がいた場合は、大会の実行委員本部までご連絡ください。
- ◆ 各発表に対する質疑を適宜、お願いいたします。
- ◆ 本大会においても、例年通り 2 名の座長をお願いしております。座長のお二人におかれましては、セッション開始前に打ち合わせを行い、スムーズな進行にご協力をお願いします。

(2) ポスター発表の発表者の方へ

- ◆ セッション開始 15 ～ 5 分前までに、ポスター発表会場へ入室してください。
- ◆ セッション開始前にポスター発表会場での受付（出席確認）を済ませ、所定の場所にポスターを掲示し、ご自身のポスター前に待機してください。セッション終了前に退席することはできません。
- ◆ 各セッションは 60 分間です。発表者の在席時間は 30 分間です。ポスターの掲示場所と、前半在席か後半在席かは、別途示します。
- ◆ セッション開始、交代、終了は、実行委員会が指示をします。
- ◆ 各研究発表は、概要説明 3 分、質疑応答 27 分（グループ討論 12 分、個別討論 15 分）を目安に進めてください。
- ◆ 大会当日は、3 月 26 日までにオンライン開催ページにアップロードしていただいたポスター資料（1 枚）を、A3 以上 A0（841 × 1189mm）以内に拡大していただき、ポスター会場へ持参してください。
- ◆ 筆頭発表者変更や大会当日の欠席は、運営事務局（hoiku78@pcojapan.jp）へメールでご連絡ください。

■発表のための機器使用（口頭発表・自主シンポジウム）

＜発表データ持込みの場合＞

- ◆ 発表するセッション開始 15 ～ 5 分前までに各発表会場で機器の設定（USB フラッシュメモリの準備等）を済ませてください。
- ◆ 口頭発表・自主シンポジウムでは、会場に設置しているノート PC とプロジェクター等を使用してください。各口頭発表会場に設置してある機器は Windows ノート PC（Windows11）です。PowerPoint2024 がインストールされています。動画再生ソフトは、Windows Media Player 12 です。
- ◆ 発表者は USB フラッシュメモリを使用してください。なお、使用するメディアやファイルは事前にウイルスチェックを済ませてください。レーザーポインターやマウスは各会場に常設してあります。
- ◆ 発表の際は発表者自身で PC の操作をしてください。会場にいるスタッフは操作の手伝いはできません。発表時には機器の操作に関する時間も含まれます。機器のメンテナンスを事前に実施しますが、機器のトラブルが絶対に生じないということはありませんので予めご了承ください。

＜PC 本体持込みによる発表の場合＞

- ◆ Macintosh で作成したものと動画・音声データを含む場合は、必ずご自身の PC 本体をお持込みください。
- ◆ 会場で用意するプロジェクターへの外部出力ケーブルコネクタの形状は、「HDMI」です。この出力端子を持つ PC をご用意いただくか、この形状に変換するコネクタを必要とする場合には必ずご持参ください。ミニ D-sub15 ピンは基本使用不可となります。持込 PC にて HDMI 端子が無い場合は、変換コネクタをご持参ください。
- ◆ お持ちいただく PC から外部モニターに正しく出力されるか事前に動作確認を行ってください。
- ◆ 動画データ使用の場合は、Windows Media Player で再生可能であるものに限定いたします。

大会研究発表に関する規程

(本規程の目的)

- 第1条 本規程は、日本保育学会の大会において会員が研究発表を適正に行い、正式発表と認定されるための条件および規則を定める。
- 2 本規程は、対面開催、オンライン開催を問わず、適用される。

(発表申し込みとその受理)

- 第2条 大会での発表を申し込む者は、正会員であり、かつ発表前年度の9月末日までにその年度の年会費を納入済でなければならない。ただし、本学会との学術交流協定に基づき発表する者はその限りではない。
- 2 大会で発表する者は、以下の条件を満たさなければならない。
- (1) 大会で発表する者は、筆頭・連名を問わず、大会実行委員会が指定する期日までに発表申し込みをしなければならない。
- (2) 大会で発表する者は、筆頭・連名を問わず、大会参加費を大会実行委員会が指定する期日までに納入しなければならない。ただし、特別配慮すべき事情がある場合は、事前に大会実行委員会に申し出て、その許可を得ることにより、期日後に納入することができる。
- (3) 筆頭発表者は大会実行委員会が指定する期日までに論文集の原稿を提出しなければならない。
- (4) 上記の条件が満たされない場合は、発表申し込みは受理されない。また、受理が取り消される。

(発表研究の条件)

- 第3条 発表研究は、大会での発表時において未発表であるものに限る。すでに印刷製本して公表された研究（単行本、学会誌、紀要〔大学、研究会、園等〕、雑誌等に発表されたもの）は、大会において発表することはできない。
- 2 発表研究は、本学会倫理綱領に基づいていなければならない。発表者はこれを踏まえて、発表者自身の責任において発表する。

(発表に関する制約)

- 第4条 発表は、1人1回に限る。ただし、連名発表者となる場合は、筆頭発表を含めて3発表まで認められる。
- 2 同一研究については、2発表までに限る。ただし、タイトルの一部を変えても2発表を超える発表はできない。また、同一研究グループ内で発表者を分散させるなどして、複数の発表をする場合も、実質上同一研究グループによる研究である限り、2発表を超える発表はできない。
- 3 1発表は筆頭発表者を含め、10名を上限とする。

(発表の成立条件)

- 第5条 ポスター発表は、「資料の事前投稿」「質疑応答への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められる。また、発表者は「発表説明責任時間」の間、自分のポスター掲示場所に在席していなければならない。かつ、ポスターは所定の時間掲示されなければならない。
- 2 口頭発表は、「動画の事前投稿」「討論への参加」「論文集への発表論文掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められる。また、発表者は分科会終了前に退席することはできない。
- 3 発表者は、分科会開始前に分科会会場での受付を済ませ、その会場にて待機しなければならない。
- 4 研究発表の際、筆頭発表者は必ず分科会に出席しなければならない。
- 5 筆頭発表者がやむをえない理由で発表ができなくなった場合、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者（他の発表で筆頭発表者となっていない者）が筆頭発表者となることができる（筆頭発表者の交代）。座長への届け出での取り下げおよび交代は無効である。

(日本語以外で発表を希望する者の発表)

第6条 正会員で、日本語以外で発表を希望する発表者は、本人の責任で日本語への通訳者を付ける。通訳者は非会員でも良いが、発表者の責任で実行委員会へ通訳者を届け出る。

なお、英語の発表はポスターのみ可とする。

- 2 正会員で、日本語以外で発表を希望する発表者が通訳者を付ける場合も、発表時間は通常通りとする。
- 3 学術交流協定に基づく発表者が通訳者を付ける場合には、口頭発表における発表時間を通常の2倍以内とする。
- 4 通訳者は分科会終了まで、発表者と同席し、通訳の任に当たらなければならない。また、通訳者を必要とする発表者は、このことについて事前に通訳者に了解を取らなければならない。

(研究発表の認定と取り消し)

第7条 すべての研究発表の終了後、研究奨励賞推薦委員会がすべての発表について本規程を遵守しているか否かを審査する。審査の結果、本規程を遵守していると認められた発表のみ、理事会の議を経て正式発表と認定する。本規程に反することが確認された発表は「発表取り消し」とされる。

- 2 筆頭発表者が無断で欠席した場合は「発表取り消し」とされる。事前に欠席を届け出た場合は「発表取り下げ」となる。

(改廃)

第8条 本規程の改廃は理事会が行う。

附則 本規程は、平成22年4月1日から施行する。

一部 平成27年9月26日改正

一部 平成30年9月1日改正

一部 平成31年2月2日改正

一部 平成31年4月13日改正

一部 令和5(2023)年10月3日改正

一般社団法人 日本保育学会研究奨励賞 規程

(目的)

第1条 一般社団法人日本保育学会研究奨励賞（以下、研究奨励賞）は、「将来を嘱望される研究者を育てること」および「独創的な研究を育てること」を目的とする。

(賞の構成)

第2条 研究奨励賞は、「大会」において発表された研究（口頭発表・ポスター発表）を対象とする「大会発表部門」と『保育学研究』において発表された研究を対象とする「論文部門」の2部門からなる。

(授賞対象)

第3条 研究奨励賞は、本学会会員が「大会」において発表した研究および当該年度の『保育学研究』において発表した研究の中から、保育学の発展および保育実践の向上にとって非常に有意義であると思われる、今後の発展が期待できる優れた研究に対して授与する。

(授賞対象外の研究業績)

第4条 本学会役員（会長、副会長、理事、評議員、監事、推薦委員）の研究および役員の参加した研究は、選考対象外とする。

2. 教育研究機関等において教授職または、かつてその職にあった者の研究およびその者が参加した研究は、選考対象外とする。
3. 過去において研究奨励賞（大会発表部門）を受賞した事がある会員およびその会員を含むグループの研究は、研究奨励賞（大会発表部門）の選考対象外とする。また、過去において研究奨励賞（論文部門）を受賞したことのある会員およびその会員を含むグループの研究は、研究奨励賞（論文部門）の選考対象外とする。
4. 「大会発表部門」においては、第6条に規定される推薦委員会により推薦されながら受賞できなかった研究で、引き続き研究が継続されている場合は、次年度以降も選考対象となりうる。

(賞の授与)

第5条 「大会発表部門」に関しては、大会ごとに研究3件までに対して授与する。但し、適当な研究がない場合はそのかぎりではない。

2. 「論文部門」に関しては、同一年度の『保育学研究』に発表された研究の中から、年度ごとに研究2件までに対して授与する。但し、適当な研究がない場合はそのかぎりではない。
3. 研究奨励賞の授与に当たっては、賞状および副賞を授与する。
4. 授賞は、授賞研究が発表された年度の次年度の大会での授賞式において行う。

(大会発表部門の選考)

第6条 「大会発表部門」の選考においては、「研究奨励賞推薦委員会」（以下、推薦委員会）が授賞対象と考えられる研究を推薦し、推薦された研究の中から、「研究奨励賞選考委員会（大会発表部門）」（以下、選考委員会）が授賞候補とする研究を選定し、理事会において決定する。

2. 推薦委員会は、大会ごとに組織し、会長が委員長となり、副会長、理事、大会実行委員長および理事会で指名された本学会の役員と会員をもって構成する。
3. 選考委員会は、大会ごとに組織し、委員は5名とし、理事および評議員をもって構成する。但し、必要のある場合は、理事会で選定された本学会の会員も委員とすることができる。
4. 選考方法（推薦方法および選定方法）については別に定める。

(論文部門の選考)

第7条 「論文部門」の選考においては、当該年度の『保育学研究』に発表された研究（論文）の中から、「研究奨励賞選考委員会（論文部門）」（以下、選考委員会）が授賞候補とする研究を選定し、理事会において決定する。

2. 選考委員会は、年度ごとに組織し、委員は5名とし、理事および評議員をもって構成する。但し、必要のある場合は、理事会で選定された本学会の会員も委員とすることができる。また、編集常任委員は当委員を兼ねることはできない。
3. 選考方法（選考方法）については別に定める。

(賞の基金)

第8条 研究奨励賞の基金については、別に内規を定める。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、学会事務局員の協力を得て行う。

(改廃)

第10条 本規程の改廃は、理事会が行う。

附則 本規程は、平成18年4月1日から施行する。
但し、本規程に基づく選考は平成19年度より実施する。

一部 平成22年10月2日改正

一部 平成25年4月13日改正

一部 平成30年2月10日改正

一部 令和6（2024）年2月24日改正

第 78 回大会日本保育学会発表資料作成におけるガイドライン (引用・著作権等に関する事項)

オンラインによる発表（オンライン資料公開）は著作権法上の「公衆送信権」（著作権法第 23 条）に抵触すると考えられることをふまえ、当法人では、オンライン資料公開ガイドライン（以下「本ガイドライン」）を公表することとしました。発表者におかれましては、本ガイドラインを指針とし、発表資料（以下「コンテンツ」）をご準備ください。

なお、本ガイドラインは、著作権に関する一切の問題が生じないことを保障するものではありません。コンテンツの著作権は、発表者に帰属しますので、当コンテンツが第三者の権利や利益を侵害した場合、発表者が一切の責任を負うことになりますのでご注意ください。

1. 引用する場合は、次の要件を遵守すること

- ① 引用物がすでに公表された著作物であること
- ② 引用部分と他の部分を明確に区分すること
- ③ 自らの著作部分が「主」で引用部分は「従」であること
- ④ 慣行に従い出典の明示をすること

2. 写真の掲載を原則禁止すること※

- ① 写真を掲載する場合は本人や保護者の掲載許可をとること
- ② 発表者自身が撮影した写真を使用すること

3. 音楽は権利者の承諾なく無断で使用しないこと※

音楽を使用する場合には、関係する著作権及び著作隣接権の権利者から必要な許諾をすべて得ておくこと

4. 図表を引用する場合は、以下の点に留意すること※

出版社が図表の著作権を有している場合があるため、著作者だけでなく出版社の許諾が必要となるかどうか事前に確認すること

5. 出版物の表紙や絵を使用する場合、出版社の指定する条件に従い使用すること

*インターネット上で「著作権フリー」として公開されている場合であっても、著作権、著作隣接権の許諾が不明な場合が散見されるため、使用しないこと。

一般社団法人日本保育学会 オンライン資料公開に関するガイドライン

一般社団法人日本保育学会第78回大会（以下「本大会」といいます。）は、対面開催ですがオンラインで動画・ポスター資料を公開いたします。

参加される皆様（以下「参加者」といいます。）におかれましては、本ガイドラインを遵守いただきますようお願いいたします。

なお、本ガイドラインの不遵守によって発生したいかなるトラブルについても、当法人は責任を負いかねますのでご了承ください。

1. 閲覧方法

参加者は、閲覧期間内に、本大会特設サイトに掲載される各発表者の発表資料を閲覧することができます。

発表者への質問がある場合には、本大会特設サイトにコメントを投稿することができますが、すべてのコメントに発表者から回答されるわけではありませんのでご了承ください。

また、人権侵害等の問題のあるコメントは本大会実行委員会の判断で削除される場合がありますので、ご注意ください。

2. 発表内容を無断で複製・録音しないこと

本大会における各発表者の発表内容（発表者作成の発表資料を含む。）に関する著作権については、原則として当該発表者に帰属します。

したがって、参加者は、本大会特設ページに公開された各発表者の発表内容その他一切の資料（画面キャプチャを含む）を、無断で録画、録音、保存、再配布することを禁止いたします。自己使用目的であっても同様です。

3. その他禁止事項

- ・当法人から付与された本大会特設サイトへのアクセスパスワード・IDを他人と共有・他人へ譲渡すること
- ・本大会の運営を妨げる行為
- ・公序良俗に反する行為、またはそのおそれのある行為
- ・その他法律、法令に反する行為、またはそのおそれのある行為
- ・その当法人が不適当・不適切と判断した行為

3. 講演・シンポジウム

保育実践の質感を問う —保育の心もちの探究へ—

講演者 秋田喜代美(学習院大学)

1. 保育実践の「質感」を問う

今回の大会テーマは、「保育と学びのテクスチャー」、つまり「保育の質感」である。筆者は、保育の質の向上を唱え、東大 CEDEP において保育の質向上やそのための政策の在り方を問うことにこの 15 年ほどチームで取り組んできた。保育の質の尺度としての「保育プロセスの質」評価スケールや「体を動かす遊びのための環境の質」評価スケールを翻訳したり、国際的な保育の質評価の在り方を調査研究してきた。また海外の研究が室内を中心に行っているのに対して、日本では園庭の質ということを考えることが必要と考え、全国園庭調査等も仲間と行ってきた。元来医療や福祉サービス領域で語られてきた「質」という概念を公教育や保育に入れることや、その質を第三者が評価することに対して、研究として意義や重要性を認識しつつも、保育を捉えるまなざしとして、「質」という捉え方に抵抗感を感じつつ過ごしてきた。15 年前に大事だったことも今後 10 年先の日本を考えたら、これからはさらに考えるべき大事なことは違うだろうとおもえる。それは、保育は各地域に根差し、子どもや保育者、保護者などその園の保育に関わる人々によって、内側から築かれ、常に協働で対話し開かれて更新されていく文化実践だからである。地域の在りよう、文脈や関与する人々とともにいかにあるかが問われると考えるからである。構造の質が政策課題として重要なのは言うまでもない。しかし、そこにおける各地域の地勢や自然とともにある園のたたずまいや、遊びや暮らしの在り方をとらえる言葉は、客観的でメタ化された「質」という語ではなく、感覚や感性に響く「質感」ではないだろうか。私にとっては、保育実践の質感、保育環境の質感を園児や保育者と共に味わい大事にしていく丁寧な営みや探究が日本の保育のこれからにとって一層大事なと考えている。均質化された指標や効率化、経済的価値では語れない文化的営みとしてである。倉橋惣三の「子どもの心もち」の文を受けて、筆者が「保育の心もち」として取り上げてきた事柄は、質感を捉え問うものでもあった。

『質感科学ハンドブック』(2025、東京大学出版会 P 1) では「私たちが日々の生活の中で感じる世界の豊かさは、そのような多様な質感を感じ取ることで生み出されています。それだけではなく、質感を感じ取る私たちの能力は、日常生活を快適にそして健全に過ごすうえでの欠くことのできないものです」と述べられている。日々の園の暮らしの豊かさを捉えるためには、子どもの目線から、保育者や保護者の目線から、さらに地域コミュニティの人々の目線からこの質感を考えていくことが求められている。またそれは文化的なものであり、歴史の中で質感を考えることの重要性も指摘されている。工業化以前の「ものづくり」は近代以降の工業化社会の中で「モノづくり」へと変化してきた。保育においても同様の傾向はないだろうか。私たちは五感という身体感覚をもって、擬音語や擬態語、「オノマトペ」等でもって、「しっとり」とか「イキイキ」「わくわく」などを保育の中で感知してきたのではなだらうか。

それは現状を肯定するだけではなく、よりこうありたい、子どもがこうなってほしいという願いやおもいをもってその質感を希求し問うて来ていると園内研修等に立ち会って思う。そして、時間と共に園や地域の歴史と共に、質感は保育文化を創り、また歩みと共に変化してきているとも感じる。

本講演では、私自身が子どもや保育と出会い感じた保育の風景、地域により園によって独自のかけがえのなさと感じてきた質感を事例を通して紹介させていただければと思う。各地域で質感を大事に長年関わっている中で、保育者の創意工夫によって保育は変化していく。その様子を一緒に考え、その中に保育の未来への希望を問いたいと思う。子どものより生き生きとした遊び込む姿、浸りきる姿はいかにして生まれていくのか。そこには、園の中で多様な出会いや語り合いが生まれている。地域に開かれ、他者にひらかれ保育者もまた日々の保育を問い直している。その姿やありようを、あらためて環境を通しての保・教育を支える質感を感が得たい。互いに園や地域の未来を夢見、語り合うからこそそれは実現していく。

2. 「保育・教育のコモンズ」としての地域に根差す園の知とネットワーク

しかし一方で、少子化、過疎化は待ったなしの中で、保育政策が大きく動いている。その中で、特に公立の幼稚園や保育所が自治体の政策によって閉園を余儀なくされている。今私たちが問わなければならないことは、保育・教育は、地域の公共財・共有財であり、それをいかにして持続可能なものとしていくのかということであるだろう。それは公立か私立・民営かという運営や施設類型の議論ではなく、保育・教育の公共財・共有財として、保育の場は地域においていかにあったらよいのか、持続可能でものとなるのかという、Educational Commons (Giudici, 2023 in “The Role of the Pedagogista in Reggio Emilia”) についての問いであるだろう。地域コミュニティでの異質で多様な人々がいかにして公共の知恵や営みを自分たちの手で創り出し、ウェルビーイング向上に貢献する動きを生み出していくのか。こどもの権利の保障、こどもまん中社会の実現という言葉の奥にある、今問うべき難題は何かを考えたい。自治体独自の取り組み、またその意義や価値をいかにして可視化するのか、筆者自身が10年、15年と取り組んできた自治体やプロジェクト、架け橋プログラム等から考えてみることで、「保育・教育コモンズ」の在り方を考えたい。質感を感じるような実践から、それらを支える園や地域コミュニティ・自治体の政策、さらにその意味や価値を社会や政策につなげていく試みはいかにあったらよいのか。私には答えはなく問いがあるのみであるが、発達保育実践政策学の挑戦に具体的にお話しできたらと思う。

プロフィール

秋田喜代美（あきたきよみ）



<略歴> 東京大学文学部卒業、銀行員・専業主婦を経て、東京大学教育学部学士入学。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士（教育学）。東京大学教育学部助手、立教大学文学部講師・助教授を経て東京大学大学院教育学研究科助教授、教授。東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター設立初代センター長。同教育学研究科長・教育学部長。2021年より学習院大学教授、東京大学名誉教授。

<専門> 保育学、学校教育学、発達心理学、教育心理学。

<社会的活動> 現在、こども家庭庁こども家庭審議会会長および同基本政策部会部会長、こどもの育ち部会部会長、こどもこそだて支援分科会部会長、こども誰でも通園制度検討委員会座長、内閣府全世代型社会保障構築会議委員。文部科学省中央教育審議会委員、初等中等教育分科会委員、同教員養成部会部会長、同教育課程部会副部会長、教育課程企画特別会副座長。国立教育政策研究所幼児教育研究センター上席フェロー、東京都こども未来会議座長。独立行政法人青少年教育振興機構絵本専門士委員会会長。

<学会活動> 日本保育学会第7代（2009-2016）、第9代（2021-2024.5）会長。日本発達心理学会第4代表理事（2022.3-2024.3）。日本読書学会第19代会会長（2011-2014）

<近著等>

秋田喜代美（編著）2024『「はじめの100か月の育ちビジョン」今、保育者に求められることは？』チャイルド本社

秋田 喜代美・松本理寿輝（著、監修）、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（編著）2024『遊び・学びを深める日本のプロジェクト保育：協働探究への誘い』中央法規出版

秋田喜代美（著）2023『研修アドバイザーと共に創る 新しい園内研修のかたち』フレーベル館

秋田喜代美・小田豊（編著）上田敏丈・門田理世・鈴木正敏・中坪史典・野口隆子・箕輪潤子・椋田善之・森暢子・淀川裕美 2023『園内研修でもっと豊かな園づくり：学びが広がる・深まる』中央法規出版

国際シンポジウム

Digitalization and more-than-human thinking in ECEC

— What is Finland aiming for? —

「保育・幼児教育におけるデジタル化とモア・ザン・ヒューマン」人間を越えた思考 —フィンランドは何を目指すのか—

企 画:	国際交流委員会・OMEP 日本委員会
講 演:	サラ・シントネン (Sara Sintonen、トゥルク大学)
指定討論:	亀山 秀郎 (認定こども園七松幼稚園) 楠見 友輔 (信州大学) 中田 麗子 (長野短期大学)
総括討論:	無藤 隆 (白梅学園大学・国際交流委員会)
司 会:	前田 泰弘 (長野県立大学・第78回大会実行委員会)
趣旨説明・通訳:	匝瑳 岳美 (長野県立大学・第78回大会実行委員会)
通 訳:	鈴木 正敏 (兵庫教育大学大学院)

1 企画趣旨

本邦の保育・幼児教育での ICT 活用の取り組みに対する参考資料とすべく、既に実践的な取り組みを行っているフィンランドの保育・幼児教育における ICT 活用の実際を紹介する。具体的には、①フィンランドでのカリキュラムレベルでの ICT 活用の位置づけや、②特に教材としての保育・幼児教育実践での先駆的な活用事例の紹介を基に、日本の保育実践での ICT 活用の可能性や展望などについて検討をしたい。

フィンランドでは、2016年に示された ECEC のナショナル・コアカリキュラムの中に、コンペンテンス育成の一領域として ICT 能力が盛り込まれ、公立・私立を問わず ECEC 施設で活動・教材ツールとして ICT が導入された。そしてその活用が進む中、大学等の研究機関でも就学前教育における ICT 教育や教材の開発が行われている。また、2021年現在、フィンランドでは労働力人口に占める ICT 分野の割合が他の EU 諸国に比べ高く、今後の新しい雇用創出の可能性が高いといった知見が OECD から発表されていることから、教育界のみならず、フィンランドでは ICT が興隆していることが分かる。

こうした実情を踏まえ、本シンポジウムでは講演の演者として、フィンランドから国立トゥルク大学教授のサラ・シントネン (Sara Sintonen) 氏を招へいする。同氏からは、保育・幼児教育における ICT 活用とメディア教育の実際について講演を受ける。具体的な展開としては、同氏の講演から、①ポストヒューマン理論から見た幼児保育・教育におけるデジタル化と ICT 活用に関して、②フィンランドの現状はどのようなものか、③フィンランドの ECEC は保育・教育政策において何をを目指すのか、④フィンランドの園での実際の取り組みについて聴く。それを基に、本邦での保育・幼児教育への ICT の導入促進に向けた課題を議論する機会としたいと考えている。

2 講演

「保育・幼児教育におけるデジタル化とモア・ザン・ヒューマン」人間を越えた思考 —フィンランドは何を目指すのか—

サラ・シントネン

保育・幼児教育におけるデジタルデバイスの活用は、子どもの学びをどのように支援していくのか？本講演では、フィンランドの保育・幼児教育におけるデジタル化の状況を概観し、子どもの育ちと学びの両方の観点からその重要性を考察する。講演の前半では、フィンランドで現在行われているデジタル

ゼーションに関する全国規模の実態調査を話題にする。この調査は保育・幼児教育において利用可能なデバイスやICT機器の教育的利活用の実態、園経営・管理への利用、将来予想されるニーズなどの観点から進められている。後半では、モア・ザン・ヒューマン、すなわち、人間中心の共同体を越えた人間以上という広い視点から、現代における保育・教育の方向性を考える。人間中心を超えた視点から「人間の立場」を考えた場合、子どもが自らの成長と発達に最適な基盤をどのように身につけていけるのか、また、その時デジタルテクノロジーはどこに位置するのか。本講演では、これらの点について、自身が現在行っている研究とフィンランドの幼児教育・保育者養成カリキュラムの開発の現状から話をしていく。

PROFILE

サラ・シントネン Sara Sintonen

トゥルク大学 教育学部 保育者養成学科 教授・学科長

同氏は、フィンランドにおける幼児教育・保育者養成カリキュラムの開発だけでなく、研究者としてさまざまな研究プロジェクトや研究コミュニティを主導し、国際的学会誌や書籍等に多数の学術論文を発表している。現在進行中の民族誌学分野での調査では、子どもと森の関係を研究し、保育・幼児教育におけるICT活用の現状と重要性を検討した。また、保育・幼児教育の出発点としてポストヒューマン的思考を育成することに関心を持っている。



3 指定討論

(1) フィンランドから学びたい幼児教育におけるICT活用で育む、幼児、保育者のデジタルリテラシー

亀山 秀郎

幼稚園教育要領等において、ICT活用については、幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピューターなど情報機器を活用する際には、園生活では得難い体験を補完する等、幼児の体験との関連を考慮することとされている。本園は文部科学省の委託調査研究を4年連続受ける中、幼児の体験を豊かにし、遊びを深めるICT活用の実践をした。その実践から、幼児の情報収集、対話、探究する過程を通して、ICT活用が体験と体験を繋げる「のり」、創造性を生み出す「はさみ」になりうると考える。一方で、ICTを扱う実践者の育成については、機器の整備も含めて追いつけていない現状がある。

OECDのStarting Strong VIIでは、フィンランド、日本を含めた各国の幼児教育におけるICTに対する取組について、デジタルリテラシーの育成が挙げられている。また国内の実践には、ICT活用で幼児と共に大人に対するデジタル・シティズンシップの視点も必要と考える。今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会最終報告の現代的諸課題にもICT活用が挙げられる中、今後の日本の幼児教育における、より良いICT活用や実践で育むべき、デジタルリテラシーについて考えたい。

(2) 人間はデジタルなモア・ザン・ヒューマンとの自立共生的な関係を築けるのか？

楠見 友輔・中田 麗子

ロージ・ブライドッティは、ポスト人文主義(Post-Humanism)とポスト人間中心主義(Post-Anthropocentrism)という観点から、ポストヒューマンの哲学の意義を主張している。この発想に基づく、ポストヒューマンの教育は、社会の不正義の克服に関心を持ち、非人間を含む多様な存在を歓迎することで新たな世界の創造に向かう実践と理論である必要がある。ここで懸念されるのは、デジタルな他者の道具的使用が、慣習的なヒューマンイズムを強化することと、幼児と他の物や人を含む他者との関係を切断してしまうことである。私たちはどのようにして、イヴァン・イリイチが述べるような自立共生的な関係を、デジタルな他者との間で築くことができるのか。

本発表では、この可能性を探るために、信州の保育・幼児教育における自然を生かした実践の事例を取り上げる。信州は山に囲まれた内陸地域である。自然や多様な動植物と共生する環境が広がっており、県民の平均健康寿命は世界一を誇る。フィンランド含む世界と地球環境を共有しつつ、信州という特異な土地における子どもの生成変化を見ることで、幼児教育におけるモア・ザン・ヒューマンの視点の可能性を探る。

保育者養成における表現活動に関する学び —表現過程の充実と成果の両立をどう生み出すか—

企 画： 第78回大会実行委員会
話題提供： 花輪 充（東京家政大学）
今川 恭子（聖心女子大学）
田澤 里喜（玉川大学）
司会・趣旨説明： 山本 直樹（長野県立大学）

1 企画趣旨

保育を考えるうえで欠かせないものの一つに表現がある。それは、子どもの主体性の源であり、自分らしく生きるためのエネルギーを生むものである。特に、子どもの表現に関わる際には、表現活動としての成果を求めるよりも、まず、その過程の中で充実感を味わうことが大前提と言われている。

一方、保育者養成校に入学した学生に改めて表現の学びを指導する際にも、表現過程の充実が前提になることは変わらない。しかしながら、学生がいずれ子どもを指導する立場になるならば、表現過程の充実だけでなく、その成果の充実も合わせて求められるのではないかと。なぜならば、子どもが自らを表現することにこだわりをもつようになるには、側にいる大人が表現活動の人的環境のモデルとして、子どもを魅了するような成果を自在に発揮できることが望ましいと考えられるためである。もちろん、保育者養成校での学習内容は、「教職課程コアカリキュラム」などの指針をふまえて、各養成校の事情によって決められる。そのため、それを検討する余地はあまりないのかもしれないが、それでも、我々は学生の表現力をどう育成すべきなのか、その学びをどう導けば良いかなどを考え続け、共有することに意味を見いだせよう。

そこで、本企画では、保育現場での実践的な研究経験も豊かで、かつ、学生に対する指導経験も豊富な話題提供者と共に、学生の学びとしての表現過程の充実と成果の両立をどう生み出すかをテーマに、今後の保育者養成における表現活動に関する学びについて考えていきたい。

2 話題提供

（1）子どもの表現を子どもの視点から見る目をもつ。その手立てとは？

花輪 充

「子どもの表現に関わる場合には、表現活動としての成果を求めるよりも、まず、その過程の中で充実感を味わうことが大前提と言われている。」この問いに対して筆者が心がけていることがある。1つ目が、2要領1指針を通じて、学生たちが主体的且つ協働的に学びに向かえるよう、授業構造をコーチングとティーチングのブレンド型に転換すること、2つ目が、保育者に求められる資質・能力を、①幼児理解を深め、1人1人に応じる資質・能力、②保育を構想する資質・能力、③豊かな体験をつくり出す資質・能力、④特別な配慮を必要とする子どもを理解し支援する資質・能力、⑤他と連携し、協働する資質・能力、⑥カリキュラム・マネジメントの資質・能力、⑦自ら学ぶ姿勢と教師としての成長、といった7つの視点から確認させること、3つ目が、あそびの中の表現活動の実現に目を向けることである。子どもにとって表現活動とは、自己実現のためのチャレンジの機会である。真剣に全自我をおつけられる生活体験（あそび）に子どもを立ち向かわせることに注力することこそ、子どもの健全な表現力の育成にとって欠かせぬことではないか。

また、「我々は学生の表現力をどう育成すべきなのか、その学びをどう導けば良いか」といった問いに対しては、演劇表現を専門とする筆者から、二つのことを提案する。一つ目が、ドラマ教育とリーダーズシアター（朗読劇）を授業の要とすること。2つ目が、その2つの取り組みを、保育現場等での実演に結び付け、

大人目線ではない子どもを真ん中とした表現活動の意味を再確認していくことにある。状況さえ許せば、大学間の連携を通じて、実演、省察、評価、改善点の共有をはかることができるだろう。参加した学生や教員にとっても更なる目標を掲げるきっかけにもなるかもしれない。そうした機会を積極的に導入していくことこそが、学生の学びとしての表現過程の充実と成果の両立に貢献する方策となり、子どもの表現を子どもの視点から見る目を涵養するための有効な手立てとなっていくのではないかと期待するのである。

(2) 表現の芽ばえを共感的に理解する、そして育てる

今川 恭子

「幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので…（中略）…生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにする」という『幼稚園教育要領』の記述には首肯するところである。だが、「自己」「楽しむ」「幼児らしい」という言葉の本質を考えることなく、ただただ慣習を否定するだけの「なんでもあり」や「放置」が起りかねないことを危惧するのは筆者だけだろうか。養成課程においても、相似の問題があるかもしれない。

音楽を専門とする立場から言うと、たとえば環境の中の音に耳を傾けていろいろ想起したり想像したりすることの意義は言うまでもない。また、身の回りのモノから音が生まれる可能性に気づき試行錯誤しながら自由に音を出し、時には複数で音を交わし合って遊ぶことが表現の萌芽として見取られるべきであることも間違いない。これらは表現の過程と呼んでよいだろう。だが過程を理解し見守るだけで表現の育ちが担保されるだろうか。子どもは音を聴き、声を出したり音を出したりしながら自分を取り巻く世界の中に自己を定位していく。このいわば生態学的な定位の先の道筋として、音を仲立ちとした「私＝主体」が社会・文化の中に充実して生きるためには、社会に共有される文化的実践に参加することが必要ではないか。子どもは文化的実践の十全たる参加者となることを希求するがゆえに、保育者が提示する歌を嬉々として歌い、年長者のパフォーマンスを傍らで真似、自らの表現の成果が他者にどう受け止められるかを知りたがる。

こうした考えに立つならば、表現の芽ばえを理解し見守る保育者の役割の先には、社会文化的実践としての表現を育てる仕事が見える。ゆえに文化的実践に含まれる技能と知識を養成課程で磨くことが求められるのは当然であろうし、活動の成果が他者にどう受け止められるか問うて評価することも必要であろう。

(3) 子どもの表現の受容者、遊びを通して子どもの表現力を育む保育者の養成

今川 恭子

幼稚園教育要領の領域「表現」「内容の取扱い」のひとつに次のようにある。

「(2) 幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること」

表現とは「オモテにアラワス」※ことでアラワス先には表現を受け止める人の存在があり、その一人が保育者となる。これを先の領域「表現」の内容の取り扱いの文言とあわせて考えると、保育者が子どもの素朴な表現の受容者であることが子どもの豊かな表現につながると考えられる。本シンポジウムには「学生の表現力をどう育成すべきなのか」との問いがあるが、あわせて「子どもの表現を受容できる保育者をどう養成するのか」も問う必要もないだろうか。子どもの表現や意欲を受容することは保育の基本ともいえるが、領域「表現」に関わる授業等でどれだけ養成できているであろうか。またその可能性や実践はどういったものになるだろうか。

さらに表現の受容者であることに加え、「幼児らしい様々な表現」を子ども自身が“楽しむ”こと（“楽しませる”に止まらない）ができるよう、また、素朴な表現がより充実するよう、保育者として関わり、環境を構成するなどができる力の養成も必要である。素朴な表現は遊びの中で見られることが多いため、これらの力が遊びのなかで発揮できるよう領域「表現」等から保育者の表現力育成を考えていきたい。

「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達的基础を培う重要な学習」（幼稚園教育要領）であることは表現においても同様である。だからこそ、学生の表現力育成は表現者の育成だけでなく、子どもの表現の受容者であり、遊びを通して子どもの表現力を育む保育者を育成することを基盤とすることが重要であることを改めて検討をしたい。

※岡田 陽『子どもの表現活動』玉川大学出版部,1994

アタッチメント形成を支える保育・子育て支援の質を考える —実践と研究が繋がることでみえてくる支援のあり方と方向性—

企 画： 第78回大会実行委員会
話題提供： 奥山千鶴子（NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長）
新澤 拓治（練馬区立地域子ども家庭支援センター光が丘所長）
友松 真琴（長野大学大学院、公立保育所保育士）
指定討論： 遠藤 利彦（東京大学、発達保育実践政策学センター長）
司会・趣旨説明： 金山美和子（長野県立大学）

1 企画趣旨

アタッチメントは乳幼児が恐れや不安を感じたときに特定の人（主に養育者）を「安心・安全の基地（安全基地）」として認識し、くっつくこうとする、生まれながらにして備わった行動システムである。子どもが自分に関わる大人に対して信頼を覚えるきっかけとなるものであると同時に、その形成が不十分な場合、子どもにとってさまざまな悪影響を及ぼしかねない課題にもつながる。こうした子どもの精神的発達に欠かせないアタッチメント形成は、家族はもちろん保育・子育て支援現場の支援の質とも深くかかわることが指摘されている。

本シンポジウムでは、地域の子育ち・子育て機能が低下しているといわれる現在において、保育・子育て支援現場に求められるアタッチメント形成への支援のあり方について実践・研究の両面から議論を深める内容としたい。

2 話題提供

（1）地域子育て支援拠点におけるアタッチメント形成を支える取り組み — 100 か月の育ちビジョンを踏まえて —

奥山千鶴子

地域子育て支援拠点（以下、拠点）は、乳幼児家庭が、地域社会と接点をもつ初期段階の社会資源として役割を果たしてきた。子育ては時間も手間もかかる営みだが、祖父母世代からの経験の受け渡しや親同士の支え合いが難しくなる中、子育て家庭の孤立傾向が表れている。NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会（以下、ひろば全協）が拠点利用者に行った調査では、親自身が育った市区町村以外で子育てをしている人（アウェイ育児）が70%以上に達しており、「家族以外の人と交流する機会があまりなかった」「子育ての悩みや不安を話せる人がほしかった」等の項目は6割以上となっている。

「地域子育て支援拠点の寄り添い型支援が親の成長を促すプロセス分析と支援者の役割に関する調査研究」では、親子が拠点において安心して過ごせる環境が提供され、支援者との安定した相互関係が構築されるなかで、わが子理解の促進が図られ、他の利用者との交流の促進にもつながることが示唆された。特に、支援者が親子のアタッチメント形成が深まるように、子どもの成長や子どもの良いところの伝える「子どもの良さの伝達」や、「子どもの気持ちの代弁」を通して親が子どものサインやニーズに対する理解を深め、わが子への感受性や応答性を高められるように支援を行っていることが示されている。

現在、国がこども基本法を踏まえて定めた「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」（以下、「はじめの100か月の育ちビジョン」）では5つのビジョンを掲げて、保護者・養育者だけでなく、地域社会全体で子どもを育てていく方向性を示している。

拠点において支援者が利用者に対して日常的に行っている「子どもの良さの伝達」や「子どもの気持ちの代弁」に着眼し、親子のアタッチメント形成を支える機能を深めるために、「はじめの100か月の育ちビジョン」を踏まえた実践の方向性を考えてみたい。

(2) 「コンディション」と「子どもの最善の利益」

新澤 拓治

子育て支援の現場においてアタッチメントは、アタッチメント形成の支援という形で語られることが多い。その際に様々なアプローチを模索するが、一番重要と思われるながら、難しいのが養育者の変革である。おそらく多くの支援者は、自分自身「アタッチメント形成」を意識して行ってきた訳ではなく、自然と振る舞い自然に獲得していると思われる。そのため、うまくいかない人に対して、どうしてなのか？と疑問を持つ。そこには様々な要因があると思われるが、ここではその点に深入りせず、「コンディション」と「子どもの最善の利益」という観点での子育て支援の取り組みについて話題を提供したい。子育て支援の場で多く活用されているのが一時的な保育である。一時的な保育は、定期的な保育よりも保育者の葛藤を生みやすいものと感じている。国の指針においても最近やっと「レスパイト」を明示するようになったところである。課題があると思えるお子さんが来所した場合、養育者の育て方に疑問をもつ保育者もいる。極端な場合、「こんなに預けないで、もっと子どもと関わってくれたらよいのに」と考えてしまうこともある。私は職員たちに、養育者が子どもと良い関係を持てるには、良い「コンディション」にならないといけないと伝えている。そして、一時的な保育を受けるという子どもの不安については、不安というレベルではなく、「恐怖」だという話もしている。知らない人に保育され、大泣きしている子に対して、いかに安心、安全の基地になれるのか？保育をする者は、その点を探求すべきだと思っている。一時的な保育であれ、そのように考えていくことは、子どもの最善の利益につながるものと考えている。また子どもが、安定し、成長することで、養育者が助けられることもある。さらに、保育の質向上のため、保育者のコンディションも良くしていかなければならない事も強く主張していきたい。

(3) 保育者と子どもの関係性におけるアタッチメント形成の再考 ―保育実践に基づく考察―

友松 真琴

保育現場では、多くの保育者が子どもとの関わりの中で、アタッチメント形成の重要性を感覚的・経験的に理解している。保育園においても安心・安全の土台がしっかりと形成されることが子どもの成長発達において重要であり、欠かせないと認識しているからこそ、保育者は実践の中で試行錯誤を重ね、最適な関わりと支援を模索しているのではないだろうか。だが、それらは実践知の領域にとどまっているのが現状である。しかし、保育者がアタッチメント形成について実践と知識の両面から子どもの成長発達の理解を深めることにより、体系的に支援を組み立て展開することが可能になると考える。

保育者がアタッチメントを意識した関わりと支援を提供することにより、園生活において子どもはさらに安定するとともに、子どもの成長を支える基盤となるだろう。安定した絆が子どもの精神的発達や社会的スキルの向上に大きく寄与することは明らかである。保育者が専門的知見を持ち、長期的な視点で保育を展開することは今後さらに保育者が目指すべき専門性のひとつであると考えている。

そこで、保育者としての経験をもとに、保育実践における子どもへの関わりをアタッチメントの形成の視点から整理し、保育者と子どもの関係性について再考する。さらに、保育者が意識すべき視点や役割を整理し、子どもの成長を見据えた支援の重要性とその効果を考察していく。そしてこれらを通じ、アタッチメント形成が保育実践において果たす意義を明らかにすることを目的とし、話題として提供したい。

そして次の2つについて参加者の皆様の専門知識をお聞きしながら知見を深めていきたいと考える。

- ① アタッチメント形成のエビデンスを現場に取り入れるための課題と具体的な方法
- ② 子どもの長期的な成長を支えるためのアタッチメント形成における保育者の役割

ディスカッションを通じて、保育者がアタッチメント形成を適切に捉える視点を育み合い、実践の質的向上を目指すきっかけとして共有したい。

これからの日本保育学会の魅力を考える —学会に求められることとは?—

企画:	組織検討委員会
話題提供:	辻谷真知子(お茶の水女子大学)
	濱名 潔(認定こども園武庫愛の園幼稚園)
	星 早織(和泉短期大学)
	天願 順優(コスモストーリー保育園)
指定討論:	大豆生田 啓友(玉川大学 組織検討委員会・副会長)
司会・趣旨説明:	上田 敏丈(名古屋市立大学 組織検討委員会)

1 企画趣旨

本ラウンドテーブルでは、これからの日本保育学会をより魅力あるものとするために、様々な立場の会員から、日本保育学会に対する意識や、それぞれの中での位置付け、学会に求めるものなどを報告頂き、議論を深めていくことを目的とする。

企画者自身、日本保育学会には、大学院生のころより、学会に参加し、発表し、様々な意見を頂きながら、論文としてまとめ、投稿していくということを経験してきた。

このような学会の役割は、一研究者の視点から考えると、①自身の研究を進め発表(学会発表、論文投稿)できること、②多くの仲間(研究者)とネットワークを作り、情報を共有、議論し、自身の研究に還元できることであろう。このために、学会費を支払い学会の会員となっているのである。

一方で、近年の社会の変化が、多くの学会や学術団体にも変化を及ぼしそれが課題となってきた。特に、少子化とICT等の整備によるオンラインの充実、メリットと共にデメリットも生じてきている。

このような流れの中で、改めて日本保育学会に求められる役割とはどのようなことだろうか。若手の研究者や実践者が参加したい、しやすくなるためには、何が必要だろうか。簡単に即効性のある特効薬はないかもしれないが、フロアも交えて多くの会員と話しあい、さらなる日本保育学会の魅力について考えていきたい。

2 話題提供

(1) 研究者の視点から

辻谷真知子(お茶の水女子大学)

入会から10年余、大会や論文等で多くの学びをいただきながら、子ども同士のやりとりの観察・記録をはじめとして様々な研究に携わってきた。実践に関わる研究者として、すぐに何かの役に立てるようにと意気込む前に、まず目の前のことから学び、その場に身を置く一人の人間として感じ、丁寧に言語化することを意識してきた。温かく迎えてくださった現場の先生方のおかげで、そのようなことができたと感じる。

大学・大学院の教育において、特に研究方法論の授業や研究指導に携わる際、保育実践(者)と研究(者)との関係について重点的に議論している。例えば園の文化を感じとりながらの関係づくり、研究テーマの言語化と問い直しなど、求められる経験や知識はたくさんある。若手研究者にとっては想像だけでなく、実践に携わる方から直接学ぶ機会がとても貴重である。日本保育学会にはこれまで重ねられてきた、実践と研究との対話の歴史がある。今後の可能性として、経験・立場・役割等を超えて素朴な問いをもとに対話する機会をはじめ、若手研究者と「園」との出会いの場、研究成果のダイジェスト版、などについて考えてみたい。

(2) 実践と研究をつなぐ視点から

濱名 潔 (認定こども園武庫愛の園幼稚園)

ここ数年、自園の保育内容に関する研究発表を同僚保育者と積極的にしている。研究では本園の保育内容の「良さ」だけでなく、隠れたカリキュラムの視点から「課題」も検討する。しかし、こうした課題を現場のプロパーの保育者が検討するのは意外と難しい。人は、自分が「良い」と教えられ、また実践を通して良さを感じてきたことを簡単には疑えない。しかし、敢えて疑わなければ、保育は独りよがりの思い込みに基づく改善に陥る。そうならないためにも、敢えて疑う機会を作る必要がある。

日本保育学会でも、「流行」や「伝統的」な保育を敢えて疑う機会を作ったら面白いのではないか。例えば、保育におけるサークルタイムはその意義が現場に十分に伝わっているが、賞賛だけでなく、敢えて疑うことで新たな発見があるはずだ。保育者は敢えて疑うことが苦手だが、研究者は得意である。むしろ、研究者は保育者のねらいを反映させず、文脈を切り取った結果にしていまいがちだ。そこを保育者から「ここは省いてもよいのか？」と問いかける。こうした機会があれば、保育実践と研究はより相補的に発展するのでは？

(3) 実践現場の視点から

天願 順優 (コスモストーリー保育園)

私は現在、地域の若手園長とともに研究会を立ち上げ、実践の課題と研究の知見が交差し、新たな気づきを生む対話の場をつくっている。定期的に集まり、お互いの園の実践を見学しながら問いを投げかけ合う中で、実践と研究が結びつく瞬間に、視野が広がる感覚を味わってきた。

この取り組みを通じて、私は「実践と研究の対話こそ、新しい知が生まれる場だ」と感じている。例えば、学会が発表や討論の場にとどまらず、保育の理論と実践について研究者と実践者が意見を交わし、互いの視点を深めながら新たな問いを生み出す「対話型セッション」を設けたらどうだろう。また、「即興実践ラボ」として、保育現場で起こるリアルな課題をもとに、即興的に研究的視点を取り入れながら、みんなでアイデアを出し合うワークショップを実施するのも面白い。

「新しい学びが生まれる場」へと進化する可能性が、日本保育学会にはまだまだ広がっている。実践と研究が出会い、より豊かな知の響き合いが生まれる学会になることを期待している。

(4) 保育者養成校の視点から

星 早織 (和泉短期大学)

学生募集がうまくいかないという現状と課題に対してすべきことは、養成校を地域に開き、保育の魅力を社会に発信していくことであると考えます。例えば本学の子育てひろばには高校生が保育体験にやってくるのだが、体を使って経験することは、自ら問いを立て、解をみつけようとする姿をつくっていく。高校生のためにとスタートした取り組みだが、私にとっても想定外のおもしろいことが起こり次のアイデアが生まれる場となっている。

保育の魅力は質の高い保育に伴うだろう。保育の質の確保や社会的地位向上を目指すために、この先も日本保育学会がその主体であることに期待をしたい。そうなるためにも会員一人ひとりがその担い手であることを実感できる場となるための仕掛けを考えてみたい。例えば保育の最先端を学んでいる保育学生らに学会を開き、プレ会員として仲間に入れてみるのはどうだろう。保育学生同士もそうだし、保育者、研究者が同じ空間にいただけでもわくわくすることが起こりそうな予感がする。

3 当日の流れについて

登壇者からの発表を受けて、指定討論者である大豆生田副会長よりコメントいただく。

本ラウンドテーブルは、学術的というよりも、それらの知見を踏まえながら、今後の保育界・日本保育学会等がどうあるべきなのかを、わいわい・がやがやと話しあえることを期待したい。

実践に寄与するための問いと方法

企 画:	編集常任委員会
話題提供:	斎藤多江子(日本体育大学)
	阿部 学(敬愛大学)
	小林 真(富山大学・編集常任委員会)
指定討論:	佐々木 晃(鳴門教育大学)
司会・趣旨説明:	上田 敏丈(名古屋市立大学・編集常任委員会)

1 企画趣旨

これまで編集常任委員会では、「実践研究へのいざないⅠ～Ⅵ」と題して、保育実践を研究として成立させるための条件についてシンポジウムを行ってきた。しかし保育学の研究は、理念・理論に関するもの、制度や社会のあり方に関するもの、子ども理解に関するもの、保育の内容・技術に関するものなど多岐にわたる。そこで今回は、保育学に関する研究をさらに充実させるために、研究の目的と方法の設定の仕方について考えたい。テーマは『実践に寄与するための問いと方法』である。日本保育学会は基礎研究を行う者から現場で実践を行う者まで幅広い会員が所属している。

今回はこうした取り組みの第1回として、3つの異なる研究方法の観点から、研究テーマ(問い)の設定や研究方法の決定等について論じてもらう。具体的には、①理念・理論に関する研究における文献を検索・選定する際の留意点、②実践者ではない研究者が現場に入って参与観察記録を行う際の留意点、③量的研究を行う際の研究計画の立案・分析方法の選定における留意点について、話題提供をしてもらう。その後は指定討論を通じて、それぞれの立場の研究が保育実践(及び計画立案や管理運営)に対してどのような提言ができるかについて考えたい。

2 話題提供

(1) 日本の幼児教育システムはどのように作りだされてきたのか

斎藤多江子

私に与えられた題は、「理念・理論に関する研究における文献を検索・選定する際の留意点」である。この題に対して、無藤隆氏と連名で執筆し、『保育学研究』に掲載された『日本の幼児教育における「知識」の産出とその伝播：幼小連携・接続のアイディアの結晶化の過程』における、問いの設定、文献を検索・選定する過程、分析方法等について紹介したい。

上記の論文は、Kagan(2015)が示した有効な幼児教育のシステム(effective ECE system)を基にして、幼小連携・接続に焦点を当てることで、日本の幼児教育システムの一部の理論化を図ったものである。それまで、日本における幼児教育のシステムは、学術的な検討がなされていなかった。そこで、私たちは、日本の幼児教育は「どのような要素とその要素間の関係が制度や制度を機能させていくための行政の動きに影響を与えてきたのか」という問いを設定し、「制度や行政の動きは、実践現場、保育団体、研究者との相互作用が影響し、これらの作用が幼児教育のシステムの一部を作り出してきた」という仮説を検証する形で研究を進めた。

当日は、幼児教育のシステムの一部を作り出してきた過程を説明しながら、文献収集や文献内容の検討方法等の研究方法について話題提供を行う。また、保育実践が、幼児教育システムにどのように関わってきたのかについてもお話したい。

院生のころ、ある幼稚園のユニークな保育実践に出会い、衝撃を受けた。平手で頬を打たれたような感覚は「この園のことを分かりたい」という好奇心に変わり、それを素朴な「問い」として現場に通い始めた。当初は何も分からなかったため、とにかくたくさんの情報を得ようと動きまわった。「方法」を選んだというよりは、それが結果として参与観察と呼べるものになったということだと思う。

好奇心から始めたことなので、観察は楽しい。しかし、それをまとめるのは難しい。「何かを分かりたくて研究を始めたはずなのに、一体、自分は何を分かりたいのだろう？」と何度自問したことか。エピソードを集めて面白がっているだけではだめで、それを他の文脈にうまくひっかけられるよう、「問い」を何度も見直す必要があった。ポイントを探るためには、地道に書くしかなかった。書いて、読んで(読んでもらって)、調べて、書き直して……を繰り返す。当たり前のことなのかもしれないが、現場に通いさえすれば研究が進むのではなく、文章力や知識量も重要なのだと痛感した。

研究では、事前に「問い」を設定するのが通例である。しかし、参与観察を中心とした研究で「問い」がはっきりするのは、実際は論文が仕上がるころなのではないかと私は思う。私にとっての参与観察は「ああでもない、こうでもない」と悩み続けるプロセスであり、傍から見たら珍道中のようなものだろう。こうした営みを面白がれる人もいれば、なんて効率が悪いと思う人もいるだろう。(むしろ、私の要領が悪いだけで、もっとスマートに研究を進められる方もたくさんおられるだろう)

(3) 量的な研究に必要なこと：データ解析の知識・「保育実践」とのつながり

人間や社会現象を数量化して測定しようとするのが量的な研究である。一般的には実験条件によって測定値(多くは平均値)に違いがあるかを“検定”したり、たくさんの質問項目のデータから“因子”を抽出したり、“因果関係”を調べたりする研究方法を指している。私も若い頃は幼児の行動観察データを集計して〇〇検定をしたり、「保育者による子どもの評価」についての因子分析を行ったりしてきた。

量的な研究で論文を執筆する際には、統計学の基礎知識を習得していることが大前提である。専用のソフトウェアを用いれば、比較的簡単にデータ解析ができる。しかし分析の方法や結果の読み取りについての知識が不十分な論文にもよく出会う。データ解析の基礎知識が不十分だと、量的研究における論理的な整合性が保障されなくなってしまうので。当日は、まずこの問題についての見解を述べたい。

次に、今回のテーマである“実践に寄与する”という問題に触れる。『保育学研究』は、保育・教育という社会現象に対してどれだけ有用な知見を提供できるかという観点が大切にされる学術雑誌である。それぞれの会員が所属する専門分野での新発見というよりは、保育・教育、あるいは福祉や保健のあり方に対する有益な提言ができるかどうか大切である。当日は、実践に寄与する研究の大切さについて、私が取り組んできた研究にも触れながら、実践に寄与することの大切さを述べたい。

保育実践に保育学はどうかかわれるのか

企 画:	課題研究委員会
話題提供:	渡邊 英則 (港北幼稚園・課題研究委員会) 榎沢 良彦 (東京家政大学・課題研究委員会) 永倉みゆき (静岡英和学院大学・課題研究委員会) 岡 健 (大妻女子大学・課題研究委員会)
司会・趣旨説明:	片山 美香 (岡山大学・課題研究委員会)
指定討論:	戸田 雅美 (東京家政大学・日本保育学会会長)

1 企画趣旨

課題研究委員会では、今後4年間、保育学が子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う学問としての真価について、今一度、会員の皆様と問い直すことを企図した。

その端緒として、まずは保育実践の現場で今、何が起きているのか、その実情に迫る。続いて、未知の保育課題に対峙しつつ、確かな子どもの育ちを支えることが出来る豊かな専門性を備えた保育者としての力量を身に付けることを目指して、一人前の保育者になるために必要な専門的な知識とは何か、自らの保育実践を構築された先達の足跡を辿ることを通して、「保育者自身の学びを支える」方途について共に考えていきたい。会員の皆様相互にご議論いただき、保育学の学問としての深化・発展に繋がれば幸いである。

2 話題提供

(1) 「保育学とは何か」を保育実践から再考する

渡邊 英則

実践の場に身を置いていると、保育学という学問上で語られる保育や子どもの姿と、実際の保育や子どもの姿と乖離していると感じることが多々ある。特にコロナ禍を経て、急激な少子化が起きている現状の中で、今の日本の社会を映し出す鏡として、子どもという存在を捉え直してみると、社会の中で子どもという存在が大事にされていない実態が見えてきた。

コロナ禍によって家族の孤立化が加速し、社会とのかかわりが希薄な親子が増えてきた。その影響もあってか、配慮の必要な子どもも急増し、小学校では小学1,2年生で不登校が増えている。これまで保育の世界では、国の方針もあって、子どもを育てることよりも、子どもを預かることが優先されてきた。その結果、保育者不足もあって、怪我をさせない、喧嘩をさせないような管理的な保育が一般化し、保護者のニーズからおけいごのような多様な活動をさせる園はいまも多くあるが、そのような園では、子どもの声なき思いや願いが保育者に届くことはほぼない。少子化で待機児童が減り、保育の「量」よりも「質」に注目が集まるようにはなってきたが、では「保育の質とは何か」「保育者の専門性とは何か」というような問いに、自分も含めた保育学にかかわる人たちはどのような答えを持っているのだろうか？

「子どもが育っていない」「保護者の子育て意識が変わらない」「園の保育がなかなか変わらない」「保育者の専門性や社会的な評価が低い」などといった大きな課題や困難に立ち向かうには、実践者や行政・制度だけの問題にするのではなく、保育の専門家としての研究者が、どう実践の場とかかわるのかという研究者としての当事者性や覚悟が問われていると思えてならない。保育現場は、実践(保育者)を支えてくれる保育学(研究者)を待ち望んでいる。

(2) マニュアル的知識による成長と職人としての成長

榎沢 良彦

日本保育学会は「子どもたちの健やかな発達と幸福をめざし」研究を行っている。この目的を達成するには、保育者の実践力が肝要である。それ故、日本保育学会(保育学)は子どもたちの健やかな成長・発達を

促すことができる一人前の保育者が誕生するように、専門的知識を保育現場に提供しなければならない。

ところで、一般に一人前になることを保障する知識は「教科書的知識（ないしまニュアル的知識）」と言える。但し、教科書的知識の習得は、その人が優れた保育者であることを保障しない。子どもたち一人一人がより豊かに成長して行くには、保育者自身も成長する必要がある。すなわち、これから出会う様々な状況や事態、そして多様な子どもたちに応じて、自分なりの保育の仕方を創造していける力を身に付けることが必要である。それは、「職人として成長すること」であると言ってもよいだろう。

従来、職人は教科書で技術を身に付けてはいない。師匠の許に弟子入りし、師匠の手ほどきを得て、師匠の技術を真似し、試行錯誤しながら高い技術を身に付けていく。その過程で、勘やコツを養い、独自のやり方をも創造していく。その結果、傑作が生まれる。傑作は、保育に当てはめれば、「個性豊かに成長した子ども」である。

もしも、保育者が職人のように成長することができるのであれば、その保育者との出会いは子どもにとって幸せなことに違いない。保育学は、一人前の（標準的）保育者を育てるだけでなく、職人としての保育者を育てることに貢献するべきであろう。

（３）「保育には自由がある」

永倉みゆき

これは、藤野敬子（1926－2017）がインタビューの際に筆者に語った言葉である。藤野は戦後の混乱期に保育者としての人生をスタートし、文献を参考に同僚と手探りで教育課程を作成するなどの研究に取り組んだ。藤野は、働く中でいったん職を辞し社会人大学生として学んだことがある。しかし、その後やはり再び保育の世界に戻ってきたのである。「社会人学生になったのだから、他の道に進むということは考えなかったのはなぜですか」との問いの答えがタイトルの言葉だった。小学校以上の学校には、学習指導要領に基づくがっちりとした教育課程があり、それを大きく変えることは難しいが、幼稚園教育要領等の「ねらい」と「内容」はあくまでも卒園時のものであり、保育者達の考えを元に、目の前の子どもたちに合わせて変えられるという「自由」があるというのである。この言葉からも、藤野が、保育という仕事がいかに創造性に満ちたものであり、幼い子どもと共に生活をつくる仕事は何にも代えがたい幸せな経験であると考えていたかということがわかる。今の保育者は「保育には自由があるから面白い」と子どもに関わる他の専門家に胸を張って言えるのだろうか。

藤野のこの言葉を思い出す度、私は現在の保育や保育研究に大きな問いを突き付けられているような気持ちになる。保育は最も新鮮な感性を持っている子どもとの生活であるため、子どもの言動により自分が知識として理解していたことが驚きと共に「はっ」とわかる瞬間がある。また逆に自分の誤った理解という事実を突き付けられる瞬間もある。それは、幼い子どもに関わり共に生きる保育という仕事にこそある醍醐味ではないだろうか。私達保育に関わる者は、このような保育の専門性を深く理解しているのだろうか。保育の、他の教育職には無い魅力とは何なのだろうか。このような問いについて、藤野の保育者人生を元に考えたい。

（４）養成（育成）教育と「保育実践（現場）」

岡 健

榎沢委員より「教科書的知識（ないしまニュアル的知識）」による成長と、「職人として成長すること」について話題提供がなされた。一般社団法人 全国保育養成協議会は、令和3（2021）年度以降「実習指導者認定講習」を実施している。それは、「実態として、多様な背景を持った教員が指導担当」している事態に対し、「養成校の実習担当教員が一定の専門性を備えたうえで実習指導を行い、各養成校における保育実習指導の質の維持・向上を図ることを目的」に行われているものとされている。

日本保育学の会員にはいわゆる保育者養成校という場に身を置いている者が多いことは、改めて確認するまでもないだろう。では、保育現場でのいわゆる「実習」は、上述の「成長」の問題としてはどのように位置づけ、考える必要性（可能性）があるのだろうか。

実習が職業トレーニングの場であるのだとすれば、決して少なくはないと思われる養成校において、例えば、責任実習に対する指導案指導として、おそらく現場では2度と同種の書式で書かれることのない指導案指導をすることに、私たちはどのような意味を見出せばよいのだろうか。

「保育実践（現場）」での「養成（育成）」。「保育実践（現場）」への「養成（育成）」。「当日はこうした問いについて、渡邊委員が指摘した「当事者」という立場で誠実に考えたい。

「信州やまほいく」から見る地域資源を活かした保育の実践

企 画： 第78回大会実行委員会
話題提供： 宮崎 温（こどもの森幼稚園 副園長）
内保 亘（ちいろばの杜 園長）
竹内 勝哉（あそびの森あきわ 園長）
司会・趣旨説明： 渡邊 望（長野県立大学 准教授・第78回大会実行委員会）

1 企画趣旨

長野県では、2015年より「信州型自然保育認定制度」をスタートし、「信州やまほいく」の愛称で親しまれています。長野県は県土の78%が森林であり、それを活かした保育を進めようという試みでもあります。つまり、《やま＝地域資源》と言い換えることもできます。山や森があればそれを活かし、海があれば海を、川があれば川を、商店があれば商店を、人がいれば人を、一つ一つを地域資源ととらえ、保育に活かすことは可能なはずです。あなたにとって、貴園にとって、そこで暮らす子どもたちにとっての「やま」とは何なのか、遊びと地域資源を結ぶ保育者の役割とは、また、そこから生まれる子ども達の豊かな経験と学びについて参加者の方と一緒に学び合える場になればと考え本シンポジウムを企画しました。

2 話題提供

（1）身近な自然環境を通じた実体験の学び

宮崎 温（こどもの森幼稚園 副園長）

信州型自然保育認定制度において「特化型」の認定を受けている本園は、長野駅から車で約30分程、標高1,050mの飯綱高原に位置し、周囲を山、森、沢、野原などに囲まれている豊かな自然の中にある幼稚園です。起伏のある広大な敷地（園庭）で、子どもたちは仲間や保育者と共に自然の素材を活かした遊びや身体をダイナミックに使い、自由に遊びながら生活しています。また園内にとどまらず、年間を通して近隣の高原（飯綱・戸隠など）や森の中へ一日がかりでお散歩に出かける日を設けており、ゆったりとした時間の中で道草散歩を楽しんでいます。日々の活動の中で四季折々の季節の変化を肌で感じる事が出来、春は雪解け水が流れ、水芭蕉やリュウキンカなどが咲きほころ草花の芽吹きに出会い、新緑の頃には山菜採り、夏はどろんこ遊びや沢、川での水遊び、秋は木の実拾いや落ち葉遊び、冬は雪遊びやクロスカントリースキーでの冬の森散歩（年長・年中）、ゲレンデスキー（年長）などを楽しみます。また、年間を通じて季節ごとの野生動物や虫との出会いが命を感じることが出来ることも魅力の一つです。

現代社会では便利なものがどんどん生まれ、実際に自然環境に行かなくてもバーチャルな世界でも自然を感じたりすることが出来ます。しかし、実際に体験して知ることと見たり聞いたりして知っていることとは違います。改めて、自園が大切にしている5感を通しての自然の中での様々な遊びは、幼少期に身に付けておきたい非認知能力を育む素養があると感じています。また自然環境の中で過ごすことは決して良いことばかりではありません。例えば、気持ちの良い爽やかな季節や秋の色とりどりの紅葉の中で過ごすことが出来る一方、危険と呼ばれる生き物（熊、へび、ハチ）などとの出会いがあったり、気候が急に変化したりと自然は常に表情を変えていきます。子どもたちはそんな自然の様々な表情に出会いながら、自然を知り、自然と共に生き、自然と遊んでいく中で、保育者と共に様々なことに考えを巡らせ、生きていくのです。

本シンポジウムではこどもの森幼稚園が実践している日常の遊びの様子やそこで子どもたちに関わる保育者のリアルな姿をお伝えしながら、自然の中での実体験を通じた学びの価値を明らかにしていきたいと考えています。

(2) その場で「暮らす」ということ

内保 亘（ちいろばの杜 園長）

ちいろばの杜は、標高 1050 m、北八ヶ岳の中腹、佐久穂町八千穂高原にある「認定こども園」です。信州やまほいく認定制度の中では、「特化型園」の認定を受けております。四方を、山、川、森、林に囲まれ、私たちの地域資源はまさしく「自然環境」であり、この地域に息づく「人々」であります。私たちにとっての自然やこの地域の魅力とは、横軸で考えればその多様性であり、縦軸で考えれば、求めても、その先に私たちが未だ知りえぬ「何か」がたくさん溢れているということです。私たちはこの山の中に暮らしながら、私たちを取り巻く地域資源に「今日はどう生きるか？」と問いかけられている気がしています。

一見、こうした「暮らし」は、豊かな自然環境があるからこそ実現できるものと思われがちです。ですが、都市には都市の多様性があり、またその地域の私たちの知り得ぬ「何か」というのは、確実にあるでしょう。私たちに求められているのは、ない環境を嘆くのではなく、置かれた場所で如何に子どもたちにそこにある世界をつないでいくのか？ 現実には「自分たちを取り巻いている世界へのまなざし」だと信じています。そのまなざしこそ、信州やまほいくの本質であり、極端な話を言えば「自然環境」がなくともやまほいくをできるということを意味していると思います。そして、自分たちが取り巻く世界にまなざしを向け、それを何とか感じよう、学ぼう、子どもたちにつないでいこうという大人の「本気」が問われているのだと思います。その本気の紡ぎの先に、自分たちなりの「暮らし」というものが自ずと浮かび上がってくるはずなのです。保育という概念も、「私たちの暮らしの中にある保育」という意味合いでもう一度捉え直すことはできないか？と投げかけたいのです。私は保育が持つ歴史や知恵や哲学は、保育そのものを何らかの形に完成させていく力というよりも、私たちなりの暮らしの質を限りなく高めていく可能性にあふれたものと捉えています。その意味において、信州やまほいくというものは、信州の地で紡ぐ我々の暮らしの中で、保育を如何に生かしていくのかという問いを我々に投げかけてくれている、そしてここで生きることの豊かさを十二分に感じてほしいという、この土地を愛する人の願いが込められていると私は感じています。

少なくともちいろばの杜では、ここで「暮らす」中で、無限とも思えるほどの資源に生かされていると実感する毎日を過ごしています。この資源との関わりは飽くことなく続き、この毎日毎年の紡ぎの先に、「私たちなりの暮らし」は益々輝きを増していくことでしょう。

(3) 「遊んでいるからこそ、地域とつながる」

竹内 勝哉（あそびの森あきわ 園長）

子どもたちは日々、身近な周辺環境に深い関心興味をもち、相互的に影響を受けながら遊んでいます。では、日常の保育環境において、子どもたちと地域社会はどのような関係性をもっていて、どのような形で「地域資源」を利用しているのでしょうか。幼児教育・保育において「地域資源」が特別な価値を持っていることは明らかなのですが、当然、子どもたちは大人のような「地域資源」という意識を持って何かをしようしているわけではありません。その一方で、大人は子どもの学びに有効と思われる「地域資源」を見つけると、活用しようと地域とつながりを持たせようとしたり、子どもには難しいものとして、大人が決めた地域とのつながり方を決めてしまったりと、遊びから生じる子どもの思いや地域への憧れよりも、大人の学ばせたい、経験させたい意図が優先されがちのように思います。

そもそも、子どもたちは、乳児期からの模倣遊びを積み重ね、身近な大人への憧れを背景に、地域に対しても魅力的でうきうき・わくわくするものとして捉えていきます。それは、子どもたちが同じ遊び目的や志の下に自ずと集まってくる「群れる」と同じように、地域に対しても高い関心が向いて、その資源を遊びに取り入れたい、大人と同じことをやってみたいという必要性を感じるからこそ、地域の中に子どもたちは積極的に出て行こうとするのです。そして、周辺にある身近な「地域資源」に出会うことによって遊びの拡がり、学びの拡がりを見せるのです。この遊びの経験によってこそ、地域のすばらしさを感じさせ、「地域とのつながり」が生じてくると考えるのです。

このシンポジウムでは、市郊外にあるあそびの森あきわでの、遊びの継続・拡がりによって地域に出て行こうとする子どもの姿や、地域資源の中に自分の遊びを深めるヒントを求めに行こうとする子どもたちの様子を、いくつかの事例を用いながら幼児教育・保育における「地域との関わり・つながり」や「地域資源」の価値を明らかにしていきたいと考えています。

4. 自主シンポジウム

自主シンポジウム A

5月10日（土） 13:00～14:30

J-A-1 ダイバーシティ・インクルージョン保育を進めるための 人材育成・体制整備を図る園経営と今後の展望

第6会場

企画・司会・話題提供	田中謙	日本大学
話題提供	水野恭子	岡崎女子大学
	櫻井貴大	愛知教育大学
	瀧澤聡	北翔大学
指定討論	池田幸代	道灌山学園保育福祉専門学校

J-A-2 子どもの権利から保育士配置基準を考える －保護者・保育者はなぜ声をあげたのか？－

第9会場

企画・司会	平松知子	熱田福祉会
話題提供	松井克徳	愛知県本部自治労連
	石濱丈司	名古屋市立大学大学院
	藤井豊	京都第一法律事務所
指定討論	普光院 亜紀	保育園を考える親の会

J-A-3 インクルーシブな保育の立ち位置と可能性をめぐって －ことインクルージョンは、「保育」が先進している？ いない？－

第10会場

企画・司会・指定討論	太田俊己	放送大学、NPO 法人 Small Step
話題提供	高橋 潔	公益財団法人 鉄道弘済会
	源 嶋 さやか	(株)世界文化ワンダークループ
	赤 荻 聡 子	NPO 法人 Small Step
話題提供・指定討論	広瀬 由 紀	共立女子大学家政学部

J-A-4 「子どもの遊び『想像の世界』を生きる表現教育」 ～保育者養成における表現教育の今を問う～

第11会場

企画・指定討論	佐藤 厚	白梅学園短期大学
話題提供	金山和彦	東京家政大学
	鴨志田 加奈	山村学園短期大学
司会・話題提供	朝 元 尊	豊橋創造大学短期大学部

J-A-5 父親の乳幼児への語りかけ方について考える －マザリーズの視点から－

第 12 会場

企画者 / 話題提供者	金 山 英莉花	同志社大学
司 会 者	児 玉 珠 美	愛知学泉短期大学
話 題 提 供 者	神 崎 奈 奈	中部大学
	附 田 賢 一	長野市立山王小学校
指 定 討 論 者	岡 村 歩 果	同志社大学大学院
	内 山 伊知郎	同志社大学

J-A-6 子どもの声からはじまる保育アセスメント －ドキュメンテーションを中心に－

第 13 会場

企 画 ・ 司 会	松 井 剛 太	香川大学
	松 本 博 雄	香川大学
話 題 提 供	大 野 歩	山梨大学
	古 賀 琢 也	千葉明德短期大学
	中 島 円	高槻双葉幼稚園
指 定 討 論	浅 井 幸 子	東京大学

J-A-7 「睡眠教育・みんなくってなに？」子どもたちにどう伝えますか？ －基本的生活習慣の重要性 地域で取り組んだ「みんなく」の 10 年－

第 14 会場

企 画 ・ 司 会	中 村 妙 子	大阪常磐会大学 短期大学部
話 題 提 供	斎 藤 忍	絵本作家
指 定 討 論	伊 東 桃 代	大阪常磐会大学附属いずみがおか幼稚園 教頭

J-A-8 保育制度のナショナルミニマム／ローカルオプティマムの現状と保育者配置、 労働条件と保育

第 15 会場

企 画 ・ 司 会	逆 井 直 紀	保育研究所
話 題 提 供	蓑 輪 明 子	名城大学
	小 尾 晴 美	中央大学
指 定 討 論	村 山 祐 一	保育研究所

J-A-9 日本におけるアトリエリスタの保育実践 —『レッジョ・エミリアにおけるアートと創造性』の翻訳を通じた対話から—

第7会場

企画・司会	刑部育子	お茶の水女子大学
話題提供	森眞理	神戸親和大学
	三浦諒	えじり保育園
	Chavez Bianca	赤碕こども園
指定討論	磯部錦司	梶山女学園大学

J-A-10 幼児のデジタルリテラシーを育成する手法の検討

第8会場

企画・司会、指定討論	堀田博史	園田学園大学
話題提供	佐藤朝美	愛知淑徳大学
	中村恵	畿央大学
	松山由美子	大阪総合保育大学
	勝見慶子	明治大学法と言語科学研究所

J-A-11 医療的ケア児保育の実践と学びあい —入園から就学までの育ちと保育者・看護職の学び—

第16会場

企画・司会	二宮祐子	文教大学
話題提供	谷川祐美	わらしこ保育園
	木村重介	新宮団地こども園
	瀬山さと子	カミヤト凸凹保育園
指定討論	三島千明	京都文教短期大学
	小林美由紀	白梅学園大学

J-A-12 令和の日本型保育改革 —藤森メソッドの試み—

第17会場

企画者・司会	爾寛明	桜美林大学
話題提供者	森口達也	社会福祉法人省我会 新宿せいが子ども園
	西田祐恒	認定こども園さくら保育園
	細川優子	西田地方保育園
指定討論者	藤森平司	保育環境研究所ギビングツリー

自主シンポジウム B

5月10日(土) 14:50～16:20

J-B-1 「背中の保育」から探る「日本型保育実践」の魅力 ー実践者と研究者の対話からー

第6会場

企画・司会	中坪史典	広島大学大学院
話題提供	肥田武	一宮研伸大学
	水野佳津子	佼成育子園
	ポーター 倫子	北陸学院大学

J-B-2 子どもたちの「体験」が「学び」になるためには何が必要か？ ～教育ドキュメンテーション (pedagogical documentation) の役割と課題～

第9会場

企画・話題提供	内田祥子	高崎健康福祉大学
話題提供	白石淑江	愛知淑徳大学
	井上知香	静岡大学
指定討論	石黒広昭	立教大学

J-B-3 地方都市での「気になる子」の保護者支援における養成校と保育現場の協働 ー筑豊地域における三つの実践報告をもとにしてー

第10会場

企画・司会	橋本翼	近畿大学九州短期大学
企画・話題提供	原口喜充	近畿大学九州短期大学
話題提供	大塚愛里沙	社会福祉法人常葉会 枝国保育園
	原 梢	社会福祉法人清知会 みどり保育園
	三谷碧依	社会福祉法人恵智会 恵大保育園

J-B-4 ラーニングストーリーを実習生が書く意味を問う ー記録がもたらす子ども理解の新たな形ー

第11会場

企画・話題提供	森山雅子	桜花学園大学
企画・司会・話題提供	谷島直樹	清明学園幼保連携型認定こども園おかだまのもり
話題提供	三好伸子	金沢星稜大学

J-B-5 「子どもをあらわすということ」を考える

第 12 会場

企 画 ・ 司 会	三 谷 大 紀	関東学院大学
企 画 ・ 話 題 提 供	青 山 誠	社会福祉法人東香会
話 題 提 供	宮 武 大 和	札幌トモエ幼稚園
	溝 口 義 朗	ウッディキッズ
指 定 討 論	汐 見 稔 幸	白梅学園大学

J-B-6 パネルシアターをどのように授業に取り入れるか —保育者養成校における実践を通して—

第 13 会場

企 画 ・ 司 会	松 田 聖 子	帝京平成大学
話 題 提 供	松 家 まきこ	淑徳大学
	鈴 木 範 之	常磐短期大学
	酒 井 基 宏	敬愛短期大学
指 定 討 論	木 村 由 希	常磐短期大学

J-B-7 知育玩具のある保育の風景

第 14 会場

企 画 ・ 話 題 提 供	藤 田 篤	(一社) 日本知育玩具協会
企 画	小 川 直 茂	静岡文化芸術大学
司 会 ・ 話 題 提 供	堀之内 信 子	(一社) 日本知育玩具協会
話 題 提 供	杉 本 桂 子	トーマスぼーや保育園
	佐 伯 千 穂	幼保連携型認定こども園 宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園

J-B-8 保育学生が人と関わりたいと思う授業づくり —講義科目における意見交換のあり方—

第 15 会場

企 画 ・ 話 題 提 供	中 内 麻 美	相模女子大学
企 画 ・ 司 会	田 中 あかり	湘北短期大学
話 題 提 供	廣 部 朋 美	東洋英和女学院大学
	飯 野 雄 大	山梨学院短期大学
指 定 討 論	町 田 理 恵	東京学芸大学附属幼稚園
	和 田 美 香	東京家政学院大学

J-B-9 0歳児保育にかかわる質の評価と展望

第7会場

企画・司会	松永静子	白梅学園子ども学研究所
話題提供	天野珠路	鶴見大学短期大学部
	野澤祥子	東京大学大学院
	前田武司	社会福祉法人額小鳩保育園
指定討論	大方美香	大阪総合保育大学大学院

J-B-10 発達障害のある子どもを含む集団保育への音楽療法 —幼児期を臨界期とする感覚機能育成のための音楽の活用法—

第8会場

企画・司会・話題提供	柿崎次子	桜美林大学
指定討論	花岡清美	常葉大学短期大学部保育科
	虫明瞳	社会福祉法人白ゆり会岡山白ゆり発達支援センター

J-B-11 インクルーシブな保育を継続し、深めていくために考えるべきこと

第16会場

企画・司会	加藤和成	(学) 希望学園 葛飾こどもの園幼稚園
話題提供	尾埜健二	(社) 路交館 聖愛園
	鶴巻直子	(学) 希望学園 葛飾こどもの園幼稚園
指定討論	末次有加	帝塚山学院大学
	小山望	田園調布学園大学大学院

自主シンポジウムC

5月10日（土） 16:40～18:10

J-C-1 自然災害と保育～いのちを守るためにできること～

第6会場

企画・司会	長 櫓 涼 子	倉敷市立短期大学
話題提供者	平 岡 敦 子	倉敷市立短期大学
	千 葉 直 紀	学校法人北野学園上田短期大学
	岡 野 一 郎	倉敷市保健福祉局子ども未来部
指定討論者	小久保 圭一郎	倉敷市立短期大学

J-C-2 ろう教育におけるデフフッドの観点から「遊び保育」を考える

第9会場

企画・司会	河 邊 貴 子	聖心女子大学
話題提供者	新 井 孝 昭	元筑波技術大学
	狩 野 奈緒子	桜の聖母短期大学
	戸 田 康 之	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園
	松 永 愛 子	目白大学

J-C-3 「こども誰でも通園制度」の意義と地域における保育施設の役割 —こどもの育ちに焦点をあてて—

第10会場

企画・司会	高 辻 千 恵	大妻女子大学
話題提供者	尾 木 ま り	子どもの領域研究所
	堀 科	東京家政大学
	堀 昌 浩	認定こども園さくら
指定討論者	倉 石 哲 也	武庫川女子大学
	坂 上 裕 子	青山学院大学

J-C-4 ことばは、出来事（こと）の端（は） —「保育（こと）」を丸ごと語り合おう—

第11会場

企画・司会・話題提供	久 保 健 太	大妻女子大学
話題提供者	亀 井 湧 介	和光保育園
	鈴 木 秀 弘	和光保育園
	関 根 優 香	うーたん保育園
	村 松 直 人	関東学院六浦こども園
指定討論者	淀 川 裕 美	千葉大学

J-C-5 トライアル・アンド・エラーから学ぶ質の向上を目指す保育マネジメント（４） －保育実践とマネジメントの両義的方向性－

第 12 会場

企 画 ・ 司 会	田 島 大 輔	和洋女子大学
指 定 討 論	田 澤 里 喜	玉川大学
	井 上 眞理子	洗足こども短期大学
話 題 提 供	田 中 健 介	綾南幼稚園

J-C-6 感じ合う保育の省察に向けて

第 13 会場

企 画 ・ 話 題 提 供	横 山 草 介	東京都市大学
話 題 提 供	水 津 幸 恵	三重大学
	浅 見 佳 子	相模女子大学
	関 山 隆 一	NPO 法人もあなキッズ自然楽校

J-C-7 乳幼児教育・保育のカリキュラム編成および指導計画の作成に関する養成教育の 現在とこれから－子ども中心信念（child-centered beliefs）を観点として－

第 14 会場

企 画 ・ 話 題 提 供	若 山 育 代	富山大学
企 画 ・ 司 会	田 中 卓 也	育英大学
話 題 提 供	開 仁 志	金沢青陵大学
	金 子 功 一	植草学園大学
指 定 討 論	矢 藤 誠慈郎	和洋女子大学

J-C-8 学生・保育現場・養成校の３者におけるよりよい実習の在り方Ⅱ －共同体として学びを繋げるための具体的方策－

第 15 会場

企 画 ・ 話 題 提 供	高 村 真 希	北陸学院大学
話 題 提 供	大 塚 紫 乃	江戸川大学
	浅 香 聡 彦	大徳学園
司 会 ・ 話 題 提 供	新 保 雄 希	泉の台幼稚園
話 題 提 供	境 佑 二	こども園わかば

**J-C-9 多様性を尊重し一人ひとりが輝く保育を目指して（1）
—安心して自己発揮し、共に育ちあうための保育者の役割—**

第7会場

企 画 指 定	・	司 題 提 討	会 供 論	久保山 茂 樹 箭 内 友 美 瀬 田 雅 江 勝 浦 眞 仁	国立特別支援教育総合研究所 東京都公立幼稚園 十文字学園女子大学 同志社女子大学
------------------	---	------------------	-------------	--	---

J-C-10 保育における子どもと音楽を考える

第8会場

企 画 指 定	・	司 題 提 討	会 供 論	水 崎 誠 児 嶋 輝 美 西 海 聡 子 平 井 恭 子 當 銀 玲 子 細 田 淳 子	東京学芸大学 徳島文理大学短期大学部 東京家政大学短期大学部 京都教育大学 淑徳大学 東京家政大学
------------------	---	------------------	-------------	--	--

J-C-11 認定こども園における 2-3 歳接続期の課題Ⅱ

第16会場

企 画 指 定	・	司 題 提 討	会 供 論	神 長 美津子 渡 辺 英 則 中 田 範 子 石 丸 る み 中 田 貴 士	大阪総合保育大学 ゆうゆうのもりこども園 東京家政学院大学 大阪総合保育大学 全国認定こども園協会
------------------	---	------------------	-------------	---	---

自主シンポジウム D

5月11日（日） 9:00～10:30

J-D-1 自律・自走型研修の開発—保育現場・行政・養成校による連携と協働—

第6会場

企画・話題提供	山下 雅佳実	中村学園大学短期大学部
司会・タイムキーパー	川俣 沙織	中村学園大学短期大学部
話題提供	成富 由弥	小郡市 子ども・健康部 保育所・幼稚園課
ワークショップのファシリテーター	四宮 晴香	社会福祉法人 福德会 小郡保育園
	石橋 千晴	宗教法人 光桂寺 味坂保育園
資料準備・配布、記録	萩尾 耕太郎	中村学園大学短期大学部

J-D-2 子どもの権利について考える —子どもの権利の歴史的変遷・日本国憲法との関係・こども家庭庁の実践—

第9会場

企画・司会	中川 智之	川崎医療福祉大学
	森本 寛訓	川崎医療福祉大学
話題提供	岡正 寛子	川崎医療福祉大学
	橋本 勇人	川崎医療福祉大学
	今出 大輔	こども家庭庁

J-D-3 保育者の専門性研究と養成・現職教育の接合点を探る

第10会場

企画・司会	濱名 潔	武庫愛の園幼稚園
企画・話題提供	加藤 望	名古屋学芸大学
話題提供	及川 智博	文教大学
	星野 優芽	大妻女子大学大学院博士後期課程
指定討論	岡 健	大妻女子大学

J-D-4 限られた保育スペースで実現する乳幼児の運動遊び —布製ボールを活用した新たな可能性—

第11会場

企画・司会	宮里 暁美	お茶の水女子大学
話題提供	松元 剛	筑波大学
	淵上 真帆	目白大学
指定討論	渡邊 孝枝	十文字学園女子大学
話題提供	伊藤 幸子	文京区立お茶の水女子大学こども園
	栗原 結海	文京区立お茶の水女子大学こども園

J-D-5 インクルーシブ保育・幼児教育における「カリキュラム・マネジメント」とは

第 12 会場

企		画	山	本	理	絵	愛知県立大学
司		会	工	藤	英	美	日本福祉大学
話	題	提	高	橋	詩	子	なかの幼稚園
			金		仙	玉	富山国際大学
指	定	討	芦	澤	清	音	帝京大学
		論	渡	邊	眞	依子	愛知県立大学

J-D-6 表現は指導するものか

第 13 会場

企	画	・	司	会	今	川	恭	子	聖心女子大学
話	題		提	供	木	村	充	子	桜美林大学
					二	宮	紀	子	十文字学園女子大学
					山	本	直	樹	長野県立大学
					赤	津	裕	子	竹早教員保育士養成所

J-D-7 共に生きる ―神様の愛を感じること―

第 14 会場

企		画	渡	邊	哲	也	新島学園短期大学
指	定	討	東		義	也	尚綱学院大学
話	題	提	熊	田	凡	子	関東学院大学
			海	野	展	由	フィッシャー幼稚園
司			佐	藤	浩	代	東洋英和女学院大学
		会					

J-D-8 構成遊びにおける発達と保育 ―実証的知見に基づいた検討―

第 15 会場

企	画	・	司	会	・	話	題	提	供	杉	村	伸一郎	広島大学大学院
話			題			提			供	細	谷	里 香	兵庫教育大学
										宮	田	まり子	白梅学園大学
指			定			討			論	野	田	満	江戸川大学

**J-D-9 「それっておもしろいか？」
－こどもの世界をご機嫌で語る保育者のまなざし－**

第 7 会場

企 画 者	中 西 さやか	佛教大学
話題提供者・ファシリテーター	中 井 佐栄子	亀岡市立第六保育所
コメンテーター	松 本 信 吾	岐阜聖徳学園大学

J-D-10 保育現場における「楽器」のあり方を問う

第 8 会場

企 画・話 題 提 供	伊 原 小百合	玉川大学
話 題 提 供	村 上 康 子	共立女子大学
指 定 討 論	町 山 太 郎	幼保連携型認定こども園まどか幼稚園

**J-D-11 保育関係者が対応に苦慮する保護者の特徴
－実証研究および事例研究からの知見－**

第 16 会場

企 画 提 供	井 上 果 子	横浜国立大学
話 題 提 供	田 村 和 子	横浜国立大学
指 定 討 論	山 田 一 子	東京福祉大学
	桜 永 昌 徳	オフィス カルム
	住 岡 恭 子	岡山大学
司 会	高 岩 恭 子	横浜市こども青少年局

自主シンポジウム E

5月11日(日) 10:45～12:15

J-E-1 子どもを育む木製玩具 ーデザイン・環境・保育における活用から考えるー

第6会場

企画・司会	善本真弓	東京成徳大学
話題提供	林秀紀	桜美林大学
	城井光広	駿河台大学
	北澤明子	東京女子体育大学
指定討論	石井今日子	芸術と遊び創造協会

J-E-2 子どもの主体的なあそび、学び、育ちを支える園庭・校庭・まちの環境について考える8 ～子どもと保育者(園)の小さな挑戦の積み重ねの機会の大切さを考えるー環境設定、安全性も踏まえて～

第9会場

企画・進行	仙田考	田園調布学園大学大学院・国際校庭園庭連合日本支部
話題提供	中澤智子	お茶の水女子大学附属いずみナーサリー
	鮫島良一	鶴見大学短期大学部・附属三松幼稚園
	内野彰裕	東京ゆりかご幼稚園
指定討論	山口美和	上越教育大学大学院

J-E-3 ユーモアで遊ぶ・かかわる ーおとなが楽しむと、子どものセンスが光るー

第10会場

企画・司会・指定討論	山田千枝子	学校法人山添学園
話題提供	小井手瑞代	学校法人山添学園
	山本真希	学校法人山添学園
	牧野葉月	学校法人山添学園
	藤原優子	学校法人山添学園
	辻弘美	大阪樟蔭女子大学

J-E-4 多文化の背景を持つ子どもと遊び ーインクルーシブな保育の実現に向けてー

第11会場

企画・司会・指定討論	田中浩司	東京都立大学
話題提供	三山岳	愛知県立大学
	五十嵐元子	白梅学園大学
	名倉一美	佐賀大学

J-E-5 保育カリキュラムが生成する倫理的価値 —保育実践において「逸脱」を語るには—

第 12 会場

企 画 ・ 司 会	塩 崎 美 穂	東洋英和女学院大学
話 題 提 供	川 田 学	北海道大学
	赤 木 和 重	神戸大学
指 定 討 論	加 藤 繁 美	山梨大学
	大 宮 勇 雄	福島大学

J-E-6 韓国における育ちあう多文化保育の実践

第 13 会場

企画・司会・話題提供	林 悠 子	神戸松蔭女子学院大学
話 題 提 供	李 炯 洋	韓国勤労福祉公団 安山オリニジップ
	韓 在 熙	四天王寺大学短期大学部
	石 井 章 仁	大妻女子大学
	松 山 有 美	日本福祉大学
指 定 討 論 者	三 井 真 紀	九州ルーテル学院大学

J-E-7 地方におけるインクルーシブな保育の課題と展望 —格差、多様性、インクルーシブ保育への挑戦—

第 14 会場

企 画 ・ 司 会	齊 藤 勇 紀	新潟青陵大学
指 定 討 論	守 巧	こども教育宝仙大学
話 題 提 供	稲 見 康 明	十日町市教育委員会
	佐 藤 陽 介	幼保連携型認定こども園小千谷幼稚園
	南 雲 未 央	幼保連携型認定新通こども園
	古 澤 勝 彦	幼保連携型認定新通こども園

J-E-8 非都市部における保育と子どもの発達の現状と課題 —福岡県筑豊地方における 3 歳児から 5 歳児の縦断研究を通して—

第 15 会場

企 画 ・ 司 会	堀 田 亮	近畿大学九州短期大学	保育科
話 題 提 供	垂 見 直 樹	近畿大学九州短期大学	保育科
	高 木 義 栄	近畿大学九州短期大学	保育科
	上 田 浩 平	近畿大学九州短期大学	保育科
	立 石 力 斗	近畿大学九州短期大学	保育科

J-E-9 子ども主体の保育と安全③
—低年齢児の主体的な遊びと安全について考える—

第7会場

企画・司会・指定討論	猪熊弘子	駒沢女子短期大学
話題提供	中村章啓	社会福祉法人柿ノ木会 野中こども園
	司馬政一	学校法人清明学園 幼保連携型認定こども園せいめいのもり
	瀬沼幹太	社会福祉法人はとの会 鳩の森愛の詩瀬谷保育園

J-E-10 「保育事故」をなくすために（9）
—「こども誰でも通園制度」で子どもの命は守れるか—

第8会場

企画・話題提供	平沼博将	大阪電気通信大学
話題提供	嶋畑美穂	京都自治体労働組合総連合
	岩狭匡志	保育の重大事故をなくすネットワーク
指定討論	石川幸枝	全国民間保育園経営研究懇話会

J-E-11 保育者養成校における特別支援教育
—授業実践から保育と特別支援教育との親和性を探る—

第16会場

企画・司会	打越みゆき	星美学園短期大学
話題提供	竹森亜美	星美学園短期大学
	井出麻里子	星美学園短期大学
	藤原明子	星美学園短期大学
指定討論	遠藤愛	文教大学

自主シンポジウムF

5月11日(日) 13:00～14:30

J-F-1 ケアと学びの保育リーダーシップ—関係性の変容をもたらす実践アプローチ—

第6会場

企画者・司会	内藤知美	田園調布学園大学
指定討論者	小泉裕子	鎌倉女子大学短期大学部
話題提供者	長谷川葵月	アイン栗平保育園
	小倉賢人	大和山王幼稚園

J-F-2 子どもの権利に基づく保育実践を考える —相模原市の取り組みより—

第9会場

企画・指定討論・司会	矢野景子	十文字学園女子大学
話題提供	片山知子	社会福祉法人相模和泉福祉会
	渡邊真希	むくどりこども園
	中嶋一郎	千葉明德短期大学

J-F-3 「保育する身体」を問いなおす—子どもの人間学の視点から

第10会場

企画・話題提供	山本一成	滋賀大学
話題提供	村井尚子	京都女子大学
	宮崎康子	広島修道大学
	中丸創	かえで幼稚園
	遠藤綾	軽井沢風越学園
	坂巻愛子	軽井沢風越学園

J-F-4 保育現場における子どもと家庭のアセスメントの理解を深めるための 研修プログラムの構築と試行

第11会場

企画・司会・指定討論	灰谷和代	静岡福祉大学
話題提供	阿部明恵	社会福祉法人本楯たちばな会 もとたて保育園
	本間和貴	社会福祉法人本楯たちばな会 もとたて保育園
	佐藤裕邦	医療法人健友会 老人保健施設ひだまり

J-F-5 ペダゴジカル・ドキュメンテーション、なに？だれのため？なんのため？

第 12 会場

企画・司会 / 話題提供	植村朋弘	多摩美術大学
話題提供	藤田寿伸	東京成徳大学
	郡司明子	群馬大学
	伊藤美帆	認定しらゆりこども園
指定討論	津田純佳	アトリエリスタ／みりおらーれ代表

J-F-6 保育的事実の構築

第 13 会場

企画・進行	本山方子	白梅学園大学
話題提供	西井宏之	白梅学園大学附属白梅幼稚園
	向山陽子	道灌山学園保育福祉専門学校
	松原未季	大阪信愛学院大学
指定討論	菅野幸恵	青山学院大学

J-F-7 園内研修とマネジメントで保育現場はどう変わるか？

第 14 会場

企画・司会	鈴木正敏	兵庫教育大学
話題提供	志方智恵子	認定こども園七松幼稚園
	伊藤奈央	認定こども園高槻双葉幼稚園
	阿部能光	認定こども園いぶき幼稚園
指定討論	小山 顕	関西学院短期大学

J-F-8 保育の場で後輩と共に働くことで見えてくること

第 15 会場

企画・司会・指定討論	岩田恵子	玉川大学
話題提供	阿部仁美	上町しぜんの国保育園
	石田貴行	東一の江こども園
	古尾谷幸野	鳩の森愛の詩瀬谷保育園

J-F-9 遊びを通した NOS (Nature of Science) の学びを探る
— 保育環境におけるモノやコトとの関わりから —

第 7 会場

企 画 ・ 司 会	末 松 加 奈	東京家政学院大学
話 題 提 供	松浦 (小林) 優子	認定こども園 みつばキラリ園
	小 林 佳 美	川口短期大学
	佐 竹 智恵子	認定こども園 七松幼稚園
指 定 討 論	松 原 憲 治	国立教育政策研究所
	瀧 川 光 治	大阪総合保育大学

J-F-10 孫育ての現状と課題
— 子育て知識・世代間ギャップ・孫育てイメージからの検討 —

第 8 会場

企 画 ・ 話 題 提 供	杉 山 佳菜子	愛知みずほ短期大学
話 題 提 供	榊 原 尉津子	高田短期大学
	小 川 真由子	皇学館大学
指 定 討 論	菱 田 博 之	飯田短期大学
司 会	谷 口 良 美	愛知みずほ短期大学

J-F-11 韓国における保育者養成の現状と課題
— 保育と幼児教育の質の確保に向けた取り組み (2016 年～ 2024 年) —

第 16 会場

企 画 ・ 話 題 提 供	金 珉 呈	精華女子短期大学
話 題 提 供	上 原 真 幸	熊本学園大学
	韓 仁 愛	和光大学
司 会	勅 使 千 鶴	日本福祉大学

自主シンポジウム G

5月11日(日) 14:45～16:15

J-G-1 社会的子育てを育む環境を考える

第6会場

企画・進行・話題提供	野田敦史	高崎健康福祉大学
話題提供	藤後悦子	東京未来大学
	及川留美	東海大学
指定討論	柳瀬洋美	東京家政学院大学
	林 恵	作新学院大学

J-G-2 子どもを真ん中に保育を考えるⅤ ～子どもの「なる」姿をめぐって～

第9会場

企画・司会	佐藤寛子	お茶の水女子大学附属幼稚園
指定討論	村石理恵子	東京女子体育大学
話題提供	伊川千晶	お茶の水女子大学附属幼稚園
	田村郁	お茶の水女子大学附属幼稚園
	谷地理沙	お茶の水女子大学附属幼稚園

J-G-3 位置測位システム活用の可能性を考える ～保育の可視化と質の維持・向上を めざして～

第10会場

企画・司会	北野幸子	神戸大学大学院
指定討論	廣瀬聡弥	奈良教育大学
話題提供	田中孝尚	神戸大学附属幼稚園
	松本法尊	神戸大学附属幼稚園
	浅原麻美	神戸大学附属幼稚園
	宇田 淳	滋慶医療科学大学大学院

J-G-4 幼保小接続に取り組む保育者・教師の実践的思考 —文化の違いを超えた暗黙知と形式知に焦点をあてて—

第11会場

企画・話題提供	岡花祈一郎	琉球大学
話題提供	倉盛美穂子	日本女子大学
司会	武内裕明	弘前大学
指定討論	塚原健太	琉球大学

**J-G-5 幼児～児童期における学びが自覚化する教師の働きかけ
— ミラー型ライン図を用いた教師と子どもの対話分析をもとに —**

第 12 会場

企 画 ・ 司 会	溝 邊 和 成	九州共立大学
話 題 提 供	岩 本 哲 也	大阪市立味原小学校
	三 宅 理 恵	大阪市立味原幼稚園

**J-G-6 コミュニティ再生における遊び心の持つ意味③
— 大人の遊び心が育つ体験から考える —**

第 13 会場

企 画 ・ 話 題 提 供	小 松 歩	白梅学園短期大学
話 題 提 供	瀧 口 優	白梅学園短期大学
	金 田 利 子	フェリシアこども短期大学
	山 路 千 華	白鷗大学
指 定 討 論	富 田 昌 平	三重大学
	麻 生 武	奈良女子大学

**J-G-7 公立幼稚園における学びの継承
— 未来にむけて —**

第 14 会場

企 画 主 旨 ・ 話 題 提 供	上 田 敏 丈	名古屋市立大学
話 題 提 供	椋 田 善 之	関西国際大学
	箕 輪 潤 子	武蔵野大学
指 定 討 論	秋 田 喜代美	学習院大学
司 会	門 田 理 世	西南学院大学

J-G-8 「愛と知の循環」の保育実践

第 15 会場

企 画 ・ 司 会 ・ 話 題 提 供	岸 野 麻 衣	福井大学
話 題 提 供	古 賀 松 香	京都教育大学
	無 藤 隆	白梅学園大学
指 定 討 論	大豆生田 啓友	玉川大学

**J-G-9 評価スケールと保育の質の向上：
—保育実践と組織の評価— ECERS/ITERS,PAS の可能性—**

第7会場

企画・司会 話 題 提 供	埋 橋 玲 子 鈴 木 健 史 亀 山 秀 郎 岡 部 祐 輝 野 口 隆 子	大阪総合保育大学大学院 東京立正短期大学 認定こども園七松幼稚園 幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園 東京家政大学
指 定 討 論		

**J-G-10 支え、繋ぎ、育む：日本のインクルーシブな保育への展望（4）
—子ども理解を支える保育者のまなざし、かかわり、園内体制—**

第8会場

企 画 司 会 話 題 提 供	山 口 遼 吉 川 和 幸 谷 戸 諒 太 溝 口 晴 野 篠 原 直 子 堂 山 亜 希 若 月 芳 浩 堀 越 紀 香	国立特別支援教育総合研究所 国立特別支援教育総合研究所 国立特別支援教育総合研究所 学校法人渡辺学園港北幼稚園 練馬区立光が丘むらさき幼稚園 目白大学 四季の森幼稚園・玉川大学 国立教育政策研究所
指 定 討 論		

**J-G-11 対人関係の苦手な学生が保育専門職に就くために
—保育現場への実態調査をもとにして—**

第16会場

企画、話題提供・討議 司 会 話 題 提 供・討 議	服 部 伸 一 半 田 結 井 上 寿 美 廣 陽 子	関西福祉大学 兵庫大学 大阪大谷大学 関西福祉大学
----------------------------------	--------------------------------------	------------------------------------

5. 研究発表

□頭発表 A

K-A-1 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など

5月10日(土) 13:00～14:50

第1会場

座長：若 月 芳 浩・石 野 秀 明

K-A-1-001	認定こども園における医療的ケアを必要とする園児の受入と園内体制ー全国調査に基づいてー	兵庫教育大学大学院 関西国際大学 高松大学	○ 石 野 秀 明 下 里 里 枝 川 口 めぐみ
K-A-1-002	配慮の必要な子が友の中で生き生きと生活するために(13)	葛飾こどもの園幼稚園 葛飾こどもの園幼稚園 葛飾こどもの園幼稚園 葛飾こどもの園幼稚園 共立女子大学	○ 齋 藤 由 佳 加 藤 和 成 鶴 巻 直 子 小 林 さゆり 広 瀬 由 紀
K-A-1-003	子どもが保育者との二者関係から離れるときをどう見るか	愛育学園(特別支援学校)、 京都大学人間環境学研究科 愛育学園(特別支援学校)	○ 笹 木 珠 代 佐 治 由美子
K-A-1-004	インクルーシブ保育における定型発達児への教育的効果 ～保育現場におけるエスノグラフィーの分析から～	こども教育宝仙大学 共立女子大学 玉川大学	○ 守 巧 広 瀬 由 紀 若 月 芳 浩
K-A-1-005	統合保育からインクルーシブ保育へー実践研究の変遷と考察ー	浜松学院大学	○ 那 須 とよみ
K-A-1-006	自閉的傾向のある子どもと保育士の相互交流の変容		○ 鷲 尾 昌 子

K-A-2 保育内容(保育内容総論・遊び)など

5月10日(土) 13:00～14:50

第18会場

座長：砂 上 史 子・梶 島 香 代

K-A-2-007	子どもの主体性を育む「劇」活動についてー保育者による自由記述資料から読み取れる捉え方に着目してー	大泉保育福祉専門学校	○ 根 本 朋 子
K-A-2-008	小規模保育施設の可能性ー野外保育との連携による子どもの成長発達を探るー	長野短期大学	○ 副 島 里 美
K-A-2-009	絵本から広がる探検遊び(2) ーてつたくん・みつやくんと友だちになるときー	(宗)日本基督教団 小石川 白山教会附属愛星幼稚園 東京未来大学	○ 石 川 かおる 佐々木 由美子
K-A-2-010	子どもの遊びにおける「なりきる」ことの諸相	十文字学園女子大学	○ 渡 邊 孝 枝
K-A-2-011	好きな遊びにおける活動性と走力の関係	目白大学 文京学院大学	○ 西 田 希 梶 島 香 代
K-A-2-012	子どもがどのようにして運動遊びに関わっていくかー保育者や友達との関係性に着目してー	日本体育大学大学院 日本体育大学	○ 白 井 景 士 齊 藤 多江子

K-A-3 保育制度・保育行財政など

5月10日(土) 13:00～14:30

第3会場

座長：北野幸子・犬塚典子

K-A-3-013	中国における保育政策の展開と法的整備の現状	中国人民大学	○ 巖 平
K-A-3-014	小規模保育施設における連携の実態と課題（2） －2自治体への質問紙調査の結果から－	日本女子大学大学院	○ 永 島 さくら
K-A-3-015	カナダ幼児教育・保育法（2024年）：意義と展望	田園調布学園大学	○ 犬 塚 典 子
K-A-3-016	韓国の就学前教育・保育の現状と課題 －保育者養成校教員のインタビューから－	洗足こども短期大学	○ 長 島 万里子
K-A-3-017	保育の実務経験を有しない新人幼児教育アドバイザーの1年目の経験とはいかなるものか	広島大学大学院教育学 研究科	○ 田 島 美 帆

K-A-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など1

5月10日(土) 13:00～14:30

第5会場

座長：矢藤誠慈郎・岩田遵子

K-A-4-018	保育現場の連絡帳における保育者の意識調査 －自己主張期の子どもの成長を伝える記述に着目 して－	城西国際大学	○ 綿 貫 文 野
K-A-4-019	乳児期の水遊びに関する保育者の認識 －1,2歳児担任経験のある保育者への半構造化 面接の分析－	学習院大学大学院	○ 最 上 秀 樹
K-A-4-020	子ども集団の遊び援助において保育者に求めら れるマルチタスク－同時並行的援助の必要性－	東京都市大学 名古屋学院大学 美和こども園	○ 岩 田 遵 子 吉 田 龍 宏 鈴 木 ま り
K-A-4-021	保育者による対幼児発話の音声特徴と教育的効 果の考察－いざこざ場面における解決方略に着 目して－	フェリシアこども短期大学	○ 織 壁 佐和子
K-A-4-022	保育者意識を言語化したことでもたらされたも のは	中国短期大学	○ 清 水 憲 志

K-A-5 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 1

5月10日(土) 13:00～14:50

第4会場

座長：片 山 美 香・久保田 健一郎

K-A-5-023	地域子育て支援拠点が地域のハブとなるための仕組みに関する一考察	黒野こども園地域子育て支援センター“ゆずりは” 黒野こども園	○ 脇 田 和 子 西 垣 浩 康
K-A-5-024	こども誰でも通園制度試行的事業から考える制度の方向性 ー保護者対象調査からの検討ー	四天王寺大学 幼稚園型認定こども園 高槻双葉幼稚園	○ 田 辺 昌 吾 岡 部 祐 輝
K-A-5-025	2000年代後半における子育て支援言説に関する研究	大阪国際大学短期大学部	○ 久保田 健一郎
K-A-5-026	保育雑誌に描かれる親への「支援」 ー管理職向け雑誌『保育ナビ』の内容分析からー	お茶の水女子大学大学院	○ 栗 原 結 海
K-A-5-027	「つどいの広場」と大学との協働によるこども子育て支援 ーアウトリーチ&ハイブリッドプログラムの試みー	京都女子大学 京都女子大学	○ 瀬々倉 玉 奈 清 水 文
K-A-5-028	協同育児が親のアイデンティティに与える影響 - 未就学の子どもをもつ父親からの視点を通して -	羽陽学園短期大学 幼児教 育科	○ 密 城 吉 夫

K-A-6 児童福祉・児童の人権など、その他

5月10日(土) 13:00～14:30

第2会場

座長：七木田 敦・松 浦 崇

K-A-6-029	子どもの探索意欲と絵本(1)「ミッケ!」シリーズ	川口短期大学	○ 佐々木 美 和
K-A-6-030	パネルシアターの使用および製作と保育者のキャリア支援ー教職・保育士養成課程における多様な子ども支援の観点からー	荒川区子ども家庭総合センター 国立音楽大学	○ 浅 野 俊 幸 山 本 智 子
K-A-6-031	病気・障がいのある子どもの地域共生支援と音楽ー医療的ケア児の参加支援に係る検討を中心にー	国立音楽大学	○ 山 本 智 子
K-A-6-032	保育・子育て支援と社会的養育の関連をめぐる歴史の変遷ー戦後の混乱期を中心にー	静岡県立大学短期大学部	○ 松 浦 崇
K-A-6-033	保育者養成校の学生への子どもの権利教育についてーワークを通しての学びー	聖ヶ丘保育専門学校	○ 蠣 崎 尚 美

K-B-1 保育マネジメントなど

5月10日(土) 15:10～16:25

第1会場

座長：岩 立 京 子・田 中 謙

- | | | | |
|-----------|---|---|--|
| K-B-1-034 | 保育所マネジメントにおける保育実践のリデザインの特質 | 日本大学
道灌山学園保育福祉専門学校
社会福祉法人にじの会
小金西グレースこども園
社会福祉法人徳育会東立
石保育園 | ○ 田 中 謙
池 田 幸 代
山 田 裕 宇 記
高根沢 康 浩 |
| K-B-1-035 | ミドルリーダー保育者の労働・生活実態の課題
考察(1)
ー生活時間調査の事例分析からー | (学)俊幸学園 青木幼稚園
白百合女子大学 | ○ 原 田 憲 子
佐 藤 千 晶 |
| K-B-1-036 | 精神分析的理解に基づく保育園への心理的介入
の効果「対応に苦慮する保護者」対応(1)
ー臨床心理士の役割ー | 東京福祉大学 | ○ 山 田 一 子 |
| K-B-1-037 | 精神分析的理論に基づく臨床心理士の心理的介入
の効果「対応に苦慮する保護者」対応(2)
ー園長の役割ー | 関東学院大学教育学部こども
発達学科教育実践センター | ○ 長 門 久 美 子 |

K-B-2 保育思想・保育理論・保育史など1

5月10日(土) 15:10～16:25

第3会場

座長：石 川 昭 義・桜 井 剛

- | | | | |
|-----------|--|-------------|-----------|
| K-B-2-038 | 保育の自然物の活用に果たした膳たけの役割について | 新島学園短期大学 | ○ 桜 井 剛 |
| K-B-2-039 | デンマークの幼稚園運動における民衆幼稚園運動への分化
ーバッガー夫妻とウルフ姉妹の貢献に着目してー | 神戸教育短期大学 | ○ 上 田 星 |
| K-B-2-040 | 1949・50年の東洋英和女学院保育専攻部における保育者養成
ー教授内容記録に着目してー | 東洋英和女学院大学 | ○ 佐 藤 浩 代 |
| K-B-2-041 | 文部省幼稚園教育課における幼児教育改革構想と1989年幼稚園教育要領改訂 | お茶の水女子大学大学院 | ○ 藤 谷 未 央 |

K-B-3 児童文化・児童文化財など

5月10日(土) 15:10～16:25

第5会場

座長：村 田 康 常・佐々木 由美子

K-B-3-042	「おむすびころりん」の変容 —1960年代までの作品を中心に—	東京未来大学 フェリシアこども短期大学	○ 佐々木 由美子 相 澤 京 子
K-B-3-043	保育現場における絵本を読みあう場の形成と展開 —子どもの絵本体験を広げる保育実践のエピソードから—	名古屋柳城女子大学 名古屋柳城短期大学附属 柳城幼稚園	○ 村 田 康 常 黒 岩 茉 由
K-B-3-044	ブックスタートの利用と学生の絵本への親しみ 感の関連性についての一考察	大妻女子大学	○ 樋 口 陽 子
K-B-3-045	1970年代の絵本雑誌における保育絵本批判の検討	大阪総合保育大学	○ 井 岡 瑞 日

K-B-4 保育環境・保育教材 1

5月10日(土) 15:10～16:25

第4会場

座長：永 倉 みゆき・田 中 沙 織

K-B-4-046	IT環境を用いた発達支援の試み	株式会社グレイス	○ 山 田 実
K-B-4-047	テキスタイル教材を用いた遊びが幼児教育に与 える実践的考察	東京家政大学	○ 岡 本 恵
K-B-4-048	幼稚園のピオトープ造成過程における自然体験 活動の意義—子どもたちと作るメダカ池—	玉成保育専門学校	○ 加 納 拓 朗
K-B-4-049	保育環境と身体活動との関連性について —1・2歳児の身体活動に着目して—	九州産業大学	○ 田 中 沙 織

K-B-5 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど

5月10日(土) 15:10～16:25

第2会場

座長：日 浦 直 美・富 田 雅 子

K-B-5-050	在日中国人家庭の育児戦略に関する研究 —三つの地域に在住する保護者へのインタ ビューを通して—	東京大学大学院教育学研 究科	○ 倪 琳 林
K-B-5-051	1990から2030年までの「中国婦女発展綱要」 の変遷に関して —pythonを用いてテキストマイニングを通じて—	大阪総合保育大学大学院	○ 于 丹
K-B-5-052	文化的に多様な子どもを包摂する「多文化共生 保育」実現を目指して —保育現場の現状と保育者養成校のカリキュラ ム構築—	岩国短期大学 広島文化学園短期大学 岩国短期大学 岩国短期大学 岩国短期大学	○ 井 上 美 佳 富 田 雅 子 朝 倉 なぎさ 西 本 裕 子 中 村 洋 子
K-B-5-053	文化的に多様な子どもを受け入れる保育に関す る研究 —利用者のコミュニティの違いに着目して—	広島文化学園短期大学 岩国短期大学	○ 富 田 雅 子 井 上 美 佳

□頭発表 C

K-C-1 乳児保育（0,1,2 歳児保育）など

5月10日（土） 16:40～18:30

第1会場

座長：寺 見 陽 子・滝 口 圭 子

K-C-1-054	0, 1 歳児の保育における緩やかな担当制への実践プロセス（Ⅱ） ー遊び保育とチーム保育を土台に新たな保育を志す園の取り組みー	新潟青陵大学短期大学部 学校法人恵愛学園 幼保連携型 認定こども園 愛泉こども園 学校法人恵愛学園 幼保連携型 認定こども園 愛泉こども園、 清津福祉会 中里なかよし保育園	○ 上 原 由 美 中 村 千 草 廣 田 幸 子
K-C-1-055	0・1・2 歳児保育における保護者と保育者との関係が家庭養育の質と保育の質に与える影響に関する考察	大阪公立大学大学院現代 システム科学研究科	○ 寺 見 陽 子
K-C-1-056	保育士が乳児に「寄り添う」とはどういうことか？ ～看護分野の「傾聴」に着目して～	佼成育子園 広島大学	○ 水 野 佳津子 中 坪 史 典
K-C-1-057	2 歳児クラスにおける保育の質の探索的検討 ー保育の環境と保育者のかかわりからー	金沢大学 東京大学 大阪教育大学 宮城教育大学 香川大学	○ 滝 口 圭 子 野 澤 祥 子 小 崎 恭 弘 香曾我部 琢 松 井 剛 太
K-C-1-058	低年齢児保育に関する保育者の認識（2） ー安全に着目してー	駒沢女子短期大学 武蔵野大学 川村学園女子大学 千葉大学	○ 猪 熊 弘 子 箕 輪 潤 子 菅 井 洋 子 淀 川 裕 美
K-C-1-059	乳児保育における食事場面に関する研究動向 ー乳児の発達と保育者の視点に着目してー	大阪総合保育大学大学院	○ 川 中 義 博

K-C-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）1

5月10日（土） 16:40～18:10

第18会場

座長：花 輪 充・後 藤 祐 子

K-C-2-060	保育現場における劇活動の意義	東京家政大学	○ 花 輪 充
K-C-2-061	五感を刺激する実体験を重視した領域「環境」の指導に関する一考察	フェリシアこども短期大学	○ 舟 生 直 美
K-C-2-062	五感を使った音遊びにおける子どもの表現の育ち ー0・1・2 歳児の身体表現活動から見えることー	宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学	○ 星 崎 明 里 後 藤 祐 子
K-C-2-063	五感を使った音遊びにおける子どもの表現の育ち ー3・4・5 歳児の身体表現活動から見えることー	宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学	○ 後 藤 祐 子 星 崎 明 里
K-C-2-064	保育園における食育への取組み ～行事食に着目して～	国際学院埼玉短期大学 あおぞらウィンクルム保育園 学校法人千葉学園	○ 上 原 典 子 大 野 智 子 花 島 慶 子

K-C-3 保育専門職の養成など 1

5月10日(土) 16:40～17:55

第3会場

座長：瀧 川 光 治・戸 田 大 樹

K-C-3-065	自由視点 VR を活用した実習不安を軽減する試 みについて —個人情報に配慮した活動データの利用—	駿河台大学 創価大学	○ 館 秀 典 戸 田 大 樹
K-C-3-066	保育現場におけるリトミツの実態	小田原短期大学 名古屋女子大学短期大学部	○ 加 藤 由紀子 安 藤 恭 子
K-C-3-067	保育実習における責任実習に伴う学生の意識や 心情の変化について	和泉短期大学 和泉短期大学	○ 杉 田 美 香 矢 野 由佳子
K-C-3-068	大学と幼保連携型認定こども園との連携した保 育者養成の実践	環太平洋大学	○ 小 崎 遼 介

K-C-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 2

5月10日(土) 16:40～18:10

第5会場

座長：榎 沢 良 彦・安 藝 雅 美

K-C-4-069	モンテッソーリ理論の視点から見る保育者の リーダーシップ	芦屋大学	○ 安 藝 雅 美
K-C-4-070	保育学生を対象とした「食」に関する STEAM 教育のための導入教材のデザイン —食材を栄養学的な側面と生物機能開発学的な側面と いう異なる視点から捉えられる教材開発に向けて—	東京農業大学	○ 森 元 真 理
K-C-4-071	見守る行為の熟達化に関する検討 - 中堅保育者 のライフストーリーから -	白梅学園大学大学院	○ 吉 田 和 馬
K-C-4-072	不適切保育に関する研究：保育者に及ぼす心理 的影響等調査から	東京未来大学	○ 宮 田 美恵子
K-C-4-073	保育者を育てる熟達保育者の意識 —保育者 A の語りに着目して—	名古屋市立大学研究員	○ 亀 井 慶 子

K-C-5 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 2

5月10日(土) 16:40～18:10

第4会場

座長：井 桁 容 子・千 葉 千恵美

K-C-5-074	保育所における児童虐待防止における支援方法について	高崎健康福祉大学	○ 千 葉 千恵美
K-C-5-075	子育て支援の場における保育学生の学び ー学生による振り返りの分析を中心にー	茨城女子短期大学	○ 国府田 はるか
K-C-5-076	保育現場における経験年数による保護者支援・ 子育て支援の現状と課題 ～アンケート調査を参考に～	九州ルーテル学院大学	○ 香 崎 智郁代
K-C-5-077	何故、保育所で貧困は問題化しにくいのか	お茶の水女子大学大学院生	○ 猪 熊 純 子
K-C-5-078	離職回避の視点から見た保護者支援 ーリーダー保育士の実態調査よりー	秋草学園短期大学 昭島ナオミこども園	○ 伊 能 恵 子

K-C-6 幼保一体化・幼保小連携など

5月10日(土) 16:40～18:10

第2会場

座長：津 金 美智子・東 尾 晃 世

K-C-6-079	幼保連携型認定こども園における鍵盤ハーモニ カを用いた音遊びの実践	早稲田大学	○ 稲 生 涼 子
K-C-6-080	子どもの表現を捉える観点の同異 ー小学校教師と保育者の比較からー	東京家政大学 中部学院大学短期大学部	○ 小 室 明 久 倉 畑 萌
K-C-6-081	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を手 掛かりにした幼保小接続期の展開 ースタートカリキュラム映像教材作成に至るまでー	宮城教育大学	○ 鈴 木 美佐緒
K-C-6-082	スウェーデンの幼小連携制度に関する地方自治 体間比較	国立教育政策研究所	○ 矢 崎 桂一郎
K-C-6-083	遊びを通して学ぶ就学前の子どもの姿 ー数の分解に着目してー	大阪教育大学	○ 東 尾 晃 世

□頭発表 D

K-D-1 保育専門職の養成など 2

5月11日(日) 9:00～10:30

第1会場

座長：坪 井 葉 子・滝 沢 ほだか

K-D-1-084	造形・音楽・身体表現を連携させた保育内容「表現」の指導法に関する研究(4) —指導計画から発展させた表現活動について—	岡崎女子短期大学 岡崎女子短期大学 岡崎女子短期大学	○ 滝 沢 ほだか 横 田 典 子 山 田 悠 莉
K-D-1-085	保育者養成課程における紙芝居や絵本への関心を高めるための実践報告(1) —保育・子育て研究所の取り組み—	洗足こども短期大学 洗足こども短期大学 洗足こども短期大学	○ 坪 井 葉 子 長 島 万里子 柳 井 郁 子
K-D-1-086	保育者養成課程における紙芝居や絵本への関心を高めるための実践報告(2) —アンケート調査の分析から—	洗足こども短期大学 洗足こども短期大学 洗足こども短期大学	○ 柳 井 郁 子 長 島 万里子 坪 井 葉 子
K-D-1-087	時代を拓いた保育者は自らの職業人生をどう語るのか(1) —“保育者になっていく選択”のライフストーリー—	山村学園短期大学 元浦和大学 関西福祉科学大学 静岡県立大学短期大学部 武蔵野短期大学 相山女学園大学	○ 室 井 佑 美 相 沢 和 恵 太 田 顕 子 甲 賀 崇 史 酒 井 幸 子 丹 羽 健太郎
K-D-1-088	時代を拓いた保育者は自らの職業人生をどう語るのか(2) —特別な配慮を要する子どもを幼児教育の文脈の中で捉え、理論と実践を深めるライフストーリー—	東九州短期大学 小田原短期大学 板橋区子ども家庭部 共立女子大学 千葉大学 こども教育宝仙大学	○ 森 依 子 杉 崎 雅 子 中 野 圭 子 広 瀬 由 紀 真 鍋 健 守 巧

K-D-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）2

5月11日（日） 9:00～10:30

第18会場

座長：渡 邊 英 則・守 川 美 輪

K-D-2-089	幼児教育における木を素材としたコーナー遊び の内容と方法	宮崎国際大学 あおぞら幼稚園 あおぞら幼稚園	○ 守 川 美 輪 齋 藤 いずみ 仲 田 美 和
K-D-2-090	紙製4足受動歩行模型の制作と遊び ー子供の概念発達の可能性ー	名古屋文化学園保育専門 学校	○ 永 井 弘 人
K-D-2-091	地域の伝統文化による保育実践 ー「神楽と音楽表現」からの考察ー	名古屋女子大学短期大学部 保育所型認定こども園みのり保育園	○ 平 澤 節 子 高 橋 比呂美
K-D-2-092	子ども・保育者・演奏者の共主体による鑑賞活 動の実践	沖縄女子短期大学 社会福祉法人 養秀福祉会 首里当蔵保育園 社会福祉法人 養秀福祉会 首里当蔵保育園	○ 赤 嶺 絵吏子 大 城 祥 恵 嶺 間 心
K-D-2-093	楽器の自由探索を支える保育者の役割	田園調布雙葉小学校附属 幼稚園	○ 長谷川 春 香

K-D-3 保育思想・保育理論・保育史など2

5月11日（日） 9:00～10:15

第3会場

座長：田 中 敏 明・太 田 素 子

K-D-3-094	園長、保育者の保育の基本に対する考え方	豊岡短期大学 中村学園大学短期大学部 西九州大学短期大学部	○ 田 中 敏 明 永 渕 美香子 金 丸 智 美
K-D-3-095	小林宗作の幼児理解	和光大学 和光大学	○ 後 藤 紀 子 太 田 素 子
K-D-3-096	1890年におけるパティ・ヒルの保育実践	実践女子大学	○ 野 尻 美 枝
K-D-3-097	保育環境の歴史的変遷 ー幼稚園における園庭環境ー	武庫川女子大学大学院	○ 福 田 篤 子

K-D-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 3

5月11日(日) 9:00～10:30

第5会場

座長：上 村 晶・ポーター 倫 子

- | | | | |
|-----------|--|------------------|----------------------|
| K-D-4-098 | 園の音楽文化と保育者の音楽指導観醸成に関する研究(2)
ー子ども中心の音楽活動の再構築に向けてー | 佛教大学
学校法人水谷学園 | ○ 白 井 奈 緒
水 谷 秀 史 |
| K-D-4-099 | 保育・幼児教育施設から求められる保育者の資質能力について
ー山梨県内の保育・幼児教育施設からのアンケート調査結果よりー | 帝京学園短期大学 | ○ 井 上 聖 子 |
| K-D-4-100 | 保育職におけるマインドフルネスの必要性ー省察的実践とマインドフルネス | 北陸学院大学 | ○ ポーター 倫 子 |
| K-D-4-101 | 我が国の保育における危機管理研究の時代的変遷
ー保育者の危機管理意識に着目してー | 大阪総合保育大学大学院 | ○ 野 中 奏 |
| K-D-4-102 | 応答的なかわりについて保育者の理解を深める試み
ー保育の質の向上を目指してー | 九州産業大学 | ○ 三 原 詔 子 |

K-D-5 教育計画・保育計画・指導計画・評価など、その他

5月11日(日) 9:00～10:30

第4会場

座長：中 村 恵・岡 田 泰 枝

- | | | | |
|-----------|--|------------------------------|----------------------|
| K-D-5-103 | 保育士は保育日誌をどのように書いてきたか
ー世代別保育士の語りを通してー | 広島大学大学院 | ○ 前 田 寛 子 |
| K-D-5-104 | 領域「環境」を核としたサステナビリティ・コンピテンシーに関する幼児教育プログラム評価指標の検討 | 白百合女子大学
東京学芸大学 | ○ 大 貫 麻 美
原 口 る み |
| K-D-5-105 | スウェーデンの就学前教育における組織的な質の取り組み その2
ーある民間の就学前学校の質の評価についての取り組みからー | 愛知淑徳大学 | ○ 岡 田 泰 枝 |
| K-D-5-106 | 子どもが行為主体となる ICT 活用とは | 畿央大学 | ○ 中 村 恵 |
| K-D-5-107 | 幼児向けプログラミング・トイを活用した活動プログラム開発
ートイオ・プレイグラウンドの活用を中心としてー | 帝京平成大学
NPO法人東京学芸大こども未来研究所 | ○ 村 山 大 樹
新 名 佐和子 |

K-D-6 保育者の資質能力・保育者の専門性など 4

5月11日(日) 9:00～10:30

第2会場

座長：木戸啓子・岸野麻衣

K-D-6-108	保育士資格登録者の職場環境に対する意識についてⅡ－A県の実態調査における自由記述の分析から	倉敷市立短期大学 倉敷市立短期大学 倉敷市立短期大学	○ 小久保 圭一郎 長 櫓 涼 子 木 戸 啓 子
K-D-6-109	子どもと保育者が相互主体的に遊びを展開するプロセスと保育者の保育観	新見公立大学	○ 松 島 英 恵
K-D-6-110	園・地域を越えて共に省察し編み直す保育研修(1) －協働探究を通して学び合いを支える市町幼児教育アドバイザー養成－	福井大学 福井大学	○ 岸 野 麻 衣 宮 本 雄 太
K-D-6-111	園・地域を越えて共に省察し、編み直す保育研修(2) ～つながりを通して学びを共創する園内リーダー養成～	福井大学 福井大学	○ 宮 本 雄 太 岸 野 麻 衣
K-D-6-112	保育者のセカンドキャリアとしての大学教員 －語り合いにもとづくオートエスノグラフィーから－	比治山大学	○ 本 岡 美保子

K-E-1 保育専門職の養成など 3

5月11日(日) 10:45～12:00

第1会場

座長：中 川 智 之・有 村 さやか

K-E-1-113	保育者の意図が伝わることを目指した保育ドキュメンテーションの授業実践	尚綱大学 江戸川大学	○ 中 村 佐 里 波多野 和 彦
K-E-1-114	子ども理解を深める実習記録と実習事後指導の在り方	和泉短期大学 和泉短期大学	○ 星 早 織 松 山 洋 平
K-E-1-115	D X時代に向けた保育者養成カリキュラムの再考ー情報教育の立場からー	江戸川大学 尚綱大学 江戸川大学	○ 波多野 和 彦 中 村 佐 里 大 塚 紫 乃
K-E-1-116	地域の音楽文化を保育者養成課程に導入する試み(2) ー地域の祭り参加から見た学生の学びー	小田原短期大学 小田原短期大学	○ 有 村 さやか 山 本 華 子

K-E-2 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）3

5月11日(日) 10:45～12:00

第18会場

座長：小 川 清 実・林 浩 子

K-E-2-117	「子どもの主体的な音楽表現を導く保育者の対話的アプローチ」 ー鈴の楽器遊び活動を通してー	東京福祉大学短期大学部 聖隷クリストファー大学	○ 本 野 洋 子 二 宮 貴 之
K-E-2-118	劇活動に対する保育士の意識と現場での位置づけ ーアンケート調査から読み取れる保育士の考え方ー	東京家政大学大学院人間生活学総合研究科児童学 児童教育学専攻	○ 田 代 梓
K-E-2-119	保育の中で生まれた歌から見てきたこと ー4歳児 ツバメとの出会いからー	国立音楽大学附属幼稚園 国立音楽大学附属幼稚園	○ 高 久 結 衣 林 浩 子
K-E-2-120	ある幼稚園の菜園活動に関する一考察 ー食科学大学とともにー	大東文化大学	○ 金 澤 妙 子

K-E-3 保育思想・保育理論・保育史など 3

5月11日(日) 10:45～12:15

第3会場

座長：湯 川 嘉津美・吉 田 昌 弘

K-E-3-121	戦後、昭和の時代を創造したリーダーたちのオーラルヒストリーその4 ーキリスト教保育を支えてきたリーダーらの語りからー	白梅学園子ども学研究所 白梅学園大学 白梅学園短期大学	○ 松 永 静 子 村 上 博 文 源 証 香
K-E-3-122	戦前期愛育会における愛育研究所教養部の活動	武蔵野短期大学	○ 相 楽 真樹子
K-E-3-123	倉橋惣三の保育論究明の取り組みと心理学的基礎	淑徳大学教育学部	○ 吉 田 昌 弘
K-E-3-124	戦後初期における幼稚園教員養成の模索	上智大学	○ 湯 川 嘉津美
K-E-3-125	津守真のメルロ＝ポンティ観 ー「表現の他者論」に触れながらー	玉川大学	○ 大豆生田 芽吹

K-E-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 5

5月11日(日) 10:45～12:15

第5会場

座長：久 富 陽 子・久保田 真規子

K-E-4-126	子どもに寄り添う保育者の園内研修の歩み ～主体的に遊ぶこどもを願いとして～	新潟中央短期大学 佼成育子園	○ 久保田 真規子 水 野 佳津子
K-E-4-127	園庭をもたない駅前保育施設の環境構成における保育者の意識の変容に関する研究 ー園内研修を活用した取組に着目してー	帝京科学大学	○ 渡 辺 令 子
K-E-4-128	子どもとの関わりにおける「判断の枠組み」の可視化	大妻女子大学 大妻女子大学 至宝福祉会 大阪総合保育大学大学院	○ 檜 木 彩 久 富 陽 子 前 原 寛 阿 部 和 子
K-E-4-129	ミドルリーダーを対象とした園内研修の実施とその評価	幼保連携型認定こども園 黒野こども園	○ 西 垣 浩 康
K-E-4-130	新人保育者の遊びの理解と援助の変容に関する研究(1)	東京家政大学 東京家政大学 東京家政大学附属みどりヶ丘幼稚園	○ 前 田 和 代 掘 科 本 村 真 弓

K-E-5 保育環境・保育教材 2

5月11日(日) 10:45～12:15

第4会場

座長：香曾我部 琢・三 好 伸 子

K-E-5-131	絵本の読み合いによる感覚的な語り合いの有意 味性(1) —『ねんねこねんねこピー』のページ感想より—	金沢星稜大学 北陸学院大学	○ 三 好 伸 子 谷 昌 代
K-E-5-132	絵本の読み合いによる感覚的な語り合いの有意 味性(2) —保育者の感想の分類より—	北陸学院大学 金沢星稜大学	○ 谷 昌 代 三 好 伸 子
K-E-5-133	デジタル壁面構成の可能性(2) —音を取り入れた教材開発—	鈴鹿大学短期大学部 ユマニテク短期大学	○ みやざき 美栄 田 中 裕 子
K-E-5-134	3歳児の発達と保育の質との関連の検討 —「保育の質と子どもの発達に関する縦断的研 究」から—	東京大学 金沢大学 香川大学 大阪教育大学 宮城教育大学	○ 野 澤 祥 子 滝 口 圭 子 松 井 剛 太 小 崎 恭 弘 香曾我部 琢
K-E-5-135	架け橋期の言語力への関心について—「なぞな ぞ」の教材製作における学生の視点から探る—	聖心女子大学	○ 細 田 成 子

K-E-6 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど

5月11日(日) 10:45～12:00

第2会場

座長：西 本 望・石 黒 万里子

K-E-6-136	ノルウェーの保育実践における子どもの「参加 する権利」	武蔵野大学	○ 松 田 こずえ
K-E-6-137	中国における少数民族に対する就学前教育・初 等教育における民族文化	大阪公立大学大学院 大阪公立大学大学院	○ 馬 春 陽 吉 田 直 哉
K-E-6-138	ジェンダーの視点から見る保育者の意識 —幼児教育におけるアンコンシャスバイアスに 関する調査研究(1)—	お茶の水女子大学 東京成徳大学 お茶の水女子大学	○ 小 玉 亮 子 石 黒 万里子 辻 谷 真知子
K-E-6-139	ジェンダーの視点から見る保育環境 —幼児教育におけるアンコンシャスバイアスに 関する調査研究(2)—	お茶の水女子大学 東京成徳大学 お茶の水女子大学	○ 辻 谷 真知子 石 黒 万里子 小 玉 亮 子

□頭発表 F

K-F-1 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など、その他 3

5月11日(日) 13:00～14:50

第1会場

座長：遠 藤 利 彦・鶴 宏 史

K-F-1-140	「みて」を介した他者との共有は幼児の発達をどう支えるか	滋賀短期大学	○ 菅 眞佐子
K-F-1-141	「物」や「現象」と関わる遊びにおける乳児の理論の特徴 －1歳児の「斜面転がし遊び」を事例として－	大阪大谷大学	○ 小 谷 卓 也
K-F-1-142	保育施設において保育者が行うペアレント・トレーニングは保護者にとっていかなるものか	広島大学大学院	○ 玉 城 美千子
K-F-1-143	保育所等における子ども家庭支援の充実を図る推進事業に関する研究(1) －自治体ごとの家庭支援推進保育事業の概要－	武庫川女子大学 大阪公立大学大学院 神戸大学大学院	○ 鶴 宏 史 木 曾 陽 子 松 山 聖 奈
K-F-1-144	保育所等における子ども家庭支援の充実を図る推進事業に関する研究(2) －ニーズ評価と課題の明確化－	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 武庫川女子大学教育学部 大阪公立大学大学院現代システム科学研究科	○ 松 山 聖 奈 鶴 宏 史 木 曾 陽 子
K-F-1-145	保護者と保育者の関係発達に伴う保護者の意識変容に関する検討	早稲田大学 大学院	○ 城 田 美 好

K-F-2 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など

5月11日（日） 13:00～14:50

第18会場

座長：東 義也・田 甫 綾 野

K-F-2-146	保護者参加、異年齢児集団による共同養育を目指して - 「保育所保育指針」の批判的検討	尚綱学院大学 尚綱学院大学	○ 岩 倉 政 城 東 義 也
K-F-2-147	既存の枠にとらわれない園行事 －年長児と共に創る実践を通して見えたこと－	株式会社フレーベル館 株式会社フレーベル館 株式会社フレーベル館	○ 原 島 有紀乃 柴 田 直 美 汐 見 和 恵
K-F-2-148	スウェーデンのナショナルカリキュラムを基に、 より具体的に表現した子どもの学び ①保育・教育の価値観を学びのカテゴリーに ②「今日という日のわたし」への想いをドキュメンテーションに IMA から MIRAI への架け橋が見えてくる	ChaCha Children Todoroki ChaCha Children & Co. ChaCha Children & Co. ChaCha Children Soshigayakoen	○ 三 山 美美子 大 橋 陽 子 迫 田 圭 子 最 上 秀 樹
K-F-2-149	保育への現象学的アプローチにおける保育者の地平	郡山女子大学短期大学部 大阪公立大学大学院	○ 安 部 高太朗 吉 田 直 哉
K-F-2-150	園文化から生まれる「保育方法」を見出す必要性について	目白大学 玉川大学 日本女子大学 東京成徳大学	○ 松 永 愛 子 田 甫 綾 野 浅 野 由 子 尾 上 佳 代
K-F-2-151	幼児の造形遊びにみる論理的思考の萌芽（3） 4歳児クラスにおける幼児のクラフト紙を用いた遊びに関する分析	白百合女子大学 白百合女子大学 白百合女子大学	○ 椎 橋 元 貴 大 貫 麻 美 石 沢 順 子

K-F-3 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）4

5月11日（日） 13:00～14:15

第3会場

座長：鈴 木 裕 子・角 地 佳 子

K-F-3-152	子どもと絵本との関わりに関する研究X V		○ 和 田 香 誉
K-F-3-153	幼児の自由画におけるキャラクターの表出について －子どもを取り巻く環境の変化－	大阪国際大学短期大学部	○ 角 地 佳 子
K-F-3-154	保育における ICT を活用した表現活動（2） －5歳児 映像表現と音づくり－	竹早教員保育士養成所 竹早教員保育士養成所 NPO法人東京学芸大こども未来研究所	○ 赤 津 裕 子 白 井 真 里 新 名 佐和子
K-F-3-155	保育における遊び場面の「リスク」とは	大妻女子大学大学院	○ 板 東 愛理香

K-F-4 保育者の資質能力・保育者の専門性など 6

5月11日(日) 13:00～14:30

第5会場

座長：虫 明 淑 子・境 愛一郎

K-F-4-156	他職種から保育者にキャリアチェンジするプロセスの検討	共立女子大学	○ 境 愛一郎
K-F-4-157	ケア論からみた保育の専門性(4)	華頂短期大学 ユマニテク短期大学 ユマニテク短期大学	○ 渋谷 郁子 山野 栄子 小島 佳子
K-F-4-158	園としての同僚性に基づく保育実践の検討	北陸学院大学	○ 虫 明 淑 子
K-F-4-159	保育所でキャリアを積み上げた保育者が幼稚園異動によって受けるその後のキャリア形成への影響	関西保育福祉専門学校	○ 阪 本 満
K-F-4-160	子どもと「受け止め合う」保育者の葛藤	愛知淑徳大学	○ 杉 山 和

K-F-5 保育マネジメントなど

5月11日(日) 13:00～14:15

第4会場

座長：青 木 一 永・井 上 果 子

K-F-5-161	保育園を利用する「対応に苦慮する保護者」の力動理解 ー研修の評価を通じた分析ー	横浜市 こども青少年局 保育・教育運営課	○ 高 岩 恭 子
K-F-5-162	「対応に苦慮する保護者」との関りに関する保育士の問題意識：質問紙調査から(1)	オフィスカルム 横浜国立大学 横浜国立大学	○ 桜 永 昌 徳 田 村 和 子 井 上 果 子
K-F-5-163	「対応に苦慮する保護者」との関わりに関する保育士の問題意識：質問紙調査から(2)	横浜国立大学 オフィスカルム 横浜国立大学	○ 田 村 和 子 桜 永 昌 徳 井 上 果 子
K-F-5-164	X市における保育者の役割とキャリアからみる意識についての調査	鳴門教育大学大学院 鳴門教育大学大学院	○ 坪 井 順 子 佐々木 晃

K-F-6 保育専門職の養成など 4

5月11日(日) 13:00～14:30

第2会場

座長：遠 藤 晶・杉 山 祐 子

K-F-6-165	離職保育士の復職支援に関する研究 ー復職保育士の質問紙調査よりー	中部学院大学短期大学部 中部学院大学 修文大学短期大学部 鈴鹿大学短期大学部	○ 杉 山 祐 子 植 松 勝 子 友 永 良 子 南 谷 悠 子
K-F-6-166	合理的配慮に対する保育者養成大学生の意識に関する研究	フェリシアこども短期大学 武蔵野大学	○ 中 村 麻衣子 松 田 こずえ
K-F-6-167	保育学生がイメージする子ども主体を意識した関わり方について	星美学園短期大学 洗足こども短期大学	○ 大 井 美 緒 伊 藤 路 香
K-F-6-168	保育の質を高める実践⑤ ー身体表現遊びにおける共感的相互作用を高める指導ー	武庫川女子大学 武庫川女子大学	○ 遠 藤 晶 久 米 裕紀子
K-F-6-169	保育の質を高める実践⑥ ー保育を観る力を育むー	武庫川女子大学 教育学科 武庫川女子大学 教育学科	○ 久 米 裕紀子 遠 藤 晶

ポスター発表 A

P-A-1 幼保一体化・幼保小連携など 1

5月10日(土) 13:00～14:00

ポスター会場 2 アリーナ

座長：神 長 美津子・榎 英 子

P-A-1-001	保育者養成校における小学校との交流授業の実践と考察	長野短期大学	○ 水 野 道 子
P-A-1-002	校種合同研修による幼小接続 ：造形表現活動の研修から	千葉大学 淑徳大学 千葉大学教育学部附属幼稚園	○ 小 橋 暁 子 榎 英 子 井 上 郁
P-A-1-003	幼保小連携接続の効果と課題に対する園長と小学校校長の認識	共立女子短期大学 学習院大学 東海大学	○ 一 前 春 子 秋 田 喜代美 天 野 美和子
P-A-1-004	幼保小連携・接続における「遊び」から「学び」の様相	帝京大学 帝京大学	○ 田 崎 教 子 阪 本 秀 典
P-A-1-005	実践の足跡から編成する幼小接続カリキュラム 一人と自然と暮らしを大切にした実践者たちの挑戦—	軽井沢風越幼稚園 鳴門教育大学	○ 奥 野 千 夏 佐々木 晃
P-A-1-006	幼保小の架け橋プログラムの実践 —京都市の研究ブロックでの取組—	京都市立楊梅幼稚園	○ 外 薊 知 子
P-A-1-007	保育者と小学校教員の音楽表現教育における「豊か」観の接続	中国短期大学	○ 渡 辺 ユリナ
P-A-1-008	幼保小および家庭の連携に関する一考察	名古屋柳城女子大学	○ 菊 地 篤 子
P-A-1-009	親密圏での関わりを目指した幼小交流活動の在り方 —子ども同士の相互承認の変化に着目して—	香川大学教育学部附属幼稚園高松園舎 香川大学	○ 片 岡 今日子 松 井 剛 太

P-A-2 幼保一体化・幼保小連携など 2

5月10日(土) 13:00～14:00
ポスター会場2 アリーナ
座長：井 上 孝 之・溝 邊 和 成

P-A-2-001	幼保小の接続に関する研究動向	飯田短期大学 飯田短期大学 飯田短期大学	○ 波 多 彩 花 隣 谷 正 範 菱 田 博 之
P-A-2-002	架け橋期のカリキュラムにおける保育者と小学校教員の認識の違い	群馬医療福祉大学 埼玉純真短期大学 育英大学 小田原短期大学 中部大学	○ 時 田 詠 子 塚 越 亜希子 田 中 卓 也 中 塚 健 一 中 島 眞 吾
P-A-2-003	園と卒園児家庭が関わりを持ち続けることの意義と可能性 ー集団共同型子育て再生プロジェクト(1) 職員インタビューからー	フレーベル館 フレーベル館 東京大学大学院教育学研究科 東京大学大学院教育学研究科	○ 柳 瀬 瑞 穂 石 山 幸 恵 廣 戸 健 悟 山 口 舞
P-A-2-004	“ナナメ”の関係からみる園での小学生ボランティア ー集団共同型子育て再生プロジェクト(2) 小学生インタビューからー	東京大学大学院教育学研究科 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 東京大学大学院教育学研究科 フレーベル館 フレーベル館	○ 廣 戸 健 悟 野 澤 祥 子 山 口 舞 石 山 幸 恵 柳 瀬 瑞 穂
P-A-2-005	ICTによる伴走型コンサルティングにおける幼保小連携の可能性	群馬大学大学院 岩手県立大学 東北福祉大学	○ 音 山 若 穂 井 上 孝 之 上 村 裕 樹
P-A-2-006	幼小接続期におけるカリキュラム作成とその実際	大阪市立東桃谷小学校 大阪市立東中川小学校 大阪市立味原小学校 大阪市立味原幼稚園 九州共立大学	○ 坂 田 紘 子 大久保 舞 岩 本 哲 也 三 宅 理 恵 溝 邊 和 成
P-A-2-007	幼小接続の取り組みにおける保育者・教師の学び ーインタビュー分析を通してー	新潟大学教職大学院 福井大学教職大学院	○ 中 島 伸 子 岸 野 麻 衣
P-A-2-008	保育士養成校学生が考える保幼小接続 ー地域の小学校とのふれあい活動を通して学んだことー	松山東雲短期大学	○ 岡 田 恵

P-A-3 児童文化・児童文化財など

5月10日(土) 13:00～14:00

ポスター会場2 アリーナ

座長：大 沢 裕・村 田 あゆみ

P-A-3-001	絵本の研究(6) ーヨシタケシンスケの絵本「もうぬげない」を 小学生はどう読むのかー	東京福祉大学	○ 戸 次 佳 子
P-A-3-002	小学館刊行『幼稚園』に関する研究 ー幼児像と母親像の形成を中心にー	育英大学	○ 田 中 卓 也
P-A-3-003	上澤謙二の「おはなし」論 ー昭和初期から中期の著作の分析ー	名古屋柳城女子大学 名古屋女子大学 名古屋柳城女子大学	○ 山 本 聡 子 村 田 あゆみ 片 山 伸 子
P-A-3-004	子どもの生活技術の実態調査 ー持つ・削る・絞る・切る・結ぶー	NPO法人子ども研究所 松蔭大学 NPO法人子ども研究所 NPO法人子ども研究所 NPO法人子ども研究所	○ 野 川 智 子 大 沢 裕 高 橋 弥 生 室 矢 真 弓 飯 塚 広 美
P-A-3-005	エプロンシアター『くいしんぼうおばけ』にお ける保育学生の学びについて ー保育園における「学生の実践」を通してー	大泉保育福祉専門学校	○ 松 原 みゆき
P-A-3-006	保育教材としての絵本に関する一考察	関西学院短期大学	○ 手良村 昭 子
P-A-3-007	武内俊子研究 I	国立音楽大学	○ 八 幡 眞由美
P-A-3-008	ヴィゴツキーの児童文化論	花園大学	○ 伊 藤 美和子
P-A-3-009	パネルシアターの教材特性に関する検討 (4) ー操作性に着眼してー	東京家政大学 聖学院大学	○ 柿 沼 芳 枝 田 中 正 代

P-A-4 多文化教育・異文化理解・ジェンダーなど

5月10日(土) 13:00～14:00

ポスター会場2 アリーナ

座長：岡本 拡子・前田 和代

P-A-4-001	öppen förskola における言語カフェの取り組み ー外国にルーツをもつ親子のスウェーデン社会 への入り口としてー	関西学院大学	○ 吉 次 豊 見
P-A-4-002	海外で育つ日本の子どもの生活と遊びに関する 研究 ーシンガポールの就学前園児についてー	東京家政大学 東京家政大学	○ 渡 部 晃 正 前 田 和 代
P-A-4-003	外国人児童とその保護者への就学に向けた支援	足利短期大学 高崎健康福祉大学	○ 佐々木 由美子 岡 本 拡 子
P-A-4-004	幼児期における英語体験の影響と教育的意義に 関する研究	東京未来大学	○ 橋 元 知 子
P-A-4-005	外国籍親子への子育て支援における専門性につ いて	福山平成大学 中国短期大学	○ 小 野 順 子 山 本 房 子
P-A-4-006	カナダの幼児教育と Early Learning Framework (ELF) の実践：その理念と日本への示唆	奈良学園大学	○ 岡 野 聡 子
P-A-4-007	フランスにおける AGEEM (Association Générale des Enseignants des Ecoles et classes Maternelles publiques) の今日的役割に関する検討	福山市立大学	○ 大 庭 三 枝
P-A-4-008	神奈川県における多文化教育の意識と理解	特定非営利活動法人光の 子どもたちの会	○ 鈴 木 真由美

P-A-5 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）1

5月10日（土） 13:00～14:00
ポスター会場 1 ラーニングホール
座長：佐 伯 胖・西 隆 太 朗

P-A-5-001	絵本の読み聞かせにおける保育者と幼児にみられる言語的・非言語的やりとり	高知大学	○ 玉 瀬 友 美
P-A-5-002	音と光の即興、森のサウンドマップ —「触れる」「聴く」「見る」感覚で遊ぶ実践と質問紙調査—	常葉大学短期大学部保育科	○ 花 岡 清 美
P-A-5-003	地震防災保育と図上訓練を合わせた実践から見た保育者たちの気づき	高知大学 和歌山大学	○ 山 田 伸 之 丁 子 かおる
P-A-5-004	子どもとはぐくむ表現活動（15） —3年間のインタビュー調査結果を通して—	金沢めぐみ幼稚園	○ 多保田 治 江
P-A-5-005	保育の音楽活動の実態 —保育者のアンケート調査から—	武庫川女子大学大学院	○ 小 池 美知子
P-A-5-006	聴覚と嗅覚からのイメージが幼児の描画に及ぼす影響 —2つの実践の比較研究—	共栄保育園 大阪大谷大学教育学部幼児 教育実践研究センター	○ 森 佳 奈 奥 美佐子
P-A-5-007	保育者・教員養成課程における学生の感性和意欲を育む音楽会 —学生記述から見る成果と意義—	京都光華女子大学	○ 田 中 慈 子
P-A-5-008	保育者がとらえる保育内容としての手遊び歌の意味	徳島文理大学短期大学部 松山東雲短期大学	○ 児 嶋 輝 美 河 内 奈 穂
P-A-5-009	幼児期の遊びに関する事例研究 —指導計画と子どもから生まれる遊び—	ノートルダム清心女子大学 お茶の水女子大学	○ 伊 藤 美保子 西 隆 太 朗
P-A-5-010	乳幼児の造形表現におけるねらいについて —系統的カリキュラムの作成に向けて—	和歌山大学	○ 丁 子 かおる
P-A-5-011	身近な動物の飼育から子どもが生命を感じとっていく過程の発達の検討 —カタツムリ・ダンゴムシの世話をするE児の語りから—	静岡県立大学短期大学部	○ 甲 賀 崇 史

P-A-6 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）2

5月10日（土） 13:00～14:00
ポスター会場1 ラーニングホール
座長：田 爪 宏 二・高 原 和 子

P-A-6-001	楽器の自由探索によって育まれるものとは何か ー保育現場における幼児の遊び方に着目してー	玉川大学	○ 伊 原 小百合
P-A-6-002	生態学的自然観とは何か ー幼児期の持続可能性のための教育の観点からー	大阪大谷大学	○ 井 上 美智子
P-A-6-003	絵本の繰り返し読みが幼児のイメージ形成に及ぼす影響	大阪教育大学 連合教職大学院	○ 金 谷 美 穂
P-A-6-004	幼児の遊びが科学的になるための保育者の関わり方についての一考察	中村学園大学大学院 中村学園大学	○ 杉 野 万 季 石 田 靖 弘
P-A-6-005	保育実習前後の保育者養成学生の児童文化財に対する理解に関する研究 ー絵本、大型絵本、紙芝居に焦点を当ててー	香川短期大学 鎌倉女子大学 香川短期大学	○ 谷 口 聖 浅 井 拓久也 田 中 彩
P-A-6-006	子どもとつくる行事“朝市” ー5歳児の話し合いの経過からー	まゆみ幼稚園 香川大学	○ 金 倉 吏 志 松 本 博 雄
P-A-6-007	幼児期の飼育体験がもたらす心の育ち ーカナヘビ飼育の実践からー	さかた山風の子保育園	○ 長 井 美 怜
P-A-6-008	地域連携を通した SDGs 教材作成のための木育	京都女子大学 京都教育大学 熊本学園大学	○ 矢 野 真 田 爪 宏 二 吉 津 晶 子
P-A-6-009	保育現場における絵と言葉のリズムによる打楽合奏の検討	ユマニテク短期大学	○ 桂 山 たかみ
P-A-6-010	保育者養成課程における表現教育に関する研究 (13)	千葉大学 國學院大學	○ 駒 久美子 島 田 由紀子
P-A-6-011	保育者養成課程における表現教育に関する研究 (14)	國學院大學 千葉大学	○ 島 田 由紀子 駒 久美子
P-A-6-012	幼児の言語表現と発達との関連性 ー4歳児・5歳児の看図アプローチによる活動での発話過程に着目してー	福岡こども短期大学 福岡女学院大学	○ 福 永 優 子 高 原 和 子

ポスター発表 B

P-B-1 保育者の資質能力・保育者の専門性など 1

5月10日(土) 15:00～16:00

ポスター会場2 アリーナ

座長：古賀松香・音山若穂

P-B-1-001	保育の場における「子どもの表現」を保育者はどう捉えているのか	田園調布学園大学大学院 認定こども園平和学園幼稚園 かつみ学園 大和山王幼稚園	○ 一色里絵 小倉賢人
P-B-1-002	保育者の資質向上を目指して(その3) ー身体表現遊びを体験することからみえるものー	岡崎女子短期大学 京都文教大学	○ 小原幹代 本山益子
P-B-1-003	保育の質向上を支える地域における「保育研修 コーディネーター」に関する研究(2)	聖心女子大学 関東学院大学 玉川大学	○ 高嶋景子 三谷大紀 大豆生田啓友
P-B-1-004	一人ひとりの想いから生まれる協働遊び ー4歳児クラスのエピソードからー	富士市立鷹岡保育園	○ 石川智子
P-B-1-005	ウォーキングメソドロジーを用いた保育者の感 覚や感性を育む園内研修に関する一考察	香川大学 香川大学教育学部附属幼稚園高松園舎	○ 吉川暢子 片岡今日子
P-B-1-006	ICTによる伴走型コンサルティング(7) 共有への支援	東北福祉大学 岩手県立大学 群馬大学	○ 上村裕樹 井上孝之 音山若穂
P-B-1-007	保育者の主体性理解が幼児の主体性発揮に及ぼ す影響 ー理解度と実践の関連性の検討ー	岡山県立大学	○ 樟本千里
P-B-1-008	3歳未満児クラスを担当する保育者の「連携・ 協働」の形成プロセス	帝塚山大学 大阪総合保育大学 兵庫教育大学	○ 永井久美子 渡辺俊太郎 水落洋志
P-B-1-009	保育学生における保育者像の研究 ー保育者像の変容過程に着目してー	西日本短期大学 福岡女子短期大学	○ 下稻美里 前田亜由美
P-B-1-010	教育課程に係る教育時間外の教育及び保育にお ける保育者の連携に関する研究 ー連絡ノートの活用に注目してー	千葉明德短期大学	○ 小木曽友則
P-B-1-011	戦後幼稚園教育発展期における東京都公立幼稚 園の保育者の実践と意義に関する一考察	田園調布学園大学 (学)竹早学園 竹早教員保育士養成所 (学)竹早学園 竹早教員保育士養成所	○ 清水道代 小川貴代子 中村香津美

P-B-2 保育者の資質能力・保育者の専門性など 2

5月10日(土) 15:00～16:00

ポスター会場2 アリーナ

座長：上田敏丈・中田範子

P-B-2-001	保育者が子どもの声を聴く意味	関東学院六浦こども園 関東学院六浦こども園 関東学院六浦こども園	○ 千葉綾子 鈴木直江 村松直人
P-B-2-002	対話的アセスメントによる保育・子育て支援実践に関する研究(1) ー保育の質向上を図る園内研修の取組みについて考えるー	和洋女子大学	○ 矢萩恭子
P-B-2-003	集団と個が生かしあえる造形表現活動と保育者の関わり	常磐会短期大学	○ 平野真紀
P-B-2-004	ともにあるということ(3) ー「遊び」を通した研修における学びのあり方ー	奈良女子大学附属幼稚園 奈良女子大学附属幼稚園 奈良女子大学附属幼稚園 奈良女子大学附属幼稚園 奈良女子大学附属幼稚園	○ 鎌内菜穂 穴戸佳央理 辻岡美希 松田登紀 柿元みはる
P-B-2-005	公立幼稚園におけるミドルリーダーの役割 ー効果的な園運営とやりがいに関する分析ー	東京家政大学 名古屋市立大学 関西国際大学 西南学院大学 兵庫教育大学 広島大学 武蔵野大学	○ 野口隆子 上田敏丈 椋田善之 門田理世 鈴木正敏 中坪史典 箕輪潤子
P-B-2-006	園長のワークエンゲージメント ーこども誰でも通園制度をめぐるー	宮城教育大学 千葉大学 仙台青葉学院短期大学 仙台青葉学院短期大学 常葉大学 千葉明德短期大学 社会福祉法人 浄勝会 小池保育園 仙台白百合女子大学 東北生活文化大学短期大学部 東京家政学院大学	○ 香曾我部 琢 駒久美子 平山淑希 田宮希砂 石田淳也 郷家史芸 松延 毅 津田綾子 高橋恵美 中田範子
P-B-2-007	新任保育者の早期離職に関する要因について	愛知学泉短期大学	○ 伊藤照美
P-B-2-008	園内研修会のあり方の検討(3)	富山国際大学	○ 本江理子
P-B-2-009	遊びから学びへつなぐ援助の在り方 ー伝統的なうた遊びに焦点を置いてー	金城大学	○ 川邊音生
P-B-2-010	性別違和が想定される幼児への支援のあり方	富山大学	○ 小林 真
P-B-2-011	保育者の子ども理解を深める一考察(1) ーアート活動を通して待つことを実感するー	こどもの発達相談カ斯塔ネット	○ 真鍋 美智代

P-B-3 保育専門職の養成など、その他 1

5月10日(土) 15:00～16:00

ポスター会場 2 アリーナ

座長：三宅茂夫・森田健宏

P-B-3-001	保育者のインクルーシブ意識醸成に向けた研修 プログラムの開発 —児童発達支援事業所保育士を対象とした研修 の試み—	九州大学	○ 吉田 ゆり
P-B-3-002	幼児が本音で話し合う過程に関する一考察	岐阜聖徳学園大学	○ 松本 信吾
P-B-3-003	新人保育者が抱く困り感はどうに変容する のか—子どもとの関わり合いに焦点を当てて—	玉川大学大学院	○ 吉岡 尊
P-B-3-004	保育研究における保育者の子どもに対する応答 について	名古屋経済大学	○ 多川 則子
P-B-3-005	日本版 DBS 制度と保育者養成 —職業選択及び遂行の自由と保育刑事政策の視 点より	八洲学園大学	○ 小関 慶太
P-B-3-006	保育者養成における実習日誌に関する考察Ⅳ —保育現場の実習指導担当者への質問紙調査の 結果から—	西南女学院大学短期大学部 西南女学院大学短期大学部 熊本学園大学 南九州大学 熊本学園大学 精華女子短期大学 長崎大学	○ 末 寄 雅 美 阿 南 寿美子 上 原 真 幸 藤 本 朋 美 二子石 諒 太 古 林 ゆ り 脇 信 明
P-B-3-007	保育者養成大学卒業生の就業意識と支援ニーズ に関する調査	岡山県立大学 岡山県立大学	○ 平 田 由季子 樟 本 千 里
P-B-3-008	子育て支援イベントにおける学生の実践と意識 変容—保育者養成の観点から—	江戸川大学 江戸川大学	○ 旭 彩 希 今 村 麻 子
P-B-3-009	人を育てる保育実習ガイドライン —相模原市の保育者と共に考える—	RISSHO KID'Sきらり 認定こども園モモ 相模女子大学 たいようこども園 むくどりこども園	○ 三 上 祐里枝 神 尾 美香子 金 元 あゆみ 山 下 博 舟 山 千 佳
P-B-3-010	保育者養成短期大学生における認知的個性の認 識が実習の予想に及ぼす影響 (3) 保育実習Ⅱにおける実行機能と保育者効力感、 実習の不安との関連	京都教育大学 沖縄女子短期大学 関西外国語大学	○ 田 爪 宏 二 廣 瀬 真喜子 森 田 健 宏
P-B-3-011	子ども中心の保育を考える (3) —保育者の言葉に焦点を当てて—	東京福祉大学 元幼稚園教諭 長野短期大学 十文字学園女子大学	○ 太 田 節 子 田 中 三保子 瑞 穂 優 関 口 はつ江
P-B-3-012	現代の保育者養成の課題 —少子化時代の保育学生の意識を通して—	名古屋文化学園保育専門学校 (学)名古屋文化学園	○ 鈴 木 恒 一 河 村 哲 昌

P-B-4 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）3

5月10日（土） 15:00～16:00
 ポスター会場1 ラーニングホール
 座長：岡 健・岡 田 暁 子

P-B-4-001	子どもの育ちを支える環境と保育Ⅱ	関西学院短期大学 京都文教短期大学 立命館大学衣笠研究機構人間科学研究所	○ 森 知 子 張 貞 京 大 橋 喜美子
P-B-4-002	「音楽を生み出す遊び」「マッピング」における造形表現の概念・行為・現象についての帰納的検討	愛知教育大学 名古屋学芸大学 名古屋学芸大学	○ 麓 洋 介 水 谷 誠 孝 岡 田 暁 子
P-B-4-003	5-6 歳 齡 児 における 向 社会 性 の 認 知 と 遊 び 行 動 の 関 連	兵庫教育大学大学院	○ 清 水 真由子
P-B-4-004	3 歳 未 満 児 を 対 象 と し た 音 楽 表 現 指 導 の 特 徴 に 関 す る 一 考 察 ー 3 歳 以 上 児 と の 違 い を 探 る ー	柴田学園大学短期大学部	○ 金 山 茉莉花
P-B-4-005	保育実践に繋がる授業の探求 ー 言葉指導法における“えほんずかん”の意義とはー	愛知文教女子短期大学	○ 鈴 木 捺津美
P-B-4-006	持続可能性へと開かれた保育 ー ドイツの実践事例をもとにー	東海大学	○ 木 戸 啓 絵
P-B-4-007	関係性の中から育まれる子ども主体の表現活動 を考える ー 子ども同士が聴き合うことが見られた表現の事例からー	東京家政大学	○ 和 田 靖 子
P-B-4-008	保育内容「言葉」の指導法における看図アプローチの活用	佐賀女子短期大学	○ 池 上 奈 摘
P-B-4-009	表現の協働的活動における学生自身の評価に着目して ー 音楽人形劇の活動を通してー	帝京大学	○ 若 谷 啓 子
P-B-4-010	自然環境とかかわる体験について考える ー 自然と共にいる子どもたちの姿を通してー	東京福祉大学	○ 浅 野 菜津子
P-B-4-011	幼児の音楽的エージェンシーに関する基礎的検討	東京学芸大学	○ 水 崎 誠

P-B-5 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）4

5月10日（土） 15:00～16:00
ポスター会場1 ラーニングホール
座長：石 沢 順 子・佐久本 邦 華

P-B-5-001	保育者の虫への苦手意識と共存意識	奈良教育大学	○ 藤 崎 亜由子
P-B-5-002	子どもの緩衝材に関する立体造形表現の取り組み	大阪樟蔭女子大学 福山平成大学	○ 安 部 永 佐 伯 岳 春
P-B-5-003	幼児初期の「身体活動に関わる保育環境尺度」の作成（6）	明治学院大学 白百合女子大学 白百合女子大学	○ 松 寄 洋 子 石 沢 順 子 土 橋 久美子
P-B-5-004	「音スケッチ」による対話の試み（2） －絵本から紡ぎだす音色とかたち－	沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学	○ 新 城 友 紀 佐久本 邦 華
P-B-5-005	学生が捉える園行事の在り方について －保育者養成学生による調査から－	育英大学	○ 望 月 文 代
P-B-5-006	幼児期における2年間の自由遊び中の身体活動 量の変化 －年中から年長にかけて－	共栄大学 比治山大学短期大学部 東京女子体育短期大学	○ 篠 原 俊 明 長 野 康 平 堀 内 亮 輔
P-B-5-007	保育者からの子どもに対する表現	福山平成大学 大阪樟蔭女子大学	○ 佐 伯 岳 春 安 部 永
P-B-5-008	保育における子どもと保育者のやりとり －3歳児のリトミック実践に焦点をあてて－	国立音楽大学附属幼稚園	○ 木 村 奈 々
P-B-5-009	5歳児クラスの絵本の読み聞かせ場面の比較 －異なる種別の幼児教育施設に着目して－	帝京大学	○ 呂 小 耘
P-B-5-010	保育学生の歌遊び場面における苦手意識克服の プロセスの検討 －相対音感の獲得に着目して－	仙台青葉学院短期大学	○ 田 宮 希 砂
P-B-5-011	「夕方時間帯の保育」における雰囲気とはどのよ うなものなのか －保育施設での参与観察を通して－	高崎健康福祉大学	○ 石 川 徹

ポスター発表 C

P-C-1 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など 1

5月10日(土) 16:30～17:30

ポスター会場 2 アリーナ

座長：細 川 かおり・打 越 みゆき

P-C-1-001	医療的ケア児の施設の現状と課題 2 ー保育所で医療的ケア児を受け入れられるまでの 2年間ー	浜松学院大学	○ 小 田 良 枝
P-C-1-002	インクルーシブな保育の創出過程に関する縦断 的研究③ ー入園後 2 年目 4 歳児学級での対象児の姿と保 育者の支援ー	国立特別支援教育総合研究所 ほしおきガーデン星の子幼稚園	○ 吉 川 和 幸 上 村 毅
P-C-1-003	共生保育場面において自閉スペクトラム症のあ る幼児が指差しを用いる意味 ー会話分析からの検証ー	相山女学園大学	○ 丹 羽 健太郎
P-C-1-004	特別な配慮を要する子どもの音楽活動 ー芸術活動を通じたクラス運営ー	東京経営短期大学 星槎大学	○ 松 山 綾 子
P-C-1-005	5 領域分類における行動評価からみる専門的支 援のあり方について ー放課後等デイサービスでの取り組みー	放課後等デイサービス かぶとむしクラブ 放課後等デイサービス かぶとむしクラブ 放課後等デイサービス かぶとむしクラブ 放課後等デイサービス かぶとむしクラブ	○ 高 橋 正 樹 森 下 皓 水 宮 本 航 希 鳥 羽 美紀子
P-C-1-006	保育者養成課程における「インクルーシブ保育」 の態度形成プロセスの検討 ー保育者養成と特別支援教育の親和性に着目し てー	星美学園短期大学 星美学園短期大学 星美学園短期大学 星美学園短期大学 星美学園短期大学	○ 竹 森 亜 美 打 越 みゆき 井 出 麻里子 大 井 美 緒 藤 原 明 子
P-C-1-007	インクルーシブ保育における『こども音楽療育 士』の役割 ー多様な子どもたちと音楽ー	茨城女子短期大学	○ 馬 立 明 美
P-C-1-008	インクルーシブ保育における肢体不自由児の戸 外遊びに関する研究	桜花学園大学 インクルーシブおおぞら園	○ 小柳津 和 博 野々山 貴
P-C-1-009	インクルーシブな保育実践における ICF-CY の 活用⑮	文京学院大学 東京家政大学・同短期大学部	○ 茂 井 万里絵 石 川 昌 紀
P-C-1-010	保育所等訪問支援から見る教育と福祉の役割分 担：子ども理解の視点からの考察 ーインクルーシブ教育を見据えた取り組みー	インクルーシブおおぞら園	○ 野々山 貴
P-C-1-011	乳幼児期支援に Holistic な枠組みを包含するた めの試み (3) ールーチンと情動調整を軸とした書式による夫 婦間ならびに園とのやりとりー	千葉大学教育学部 千葉大学教育学部	○ 真 鍋 健 細 川 かおり

P-C-2 障害児保育・障害のある子どもを含む保育など2

5月10日(土) 16:30～17:30

ポスター会場2 アリーナ

座長：橋本 勇 人・田中 麻 里

P-C-2-001	インクルーシブ保育をめぐる保育現場の現状と課題 ー保育者へのアンケート調査からみるー	相愛大学 頌栄短期大学	○ 直 島 正 樹 杉 山 宗 尚
P-C-2-002	保育・療育における合理的配慮の在り方の模索 ー名古屋市の保育園・児童発達支援センターの聞き取り調査からー	富山国際大学 愛知みずほ短期大学	○ 金 仙 玉 杉 山 佳菜子
P-C-2-003	シンガポールにおける早期介入教育者 (Early Intervention Educator) の養成 ー EI Centre 及び NIEC 視察報告 (1) ー	京都光華女子大学 頌栄短期大学 日本体育大学 神戸海星女子学院大学 神戸常盤大学 富山短期大学 仙台白百合女子大学 共立女子大学	○ 越 智 紀 子 川 島 直 子 恒 川 丹 渡 邊 恵梨佳 橋 本 好 市 宮 田 徹 三 浦 主 博 小 原 敏 郎
P-C-2-004	シンガポールにおける就学前教育及び発達支援の充実に向けた個別支援の仕組み ーEI Centre 及び NIEC 視察報告 (2) ー	頌栄短期大学 京都光華女子大学 日本体育大学 神戸海星女子学院大学 神戸常盤大学 富山短期大学 仙台白百合女子大学 共立女子大学	○ 川 島 直 子 越 智 紀 子 恒 川 丹 渡 邊 恵梨佳 橋 本 好 市 宮 田 徹 三 浦 主 博 小 原 敏 郎
P-C-2-005	「インクルーシブ保育」の定義の検討 ーインクルーシブ保育に関する保育者向けの実用書の分析よりー	大阪公立大学大学院	○ 木 曾 陽 子
P-C-2-006	子どもの遊びに見られる象徴的表現についての一考察 ー玩具を水に流すことー	愛育学園 愛育学園	○ 三 枝 桃 子 佐 治 由美子
P-C-2-007	『特別な支援を必要とする子どもへの対応』における困難感と関連する保育業務についての検討	帝京平成大学	○ 佐 藤 かほり
P-C-2-008	保育者が感じる特別支援教育・保育における課題 ーインタビュー調査と遊びの観察からー	沖縄キリスト教短期大学	○ 平 中 尚 子
P-C-2-009	保育・児童発達支援・保育所等訪問支援における相違点整理 ー子ども理解と多職種連携に着目してー	川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学	○ 種 村 暁 也 橋 本 勇 人 大 江 由 美 松 本 優 作 蓮 井 和 也
P-C-2-010	保育現場における障害児支援体制の現状と課題 ー K 市の実態調査よりー	神埼市立ちよだ保育園 九州龍谷短期大学付属龍谷こども園 西九州大学子ども学部	○ 坂 元 美 帆 浅 井 太 希 田 中 麻 里
P-C-2-011	医療的ケアにおける保育者の認識に対する一考察	愛知教育大学 幼児教育講座	○ 櫻 井 貴 大

P-C-3 発達論・心身の発達など

5月10日(土) 16:30～17:30
 ポスター会場2 アリーナ
 座長：関 口 はつ江・村 上 博 文

P-C-3-001	語彙爆発の時期にある子どもは何をつぶやくのか ー1歳児のひとりごとの縦断的観察ー	金城学院大学	○ 三 宅 英 典
P-C-3-002	乳児期における現実との「距離化」の発達	日本福祉大学	○ 工 藤 英 美
P-C-3-003	コロナ禍における保育環境の変化が幼児期の発達に及ぼす影響(7) ー感染拡大2年目から3年間に亘る4歳児・5歳児の発達評価の横断的検討ー	十文字学園女子大学 印西ひかりこども園 船橋情報ビジネス専門学校 十文字学園女子大学	○ 長 田 瑞 恵 押 部 直 也 生 越 雅 志 関 口 はつ江
P-C-3-004	幼児期における非認知的能力の年齢的推移 ー縦断的調査報告2ー	愛知教育大学	○ 鈴 木 裕 子
P-C-3-005	園での仲間遊びにみる他者理解に関わるやりとりについての検討11	千葉大学	○ 岩 田 美 保
P-C-3-006	幼児期の主体性はどのように捉えられてきたのか	東京大学大学院	○ 西 村 あずさ
P-C-3-007	幼児期における園以外での運動時間およびスクリーンタイムが睡眠パターンに及ぼす影響	中部学院大学短期大学部	○ 小 椋 優 作
P-C-3-008	今日における幼児の生活と大脳前頭葉機能の発達 ーIこども園における調査ー	信州大学総合医理工学研究科 白梅学園大学	○ 渡 邊 宣 明 村 上 博 文
P-C-3-009	幼児の情緒、行動、自己制御と約束遵守の関連	小田原短期大学 任意団体 子育て支援SANの会18 (東京立正短期大学)	○ 松 原 詩 緒 中 山 恵
P-C-3-010	1歳児におけるいざこざ場面の自然観察 ー行為の行い手が行う向社会的行動と保育者の働きかけに焦点を当ててー	東北文教大学	○ 岡 村 恵里子
P-C-3-011	幼児期の遊びや保育形態と成人期の社会情動的スキル等との関連	奈良教育大学	○ 廣 瀬 聡 弥

P-C-4 保育思想・保育理論・保育史など、その他

5月10日(土) 16:30～17:30
ポスター会場1 ラーニングホール
座長：豊田和子・武内裕明

P-C-4-001	戦時下における名古屋市の保育の状況 －名古屋市港水上児童寮	名古屋市立大学	○ 羽 根 由美子
P-C-4-002	昭和初期の保育者養成機関における教育内容と 生徒の力量形成過程に関する歴史的研究(4)	名古屋柳城女子大学 名古屋柳城女子大学 名古屋柳城女子大学 名古屋柳城女子大学 名古屋女子大学	○ 青 山 佳 代 豊 田 和 子 片 山 伸 子 山 本 聡 子 村 田 あゆみ
P-C-4-003	保育雑誌にみる6領域時代の音楽活動の内容と 特質 －領域「音楽リズム」をめぐる言説の批判的検 討に向けて－	白梅学園短期大学	○ 長 井 寛 子
P-C-4-004	林健造の造形表現指導における技術主義批判の 再定位 －保育者養成テキストの内容分析から－	清和大学短期大学部 弘前大学	○ 中 島 緑 武 内 裕 明
P-C-4-005	保育における親密圏の形成と家族の変容	白梅学園大学大学院	○ 西 島 功
P-C-4-006	子ども基本法の課題 －欧米の子どもの権利保護関連政策との比較の 中で－	桜美林大学	○ 爾 寛 明
P-C-4-007	自治体における保育行政の取り組みについて －公立保育施設の変化と公的責任－	大阪教育大学 金沢大学	○ 小 崎 恭 弘 滝 口 圭 子
P-C-4-008	障害児・医療的ケア児の保育所入所に関して開 示されている情報についての一考察	浦和大学	○ 大 村 あかね

P-C-5 保育マネジメントなど

5月10日(土) 16:30～17:30
ポスター会場1 ラーニングホール
座長：刑 部 育 子・北 濱 千枝子

P-C-5-001	徳島県内の保育施設を対象とした水害発生時の対応に関するアンケート調査	徳島大学 東京未来大学	○ 中 野 晋 西 村 実 穂
P-C-5-002	保育士の育ちを支える園長のケア的保育リーダーシップ ーケアリング型保育リーダーシップの始まりー	中央出版株式会社 アイン栗平保育園	○ 長谷川 葵 月
P-C-5-003	保育士の働き方に関する実態と課題① ー保育施設の人間関係に着目してー	富山短期大学	○ 明 柴 聰 史
P-C-5-004	保育施設における組織コミュニケーションに関する一考察	帝京短期大学	○ 白 取 真 実
P-C-5-005	リゾーム型保育マネジメント論の実践的展開(1) ー暮らしを大事にした先駆的事例の調査から：実践の「つながる」「はじまる」に着目してー	お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学人間文化創 成科学研究科博士後期課程	○ 宮 里 暁 美 刑 部 育 子 杉 山 沙 旺 美
P-C-5-006	令和6年能登半島地震において被災した石川県輪島市・珠洲市の保育施設の保育継続における課題	東京未来大学 徳島大学	○ 西 村 実 穂 中 野 晋
P-C-5-007	保育の質に関する現役保育者の意識 ー幼稚園教諭・保育士等のアンケートからー	東京未来大学 こども心理学部 東京未来大学 保育・教職センター	○ 岩 井 真 澄 北 濱 千枝子
P-C-5-008	保育所におけるソーシャル・キャピタル尺度の再検討	川崎医療福祉大学	○ 森 本 寛 訓
P-C-5-009	保育者の継続的就業を支える機能的マネジメントに関する研究(その2)	関西学院短期大学 長野県立大学	○ 小 山 顕 渡 邊 望
P-C-5-010	保育改革を実現したある幼保連携型認定こども園園長のリーダーシップと教育観に関する調査 ー元小学校校長であった園長へのインタビュー分析からー	佐賀大学	○ 名 倉 一 美

ポスター発表 D

P-D-1 保育専門職の養成など 2

5月11日(日) 9:00～10:00

ポスター会場 2 アリーナ

座長：田 中 卓 也・柴 田 長 生

P-D-1-001	保育・教職実践演習における保育観・子ども観を探る試み	名古屋柳城女子大学	○ 野 田 さとみ
P-D-1-002	「教育実習指導」におけるプレ実習の一考察 ー附属幼稚園との連携からー	(学)ワタナベ学園 越谷保育専門学校 (学)ワタナベ学園 越谷保育専門学校 (学)ワタナベ学園 越谷保育専門学校	○ 渋谷 るり子 元 木 廉 佐々木 優 美
P-D-1-003	保育現場で生かされる保育者養成校での学び	中村学園大学	○ 黒 江 絵 里
P-D-1-004	熟達保育者の2歳児に対する援助の意図に関する実証的研究 ー学生の読み取り度合いに着目してー	創価大学 駿河台大学	○ 戸 田 大 樹 館 秀 典
P-D-1-005	保育者・教育者養成校での学年を超えたPBL(プロジェクト型学習)の取組 ー正課授業に位置付ける工夫と成果ー	相愛大学 相愛大学 相愛大学	○ 進 藤 容 子 曲 田 映 世 中 塚 景 子
P-D-1-006	医療的ケア児に関する保育学生の学びの検討 ー「子どもの保健」の授業内容に着目してー	帝京科学大学	○ 三 宅 美千代
P-D-1-007	教育実習の指導方法に関する研究(2) ー適切な指導計画の作成と模擬保育における評価を通してー	相愛大学 びわこ学院大学,相愛大学 相愛大学	○ 曲 田 映 世 中 井 清津子 中 塚 景 子
P-D-1-008	実習後における学生の自己評価と自己達成感について ー自己評価と実習後のアンケート調査結果からー	神戸海星女子学院大学	○ 渡 邊 恵梨佳
P-D-1-009	保育者養成校における学生の自己肯定感育成について ー先行研究のまとめと枠組みの構築ー	帝京平成大学 帝京平成大学 育英大学	○ 浅 見 優 哉 佐 藤 かほり 田 中 卓 也
P-D-1-010	乳児院保育士の就労過程	京都文教大学 京都文教大学(元)	○ 大 森 弘 子 柴 田 長 生
P-D-1-011	保育実習指導における学生のつまずき要因 ー学生生活上のスキルと困難感に焦点をあててー	東京未来大学 保育・教職センター 東京未来大学 保育・教職センター	○ 北 濱 千枝子 浅 井 かおり

P-D-2 保育専門職の養成など、その他 3

5月11日(日) 9:00～10:00

ポスター会場 2 アリーナ

座長：井 上 美智子・金 山 美和子

P-D-2-001	保育現場は保育実習生をどう受け止めているか —主任保育士アンケートから—	名寄市立大学	○ 傳 馬 淳一郎
P-D-2-002	ノルウェーの保育者養成における「保育の質」 に関する一考察 —保育者養成課程の学生を対象としたテキスト の分析から—	岡崎女子大学	○ 伊 藤 喬 治
P-D-2-003	保育者養成における体験的学びの展開 —地域と連携する力の育成に向けて—	大阪大谷大学 大阪大谷大学	○ 地 下 まゆみ 井 上 美智子
P-D-2-004	保育参加における保育者養成校学生の学びの生 成について	中村学園大学短期大学部	○ 川 俣 美砂子
P-D-2-005	保育実習Ⅰ（施設）及び保育実習Ⅲにおける施 設種別に応じた実習基本プログラムの開発	中部学院大学短期大学部 幼児教育学科	○ 村 田 泰 弘
P-D-2-006	ロールレタリングを用いた保育実習の振り返り	昭和学院短期大学	○ 古 野 愛 子
P-D-2-007	2017 年以降の地域の音楽文化継承教育の動向と 課題	小田原短期大学	○ 今 泉 明 美
P-D-2-008	「親性」教育を考える —保育者への質問紙調査をもとにして—	びわこ学院大学短期大学部	○ 榎 本 恵 理
P-D-2-009	父親の育児 ～パパ友を中心に～	愛知淑徳大学	○ 鈴 木 順 子
P-D-2-010	一時預かり事業における保育者のあやし行動	同志社大学 長野県立大学 認定NPO法人マミーズ・ネット 同志社大学	○ 金 山 英莉花 金 山 美和子 中 條 美奈子 内 山 伊知郎
P-D-2-011	保育施設から捉えた保護者の現状と保護者との 関係性 — KH Coder による自由記述の分析—	幼保連携型認定こども園 やまなみ幼稚園	○ 田 中 文 昭
P-D-2-012	認定こども園におけるラーニング・ストーリー の活用と効果 その5 ：保護者との対話が生まれる保育環境づくりを 目指して	流通経済大学 はぐはぐキッズこども園東上野 はぐはぐキッズこども園東上野	○ 佐 藤 純 子 富 田 ちひろ 土 田 涼 花

P-D-3 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 1

5月11日(日) 9:00～10:00

ポスター会場2 アリーナ

座長：河 邊 貴 子・佐 野 真一郎

P-D-3-001	養育者の絵本選択と子どもとのやりとりとの関連 ー長子が3歳児である母親へのweb質問紙調査 からの検討ー	聖徳大学	○ 齋 藤 有
P-D-3-002	大学内子育て支援施設における互惠的役割 ー学生へのインタビューを通してー	聖心女子大学 聖心女子大学 聖心女子大学	○ 牧 野 順 子 河 邊 貴 子 高 嶋 景 子
P-D-3-003	障害のある幼児の保護者支援プログラムの検討	四天王寺大学短期大学部 関西福祉科学大学	○ 明 石 英 子 太 田 顕 子
P-D-3-004	保護者が作成したラーニング・ストーリーに見 える子ども理解 ー子育て支援講座でポートフォリオを活用する 意義ー	恵泉女学園大学 作新学院大学女子短期大学部	○ 丸 橋 亮 子 穴 戸 良 子
P-D-3-005	病児・病後児保育の広まり	つくば国際短期大学	○ 桜 井 ますみ
P-D-3-006	一時預かりを担当する保育者の専門性 ーM-GTAによるインタビュー内容の分析ー	元・大阪総合保育大学大学院生 (児童保育科博士前期課程) 大阪総合保育大学大学院児童保育学部	○ 南 真由美 渡 辺 俊太郎
P-D-3-007	子育て支援活動におけるレクリエーション用具 の可能性(2) ーモルック体験の実践よりー	富山短期大学 富山短期大学	○ 小 椋 一 也 明 柴 聡 史
P-D-3-008	子どもの頃の親との遊び体験が成人後の運動嗜 好性に及ぼす影響	神戸女子短期大学	○ 矢 野 真 理
P-D-3-009	地域防災における保育者養成校の実践 ー伝承と保育技術の活用をキーワードにー	豊橋創造大学短期大学部 豊橋創造大学短期大学部	○ 葛 谷 潔 昭 佐 野 真一郎
P-D-3-010	乳幼児をもつ保護者の親育ちに関する研究 ー自由記述の分析よりー	湊川相野学園湊川短期大学	○ 楠 本 洋 子
P-D-3-011	育児雑誌における音楽的表現に関する内容分析②	帝京平成大学	○ 乙 部 はるひ

P-D-4 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）、その他 5

5月11日（日） 9:00～10:00
 ポスター会場 1 ラーニングホール
 座長：中 坪 史 典・平 井 恭 子

P-D-4-001	乳児と保育者の関係性 ーわらべうたを通した活用分析ー	社会福祉法人つばみ会	○ 江 本 瑛 菜
P-D-4-002	手遊び歌実演におけるノリが子どもに与える影響 ー熟達保育者と非熟達保育者の比較からー	國學院大學人間開発学部 子ども支援学科	○ 中 野 圭 祐
P-D-4-003	子どもの音楽的な表現を引き出すには ー絵本から聞こえる音に着目してー	名古屋学院大学	○ 横 井 志 保
P-D-4-004	幼稚園生活における音や音楽への関心を見取り、 深めるための指導	京都教育大学大学院連合 教職実践研究科 京都教育大学	○ 荒 木 裕 子 平 井 恭 子
P-D-4-005	5歳児の「はいく」作り活動における一考察 ー幼稚園教育要領・ECERSの視点を活用してー	豊中幼稚園	○ 福 原 由 梨
P-D-4-006	子どもと養育者の言葉の相互作用に関する研究	小田原短期大学	○ 岡 崎 律 子
P-D-4-007	「保育課題絵本」の活用提案（5） ー自然に関する絵本を通して〈partⅢ〉ー	（福）鶴坂福祉会 富山市立保育所 富山市立保育所	○ 村 崎 千津子 大 村 純 子 伊 澤 路 子
P-D-4-008	異年齢保育実践分析のための理論的枠組みの検討 ー「保育者集団・保育者同士の関係性の変容」 の分析枠組みを中心にー	札幌学院大学 藤女子大学	○ 榊 ひとみ 高 橋 真由美
P-D-4-009	子ども会議のあり方を探る ー子どもにとっての「うみ・そら会議」とはー	新生東志賀保育園	○ 森 美 帆
P-D-4-010	スイッチ保育で新たな一歩	学校法人千葉学園	○ 花 島 慶 子
P-D-4-011	「一人ひとりがいきる保育をめざして」 ～長年続けてきたコーナー保育を現代的視点から考える～	学校法人 希望学園 葛飾こどもの園幼稚園 学校法人 希望学園 葛飾こどもの園幼稚園	○ 加 藤 美世子 小 出 馨

P-D-5 保育方法（保育方法論・保育形態・幼児理解）など

5月11日（日） 9:00～10:00
ポスター会場 1 ラーニングホール
座長：岩 田 恵 子・小 玉 亮 子

P-D-5-001	一人一人の幼児がどのように探求を深めていくのか（Ⅲ） ー遊びの深まりを捉えながらー	びわこ学院大学 滋賀短期大学	○ 中 井 清津子 菅 眞佐子
P-D-5-002	保育実践における「道徳教育」再考 ー利己的乳幼児像の相対化を通してー	北海道大学大学院教育学院	○ 高 坂 千 里
P-D-5-003	5歳児はどのように自らの生活をとらえているか？ ーモザイクアプローチを用いた検討ー	東京都立大学	○ 田 中 浩 司
P-D-5-004	新任保育士における「子ども理解」が困難場面とその要素の検討	和洋女子大学	○ 佐 藤 有 香
P-D-5-005	遊びや活動の循環を生み出す集まり場面の研究	玉川大学	○ 小 谷 悠
P-D-5-006	対話型マップ記録の提案	お茶の水女子大学附属幼稚園 お茶の水女子大学附属幼稚園 お茶の水女子大学附属幼稚園 お茶の水女子大学附属幼稚園 お茶の水女子大学附属幼稚園 お茶の水女子大学附属幼稚園 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学	○ 高 橋 陽 子 佐 藤 寛 子 田 村 郁 谷 地 理 沙 佐々木 麻 美 渡 辺 満 美 灰 谷 知 子 小 玉 亮 子
P-D-5-007	幼稚園5歳児の学級談話にみるアイデアの言語的交換 ー制作をめぐる報告、説明、相談に着目してー	白梅学園大学附属白梅幼稚園	○ 西 井 宏 之
P-D-5-008	他児との相互行為における遊びの目的の生成過程についての一考察 ー3歳児の「足場かけ」「立ち上がり」場面の事例検討よりー	長浜市立たかつき認定こども園	○ 網 島 大 輔
P-D-5-009	クラス運営と保育者 ー専門性の向上を目指してー	(学)揖斐幼稚園	○ 佐 木 彩 水
P-D-5-010	話し合い活動における保育者の子ども理解に関する研究 ー年長児クラスの劇遊びに着目してー	東京都立大学人文科学研究科	○ 張 玄
P-D-5-011	幼児の人間関係における葛藤の経験と成長 ー保育者の介入方法に着目した3年間の子どもの姿の変化ー	せんりひじり幼稚園・ ひじりにじいろ保育園	○ 安 達 かえで

ポスター発表 E

P-E-1 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など 2

5月11日(日) 11:00～12:00

ポスター会場 2 アリーナ

座長：高橋 弥生・清水 益治

P-E-1-001	保護者と共に歩むことから見える保育園のこれから part 2	社会福祉法人樟橋会レイモンド田無保育園 学校法人千葉学園	○ 花原 真理子 花島 慶子
P-E-1-002	親子で野外活動を行うことによって親子の変容について ー幼児期の子どもと保護者の野外活動を通してー	千里金蘭大学	○ 中根 佳江
P-E-1-003	地域子育て支援担当者の資質・向上意欲・困り感について	奈良学園大学 仁愛大学 仁愛大学 東大阪大学 関西学院短期大学 関西学院短期大学 関西学院短期大学 帝塚山大学	○ 岡村 季光 青井 夕貴 森 俊之 吉岡 眞知子 波田 埜英治 千葉 武夫 碓 水 ゆかり 清水 益治
P-E-1-004	生活技術の家庭での指導に関する調査研究	横浜高等教育専門学校 目白大学 松蔭大学 NPO法人 子ども研究所 NPO法人 子ども研究所	○ 橋本 樹 高橋 弥生 大沢 裕 室矢 真弓 飯塚 広美
P-E-1-005	子育て支援の実践 ー学生の音環境の工夫からー	奈良学園大学	○ 間井谷 容代
P-E-1-006	地域における切れ目のない子育て支援 ー学童期以降の児童館利用者ヒアリング調査よりー	京都華頂大学 大谷大学(非常勤)、 京都女子大学(非常勤)	○ 吉島 紀江 川北 典子
P-E-1-007	園児のお迎え場面における保護者の過ごし方ー認定こども園の夕方の時間に着目してー	お茶の水女子大学大学院, 聖隷クリストファー大学	○ 杉山 沙旺美
P-E-1-008	外国にルーツを持つ特別支援児へのインクルーシブなスポーツ環境とは ーオランダの Sport Empowers Disabled Youth (SEDY) と SEDY2 の実践事例からー	東京未来大学 千葉大学	○ 藤後 悦子 石田 祥代
P-E-1-009	母親の子育てへの情熱が Well-being 及び潜在的虐待リスクに及ぼす影響	江戸川大学	○ 蛭原 正貴
P-E-1-010	現代のコロナ環境下における乳幼児の母親を対象とした虐待リスク予測因子の解明 (3) ー幼稚園児を持つ母親の子育て相談に対するニーズに着目してー	埼玉県立大学 東京家政大学 埼玉学園大学 埼玉学園大学	○ 森田 満理子 堀 科 増南 太志 藤枝 静暁
P-E-1-011	少子化対策としての地域子育て支援センター的役割のあり方 ー「子育て応援新聞」の発行を通してー	愛国学園保育専門学校 愛国学園保育専門学校	○ 石井 久美子 船田 鈴子

P-E-2 家庭保育・家庭及び地域の連携・子育て支援など3

5月11日(日) 11:00～12:00

ポスター会場2 アリーナ

座長：鈴木 康弘・瀧口 優

P-E-2-001	地域コミュニティづくりと共生の課題 ー引きこもりと外国籍住民の状況からー	白梅学園大学 フェリシア短期大学 白梅学園短期大学	○ 森 山 千賀子 金 田 利 子 瀧 口 優
P-E-2-002	大学内子育て支援施設における子育て支援機能 について有効性を探る	九州産業大学人間科学部 子育て支援室	○ 森 美保子
P-E-2-003	学生の豊かな共創関係の構築に向けた実践的研究 ー子ども元気プロジェクト2024の取り組みからー	文教大学 十文字学園女子大学 十文字学園女子大学	○ 宮 野 周 鈴 木 康 弘 藪 崎 伸一郎
P-E-2-004	地域コミュニティづくりと共生の課題 ー園長の意識変容からはじまる保育園を拠点とした地域交流ー	白梅学園短期大学 白梅学園短期大学	○ 源 証 香 主 藤 久 枝
P-E-2-005	子育て支援拠点・幼稚園・保育所における子育て 支援機能の効果に関する研究	九州産業大学	○ 阿 部 敬 信
P-E-2-006	子どもの行動からみる 保護者から子どもへの 言葉かけ ～家庭での約束事・保護者資料からみえてきた もの・冊子開発～ ー幼児の情緒、行動、自己制御と約束遵守の関 連 その2ー	任意団体 子育て支援SANの会18 (東京立正短期大学) 小田原短期大学	○ 中 山 恵 松 原 詩 緒
P-E-2-007	放課後児童クラブにおける兵庫県A市内支援員 の現状とこれから	国立兵庫教育大学大学院 国立兵庫教育大学大学院	○ 山 内 智 子 清 水 真由子
P-E-2-008	子育て当事者が支援者となる過程と意識変容 ー地域での子育て経験を通してー	立正大学社会福祉学部子ども 教育福祉学科	○ 加 藤 直 子
P-E-2-009	プレーパークの現状と課題	こども教育宝仙大学	○ 塩野谷 祐 子
P-E-2-010	一日保育士体験の効果②～保護者のアンケート 分析より	親心を育む会 親心を育む会 親心を育む会 親心を育む会 親心を育む会 親心を育む会 親心を育む会	○ 高 木 早智子 園 部 浅 子 高 田 綾 大 谷 光 代 浅 川 弘 子 保 泉 裕 美 滝 本 真理子
P-E-2-011	地域行政が行う子育て支援のつどいと連携した 歯科受診準備	帝京大学	○ 内 山 由美子

P-E-3 乳児保育（0,1,2 歳児保育）など、その他

5月11日（日） 11:00～12:00

ポスター会場 2 アリーナ

座長：上垣内 伸 子・菅 井 洋 子

P-E-3-001	保育所等における食事に関する個別配慮についての実態調査－栄養士等を対象とした調査から－	大妻女子大学短期大学部 昭和女子大学	○ 小 野 友 紀 遠 藤 純 子
P-E-3-002	保育室環境における1歳児に対するもののもたらす力	名古屋柳城短期大学	○ 後 藤 由 美
P-E-3-003	スウェーデンの保育解説書から見る3歳未満児の教育	お茶の水女子大学大学院	○ 岡 南 愛 梨
P-E-3-004	初任保育者が乳児保育において捉える子どもの面白さとは	奈良教育大学 神戸親和大学	○ 中 川 愛 山 口 香 織
P-E-3-005	0,1歳児のわらべうた遊びにおける教育的効果と保育者の役割	富山短期大学	○ 難 波 純 子
P-E-3-006	0歳児クラスの保育者による担当児の授乳・食事に関する語りの変容（1） －初めて0歳児クラスを担当した保育者の戸惑いから始まる語りの分析－	千葉大学	○ 淀 川 裕 美
P-E-3-007	育児担当保育がもたらす子どもへの共感的理解2	宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学	○ 小 川 美由紀 井 上 浩 義
P-E-3-008	低年齢児保育に関する保育者の認識（1） －保育内容に着目して－	武蔵野大学 駒込女子短期大学 東京家政大学 川村学園女子大学	○ 箕 輪 潤 子 猪 熊 弘 子 堀 科 菅 井 洋 子
P-E-3-009	乳児保育のグループ規模 －安心できる生活づくりを可能にするために－	京都華頂大学	○ 西 川 由紀子
P-E-3-010	イタリアの『保育所保育指針』にみる保育哲学（2）子どもの経験を支えるピストイア市の保育実践	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学 お茶の水女子大学	○ 向 井 美 穂 星 三和子 上垣内 伸 子
P-E-3-011	放課後児童クラブにおける巡回相談に関する研究	岡崎女子大学	○ 吉 村 讓
P-E-3-012	保育者による里親家庭支援の可能性と課題の検討	茨城女子短期大学 茨城キリスト教大学	○ 安 藤 みゆき 中 島 美那子

P-E-4 教育計画・保育計画・指導計画・評価など、その他

5月11日(日) 11:00～12:00
ポスター会場1 ラーニングホール
座長：清水陽子・小杉裕子

P-E-4-001	幼児教育における音楽的遊びの有効性に関する調査研究9 ー調査研究1から8のまとめー	九州産業大学 玄海ゆりの樹幼稚園 吉塚ゆりの樹幼稚園	○石川 ますみ 高杉 洋史 高杉 美稚子
P-E-4-002	遊びの中の「とっておく」を考える	千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園 千葉大学教育学部附属幼稚園	○小林 直実 田中 幸 関根 映子 井上 郁 斎藤 晶海 小原 啓樹
P-E-4-003	写真付き保育記録を日誌として使用することによる、時間短縮と保育の質の向上の両立を支えるメカニズム	山口学芸大学	○山本 幸子
P-E-4-004	尾張旭市保育所自己評価チェックリストの開発研究 ー保育の資質向上の手がかりにー	尾張旭市役所保育課 名古屋短期大学 名古屋柳城短期大学	○松本 真理子 吉田 真弓 後藤 由美
P-E-4-005	記録ツールが保育者に与える影響について	玉川大学大学院 仙台青葉学院短期大学	○平山 淑希
P-E-4-006	保育カリキュラムにおける遊びの文脈と流れー「遊脈」概念の検討ー	滋賀大学	○山本 一成
P-E-4-007	子ども主体の保育のための評価方法の検討ー韓国における2019改訂ヌリ課程後の保育評価を手がかりにー	九州大谷短期大学 幼児教育学科 九州産業大学 人間科学部 名古屋短期大学 保育科 尾張旭市保育課	○宮地 あゆみ 清水 陽子 吉田 真弓 松本 真理子
P-E-4-008	こどもの興味から始まる探究活動(2) ー免許って何?ー	あかつき保育園	○内山 沙知
P-E-4-009	「楽しさ」に関する基礎的研究(その13) ー手遊びを中心にー	愛知東邦大学 愛知東邦大学 相山女学園大学	○堀 建治 松本 亜香里 小杉 裕子
P-E-4-010	育英幼稚園年長児けん玉の実践	育英幼稚園	○河村 圭

P-E-5 保育内容（保育内容総論・遊び）など

5月11日（日） 11:00～12:00
ポスター会場 1 ラーニングホール
座長：三 谷 大 紀・山 下 恵 子

P-E-5-001	子どもの発達過程におけるブロック遊びに関する研究Ⅱ ー保護者への調査結果に基づく一考察ー	育英短期大学 白梅学園大学	○ 小 屋 美 香 仲 本 美 央
P-E-5-002	子どもの発達過程におけるブロック遊びに関する研究Ⅰ ー子どものブロック遊びの映像分析を中心にー	白梅学園大学 育英短期大学	○ 仲 本 美 央 小 屋 美 香
P-E-5-003	保育における「雑」の意味 ー「ゆらぎ」の保育学構築を目指してー	白梅学園大学	○ 村 上 博 文
P-E-5-004	緊張場面における幼児の相互作用 ー幼稚園4歳児クラスの遊び場面の分析ー	千葉大学大学院 千葉大学大学院 千葉大学大学院 千葉大学大学院 千葉大学 千葉大学	○ 前 田 恭 花 谷 口 真 紀 益 山 ゆ き 鳥 日古木拉 淀 川 裕 美 砂 上 史 子
P-E-5-005	遊びに対する幼児の「夢中度」が変化する場合の要因検討 ー4歳児クラスのエピソードをもとにー	串戸保育園	○ 田 坂 隆 太
P-E-5-006	ファンタジーと現実の世界を行き来して遊ぶプロセスの考察	玉川大学大学院生 帝京科学大学	○ 日 色 智 絵
P-E-5-007	こどもの声を聴く保育Ⅱ ーこども・保育者・実習生の対話から始まり変化したおにごっこー	宮崎国際大学 宮崎学園短期大学附属みどり幼稚園 宮崎学園短期大学	○ 山 下 愛 実 新 名 里 美 山 下 恵 子
P-E-5-008	五感を使ってあそぶ環境構成	宮崎学園短期大学 幼保連携型認定こども園宮崎学園 短期大学附属清武みどり幼稚園 幼保連携型認定こども園宮崎学園 短期大学附属清武みどり幼稚園	○ 大 坪 祥 子 鍋 倉 由 佳 中 武 亮 子
P-E-5-009	子どもが「遊ぶ」とは ー「ってことね」から覗く世界ー	関東学院六浦こども園 関東学院六浦こども園 関東学院六浦こども園	○ 村 松 直 人 千 葉 綾 子 鈴 木 直 江
P-E-5-010	瞬時的、状況的な保育者の「モノを動かす」行為 ー3歳児、4歳児の遊び場面における環境構成の比較からー	佛教大学	○ 小 林 みどり
P-E-5-011	気の合う友達との関係性と遊びとのかかわり	日本体育大学 日本体育大学	○ 河 田 聖 良 齊 藤 多江子

ポスター発表F

P-F-1 保育専門職の養成など 4

5月11日(日) 13:00～14:00

ポスター会場2 アリーナ

座長：新井 美保子・今井 邦枝

P-F-1-001	ラーニングストーリーを用いた実習日誌は学生 の子ども理解を促進するか(2) ー継続的な変化の検討ー	桜花学園大学	○ 森 山 雅 子
P-F-1-002	保育実習Ⅰ(施設)での学生の学びと事後個別 面談の内容分析を通じた指導のあり方	東洋英和女学院大学 東洋英和女学院大学	○ 金 森 三 枝 大和田 明 見
P-F-1-003	保育者養成における子育て支援への理解力の養 成を目指した授業実践について ー子育て支援プログラム作成を通してー	至学館大学	○ 定 行 加保里
P-F-1-004	保育士をめざす学生の「赤ちゃん」の理解(2) ー「赤ちゃんたまご」の取り組みの効果ー	常磐会学園大学 富山短期大学	○ 清 水 里 美 嶋 野 珠 生
P-F-1-005	保育士を目指す学生の「赤ちゃん」の理解(1) ー「赤ちゃん」イメージと接触経験との関係ー	富山短期大学 常磐会学園大学	○ 嶋 野 珠 生 清 水 里 美
P-F-1-006	幼稚園教育実習プログラムに関する研究(3) ー3週間実習記録の内容からー	修文大学 短期大学部 岡崎女子大学 名古屋学芸大学	○ 濱 口 実紗希 新 井 美保子 杉 江 栄 子
P-F-1-007	保育者は大学院の経験をどのように捉えるか	武庫愛の園幼稚園 比治山大学	○ 濱 名 潔 本 岡 美保子
P-F-1-008	幼稚園教育実習を経た学生の意識変化に関する 調査 ー実習録の計量テキスト分析を通してー	国立音楽大学大学院 国立音楽大学	○ 眞 柄 絵 里 林 浩 子
P-F-1-009	模擬保育の振り返りによる子ども理解の変容 ー指導計画にみられる「子どもの姿」からー	高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学	○ 山 西 加 織 内 田 祥 子 今 井 邦 枝
P-F-1-010	学生主体による学科行事の運営体制に関する考察	目白大学 目白大学	○ 近 藤 千 草 西 田 希
P-F-1-011	「子どもとともに育つ保育者」を育てるカンファ レンスの試み(2) ー個とグループの学びの循環によるらせん型授 業展開ー	元聖セシリア女子短期大学 国際学院埼玉短期大学	○ 仲 明 子 桐 原 由 美

P-F-2 保育専門職の養成など 5

5月11日(日) 13:00～14:00
ポスター会場2 アリーナ
座長：小 野 順 子・山 本 弥栄子

P-F-2-001	保育技術を高めるための一年間の取り組み② ーパネルシアターの事例検討ー	園田学園女子大学 園田学園女子大学 園田学園女子大学	○ 田 窪 玲 子 黒 木 晶 中 野 圭 子
P-F-2-002	保育者養成課程の学生の ESD に対する態度評価 尺度開発の試み (1)	大阪総合保育大学 桃山学院教育大学	○ 名須川 知 子 山 本 弥栄子
P-F-2-003	保育者養成校における全日実習に向けた事前指導のあり方について	愛国学園保育専門学校	○ 森 川 みゆき
P-F-2-004	子どもの姿に基づく保育プロセスの言語化を促す問いかけ	山口大学教育学部	○ 中 島 寿 子
P-F-2-005	実習記録作成の負担軽減のために ー書きたい記録・語りたい記録を目指してー	中国短期大学 福山平成大学	○ 山 本 房 子 小 野 順 子
P-F-2-006	絵本の読み聞かせ場面における保育学生の学び に関する一考察 ー実習後の質問紙調査の分析からー	高松大学 富山短期大学	○ 川 口 めぐみ 日 光 恵 利
P-F-2-007	保育者・教育者をめざす大学生におけるフランス 味覚教育実践の試み	高崎健康福祉大学	○ 大 塚 恵美子
P-F-2-008	保育者養成課程における子育て支援施設を活用 した教育方法Ⅱ	神戸常盤大学	○ 大 城 亜 水
P-F-2-009	保育者養成校の学生が捉える危険に対する意識 ー実習におけるヒヤリハット場面の指導の現状 に着目してー	東京未来大学 東京未来大学	○ 浅 井 かおり 岩 井 真 澄
P-F-2-010	保育者養成校における保育・教育実習のふりか えりを考える ー RRLW の手法を手掛かりにしてー	福岡こども短期大学	○ 空 閑 ゆき子
P-F-2-011	「保育・教職実践演習」を活用した地域連携の実 践 ーサービス・ラーニングと働き方改革の視点を 踏まえた 2 年目の取り組みー	越谷保育専門学校 越谷保育専門学校 越谷保育専門学校	○ 元 木 廉 渋谷 るり子 佐々木 優 美

P-F-3 保育専門職の養成など 6

5月11日(日) 13:00～14:00

ポスター会場2 アリーナ

座長：脇 信 明・矢 萩 恭 子

P-F-3-001	病児・医療的ケア児と関わる保育実習での学びとそのための事前学習について	川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学	○ 中 川 智 之 森 本 寛 訓 橋 本 勇 人
P-F-3-002	専門性向上を目指した保育現場との連携・協働による学生の学び(1) ー“保育実践プロジェクト”の成果と課題ー	和洋女子大学 和洋女子大学 和洋女子大学	○ 小 山 朝 子 矢 萩 恭 子 田 島 大 輔
P-F-3-003	学生が感じた保育実習と幼稚園教育実習の違い	静岡産業大学 静岡産業大学 静岡産業大学	○ 日 隈 美代子 酒 井 範 子 神 尾 玲 子
P-F-3-004	保育を理解する視点 ー子ども理解と省察との関連に着目してー	池坊短期大学	○ 鶴 川 陽 子
P-F-3-005	保育学生と保育者との語り合いの意義 ー保育ドキュメンテーションを仲立ちにしてー	こども教育宝仙大学	○ 富 山 大 士
P-F-3-006	保育所実習における指導計画の指導の課題	名古屋短期大学	○ 嵩 田 弘 子
P-F-3-007	保育者養成校における学生の健康に対する意識と健康・体力維持・増進の取り組みについて	修文大学短期大学部 修文大学短期大学部 名古屋柳城短期大学 愛知文教女子短期大学 愛知文教女子短期大学 名古屋女子大学短期大学部 岡崎女子短期大学	○ 浅 川 正 堂 加 藤 渡 菊 池 理 恵 岡 田 摩 紀 星 野 秀 樹 藤 巻 裕 昌 渡 部 努
P-F-3-008	保育者養成校における保育職の魅力を発信する取り組み(2) ー養成校学生と中高生のかかわりの継続的検討ー	札幌国際大学短期大学部 札幌国際大学短期大学部 札幌国際大学短期大学部	○ 小 川 久 恵 伊 藤 桂 子 田 村 めぐみ
P-F-3-009	VRを活用した危険予知学習モデルの開発と有効性	兵庫教育大学大学院	○ 水 落 洋 志
P-F-3-010	保育学生の朝食習慣と集中力の関係性 ーアルバイト状況を踏まえた分析ー	越谷保育専門学校 越谷保育専門学校 越谷保育専門学校	○ 佐々木 優 美 渋谷 るり子 元 木 廉
P-F-3-011	保育者養成校における保育職の魅力を発信する取り組み(3) ーイベント参加を通じた保育への意識の変化に着目してー	札幌国際大学短期大学部 札幌国際大学短期大学部 札幌国際大学短期大学部	○ 伊 藤 桂 子 小 川 久 恵 田 村 めぐみ

P-F-4 保育環境・保育教材 1

5月11日(日) 13:00～14:00
ポスター会場 1 ラーニングホール
座長：汐見 稔 幸・春 高 裕 美

P-F-4-001	保育力を高めるチーム担任制の導入について① ー現状認識と導入時の課題についてー	(福)登豊会 うれしの認定 こども園	○ 萩 野 道 世
P-F-4-002	温暖化する夏季の保育における保育者の困り感	千葉明德短期大学 千葉明德短期大学	○ 伊 藤 恵里子 田 中 葵
P-F-4-003	KAPLA® の遊びにおける子どもの育ちを支える 保育者の関わり	実践女子大学	○ 井 口 眞 美
P-F-4-004	Animal Welfare の観点から考える身近な動物 と子どもとのかかわり	倉敷市立短期大学	○ 長 櫓 涼 子
P-F-4-005	Agency の向上を目指す幼児向け STEAM 教育 に関する検討 ー国内外の科学教育施設視察を通してー	白百合女子大学 白百合女子大学 白百合女子大学 東京学芸大学教職大学院	○ 石 沢 順 子 大 貫 麻 美 椎 橋 げんき 原 口 る み
P-F-4-006	夏の園庭環境と遊び ～モノの表面温度に着目して～	福岡こども短期大学 福岡女学院大学 長野県立大学 福岡こども短期大学	○ 瀧 信 子 高 原 和 子 春 高 裕 美 矢 野 咲 子
P-F-4-007	保育室における夏季の子どもの温冷感と熱中症 リスク	岐阜工業高等専門学校	○ 青 木 哲
P-F-4-008	保育施設の砂場遊びにおける水場環境に関する 研究	姫路大学	○ 平 松 美由紀
P-F-4-009	地域の魅力を活かした保育を考える横断的研究 会の可能性 ー「保育おもろ研究会 okinawa」の議事録分析 からー	(福)コスモストーリー保育園 (福)首里当蔵保育園 (福)かりゆし諸見保育園 白梅学園大学	○ 天 願 順 優 大 城 祥 恵 喜屋武 央 汐 見 稔 幸

P-F-5 保育環境・保育教材 2

5月11日(日) 13:00～14:00
ポスター会場 1 ラーニングホール
座長：松 井 剛 太・百 瀬 ユカリ

P-F-5-001	保育者養成における学生の積木遊びの現状と課題 ーワークショップ参加者へのインタビュー調査からー	小田原短期大学	○ 竹 内 あゆみ
P-F-5-002	室内で遊べる食育教材（野菜カード）の開発 ー野菜の匂と花を知ろうー	仙台青葉学院短期大学こども学科	○ 小野瀬 剛 志
P-F-5-003	STEAM 教育の視点で捉えるアウトドア環境下の保育実践に関する研究	郡山女子短期大学部	○ 柴 田 卓
P-F-5-004	3歳児にみる森の探検活動における体験の諸相 ー探検活動に意欲的な幼児と消極的な幼児の事例からー	聖隷クリストファー大学	○ 渡 邊 拓 真
P-F-5-005	乳幼児期の非認知能力を伸ばす成育環境評価ツールとその活用	川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学	○ 岡 正 寛 子 大 江 由 美 蓮 井 和 也 森 本 寛 訓
P-F-5-006	粘土遊びが育む子どもの探究心 ーワークショップの実践からー	頌栄短期大学	○ 幸 田 瑞 穂
P-F-5-007	2歳児の遊びにおける環境構成の工夫 -ひとり遊びに注目して-	川村学園女子大学 日本女子体育大学	○ 山 下 佳 香 百 瀬 ユカリ
P-F-5-008	繰り返し挑戦する心を育む保育教材の開発 ー木製六角形パズルの製作ー	福岡教育大学	○ 石 上 洋 明
P-F-5-009	保育現場の危機管理と「そなえ」の取り組みから考える防災教育	愛知学院大学 高田短期大学	○ 城 戸 裕 子 伊 藤 拓 也
P-F-5-010	保育者が考える理想的な人員配置とその理由 ークラス年齢別にみる保育内容に着目してー	名寄市立大学保健福祉学部	○ 鹿 嶋 桃 子

ポスター発表 G

P-G-1 保育者の資質能力・保育者の専門性など 3

5月11日(日) 15:00～16:00

ポスター会場 2 アリーナ

座長：岡 野 雅 子・植 草 一 世

P-G-1-001	保育者による保育内容の理解と評価Ⅵ ー 10 の姿を基にした保育の省察を通してー	立正大学	○ 高 橋 洋 行
P-G-1-002	共主体を射程した遊びの一考察 ー 保育者の即興性に注目してー	岐阜聖徳学園大学	○ 西 川 正 晃
P-G-1-003	新任保育者における、保育者の専門性獲得のための基盤形成について 3 ー M-GTA による、中堅保育者に至るまでの変化の分析 ー	元・京都文教大学	○ 柴 田 長 生
P-G-1-004	初心者を対象としたリトミック伴奏の考案と実践 2 ー 即時反応のリトミックを題材にー	びわこ学院大学短期大学部	○ 竹 下 則 子
P-G-1-005	保育者一人ひとりの強みを生かす保育につながる園内研修について (1) ー はまようオリジナル自己評価システム「学びシュラン®」ー	鳴門教育大学、幼保連携型認定こども園はまようちえん 鳴門教育大学	○ 樋 口 詩 菜 佐々木 晃
P-G-1-006	保育者の専門性と資質について (第 2 報) ー 園長 (副園長・主任) と学生を対象とした質問紙調査結果の比較ー	東京福祉大学 東京福祉大学	○ 坂 本 真理子 岡 野 雅 子
P-G-1-007	児童発達支援に従事する保育者の職業的アイデンティティに関する研究	白梅学園大学大学院 子ども学研究科博士課程 白梅学園大学子ども学研究科	○ 豊 永 麻 美 廣 澤 満 之
P-G-1-008	「幼児も教師も主体」の保育を考える ー 園内研修の取組からー	浦安市立堀江認定こども園 東京学芸大学	○ 高 梨 智 子 水 崎 誠
P-G-1-009	保育者の保育における柔軟性に関する研究の現状と課題	九州産業大学	○ 沖 本 悠 生
P-G-1-010	保育実習における現場と学生の意識	日本体育大学	○ 佐 藤 恵
P-G-1-011	絵本の読み聞かせにおけるマイクロティーチングの効果Ⅳ	埼玉純真短期大学 鎌倉女子大学短期大学部 植草学園短期大学こども未来学科 植草学園大学発達教育学部	○ 金 子 智栄子 金 子 智 昭 植 草 一 世 金 子 功 一

P-G-2 保育者の資質能力・保育者の専門性など 4

5月11日(日) 15:00～16:00

ポスター会場2 アリーナ

座長：山 本 理 絵・浅 見 佳 子

P-G-2-001	保育所園長の子ども理解とまなざしの変容に関する研究(2) ー横並びのまなざしへの変容を支えていく新たな関係性の構築ー	和泉短期大学 相模女子大学	○ 松 山 洋 平 浅 見 佳 子
P-G-2-002	法人におけるタブレットの活用について(その1) ー保育者にとっての意義と課題ー	名古屋新生福祉会 名古屋新生福祉会	○ 林 小夜子 森 美 帆
P-G-2-003	グローバルな移動を前提とする子どもの育ちの連続性を支える保育について 事例②	白梅学園大学 白梅学園大学	○ 林 薫 高 田 文 子
P-G-2-004	グローバルな移動を前提とする子どもの育ちの連続性を支える保育について 事例①	白梅学園大学 白梅学園大学	○ 高 田 文 子 林 薫
P-G-2-005	保育者による「見守り」の関わりに着目した共主体の保育実践に関する一考察	中村学園大学附属あさひ幼稚園	○ 古 賀 萌 子
P-G-2-006	ドイツにおける保育者養成2 ー履修・実習方法の多様性から見えるドイツの保育者養成ー	千葉明德短期大学	○ 池 谷 潤 子
P-G-2-007	M 保育者にとって保育するとは ー保育記録の分析よりー	香川大学	○ 片 岡 元 子
P-G-2-008	保育現場における共主体 (Co-Agency) に関する研究動向	桜花学園大学	○ 上 村 晶
P-G-2-009	アフターコロナにおける幼稚園・こども園が地域に対して果たす役割とは	福岡県立大学 純真短期大学 東亜大学	○ 伊 勢 慎 高 口 知 浩 井 手 裕 子
P-G-2-010	見学から始まったミドルリーダー研修においての一考察	名古屋市立大学	○ 安 藤 香
P-G-2-011	組織的表現創作活動の個人評価フォームの留意点について ー特に顕著な活躍をした学生の評価の是非についてのアンケート調査を通してー	豊岡短期大学 豊橋創造大学短期大学部	○ 佐々木 友 里 葛 谷 潔 昭

P-G-3 保育者の資質能力・保育者の専門性など 5

5月11日(日) 15:00～16:00

ポスター会場2 アリーナ

座長：ト 田 真一郎・千葉 武 夫

P-G-3-001	音高感覚に苦手意識のある保育者養成校学生に対する自身の声質を模範とした個人練習方法の検討	高崎健康福祉大学	○ 佐 藤 和 貴
P-G-3-002	保育所等における午睡に関する業務の負担感に及ぼすキャリアアップ研修受講の効果	帝塚山大学 関西学院短期大学 仁愛大学 奈良学園大学 仁愛大学 関西学院短期大学 関西学院短期大学 東大阪大学	○ 清 水 益 治 千 葉 武 夫 森 俊 之 岡 村 季 光 青 井 夕 貴 波田埜 英 治 碓 氷 ゆかり 吉 岡 眞知子
P-G-3-003	保育士不足解消の取り組み(3) ー学生が就職したくなる保育施設についてー	静岡福祉大学 静岡福祉大学 たかくさ保育園	○ 永 田 恵実子 二 木 秀 幸 村 松 幹 子
P-G-3-004	保育者の絵本の読み語り場面における一考察 ー2歳児への絵本の読み語り時間と選書についてー	東京成徳短期大学	○ 寺 田 清 美
P-G-3-005	保育士不足解消の取り組み(4) ー保育士と学生がコミュニケーションを深める遊び②ー	静岡福祉大学 静岡福祉大学 たかくさ保育園	○ 二 木 秀 幸 永 田 恵実子 村 松 幹 子
P-G-3-006	保育の質向上を支える地域における「保育研修コーディネーター」に関する研究(1)	関東学院大学 聖心女子大学 玉川大学	○ 三 谷 大 紀 高 嶋 景 子 大豆生田 啓 友
P-G-3-007	ネガティブな保育報道が保育士に与える影響 ー離職を決意した0歳児担任の語りからー	純真短期大学 福岡県立大学 東亜大学	○ 高 口 知 浩 伊 勢 慎 井 手 裕 子
P-G-3-008	「園全体の保育循環の生成(3) 繋がり引き継ぐ記録としてのカリキュラム ー遊びのデータベース記録から紡ぎ出す子ども理解・遊び理解」ー	和洋女子大学	○ 田 島 大 輔
P-G-3-009	保育者養成校における体験授業の効果について ー自然や季節との関わりを中心にー	十文字学園女子大学	○ 曾 野 麻 紀
P-G-3-010	幼保英語検定の英語に関する一考察	長岡大学	○ 伴 浩 美
P-G-3-011	「子どもの権利」を意識した保育実践 ー園内研修を受講した保育者の意識から②ー	千葉明德短期大学 むくどりこども園	○ 中 嶋 一 郎 舟 山 千 佳
P-G-3-012	特別な配慮が必要な子どもに対する保育者の意識に関する研究	兵庫教育大学大学院 兵庫教育大学大学院 学校法人七松学園認定こども園 七松幼稚園	○ 伊 藤 あゆみ 水 落 洋 志 亀 山 秀 郎

P-G-4 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）6

5月11日（日） 15:00～16:00
ポスター会場 1 ラーニングホール
座長：名須川 知 子・和 田 美 香

P-G-4-001	猛暑による環境の変化と保育現場の対応 ー保育教諭へのインタビュー調査よりー	東亜大学 福岡県立大学 純真短期大学	○ 井 手 裕 子 伊 勢 慎 高 口 知 浩
P-G-4-002	「主体的・対話的で深い学び」を重視した保育 ー「こども哲学」の取り組みに着目してー	東海大学	○ 天 野 美和子
P-G-4-003	こどもの声を聴く保育Ⅰ ー対話から始まる雨の日の発見ー	宮崎学園短期大学附属 みどり幼稚園 宮崎学園短期大学 宮崎国際大学	○ 新 名 里 美 山 下 恵 子 山 下 愛 実
P-G-4-004	担任保育士の運動遊びに対する嗜好と未満児の 保育所内での基本的動作の関連	比治山大学短期大学部 共栄大学 東京女子体育短期大学	○ 長 野 康 平 篠 原 俊 明 堀 内 亮 輔
P-G-4-005	乳幼児期から就学前期におけるオノマトペ研究 の動向と課題	日本女子体育大学	○ 並 木 真理子
P-G-4-006	幼児の運動遊びに関する絵本の開発 ー基本的な動きの観点からー	東京女子体育短期大学 共栄大学 比治山大学短期大学部	○ 堀 内 亮 輔 篠 原 俊 明 長 野 康 平
P-G-4-007	多感覚的な感受が育つ保育の実践 ー気づき・思考・表現の変容ー	東京家政学院大学 東京家政学院大学 東京家政学院大学	○ 吉 永 早 苗 和 田 美 香 柳 瀬 洋 美
P-G-4-008	地域への親しみや愛着を育むための保育実践に 関する研究 ー大和郡山市立郡山南幼稚園の「おでかけブッ ク」に着目してー	奈良学園大学 奈良学園大学	○ 石 原 由貴子 岡 野 聡 子
P-G-4-009	乳幼児の吹奏に関する研究動向	小田原短期大学 小田原短期大学	○ 澤 田 優 子 有 村 さやか
P-G-4-010	保育者を目指す学生による替え歌づくりの活動 ー弾き歌いの活動を通してー	帝京科学大学	○ 飯 泉 祐美子

P-G-5 保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）7

5月11日（日） 15:00～16:00
ポスター会場1 ラーニングホール
座長：松本和美・柴田卓

P-G-5-001	幼稚園における文化多様性を尊重する態度を育む交流活動の開発	広島大学附属幼稚園(東広島園舎) 広島大学附属幼稚園(東広島園舎) 広島大学附属幼稚園(東広島園舎) 広島大学附属幼稚園(東広島園舎) 広島大学大学院人間社会科学研究科	○ 君岡智央 横沢美鈴 中川順子 掛志穂 中坪史典
P-G-5-002	デンマークの保育実践から見た音楽教育の位置づけ ～現地調査からの一考察～	郡山女子大学短期大学部 郡山女子大学短期大学部	○ 深谷悠里絵 柴田卓
P-G-5-003	保育施設における戸外活動・身体活動に関する地域比較	東北福祉大学 郡山女子大学短期大学部 郡山女子大学短期大学部	○ 石森真由子 柴田卓 山脇功次
P-G-5-004	お祭ごっこに見る文化学習 ー野沢温泉村の子どもたちー	聖心女子大学 玉川大学	○ 今川恭子 伊原小百合
P-G-5-005	手品「不思議な家」を通した学生の学び ー保育学生の作品表現の分析と考察ー	帝京平成大学 鶴見大学短期大学部	○ 松田聖子 松本和美
P-G-5-006	保育者養成校における表現教育のこれから	目白大学	○ おかもとみわこ
P-G-5-007	日本・ドイツにおける森の幼稚園（ようちえん）におけるメリットとデメリット ーうえの式質的分析法を中心とした比較からー	広島大学大学院生 十文字学園女子大学	○ 大道香織 二宮穰
P-G-5-008	保育者養成校における音楽表現の指導に関する一考察	十文字学園女子大学	○ 藪崎伸一郎
P-G-5-009	保育者養成とわらべうた（2）	聖和学園短期大学	○ 宮本美和子
P-G-5-010	幼児の仲間関係の発達と保育者の援助について	中国短期大学	○ 岡本美幸
P-G-5-011	保育者養成校における即興的音楽表現を通した学生の学びと変容 ーサウンドエデュケーションを取り入れた活動を中心にー	大阪大谷大学	○ 峯恭子

6. 人名索引

人名索引

A-Z

Chavez Bianca J-A-9

あ

相沢 和恵 K-D-1-087
相澤 京子 K-B-3-042
青井 夕貴 P-E-1-003
P-G-3-002
青木 哲 P-F-4-007
青山 佳代 P-C-4-002
青山 誠 J-B-5
赤荻 聡子 J-A-3
赤木 和重 J-E-5
明石 英子 P-D-3-003
赤津 裕子 J-D-6
K-F-3-154
赤嶺絵吏子 K-D-2-092
秋田喜代美 J-G-7
P-A-1-003
安藝 雅美 K-C-4-069
明柴 聡史 P-C-5-003
P-D-3-007
浅井かおり P-D-1-011
P-F-2-009
浅井 幸子 J-A-6
浅井 太希 P-C-2-010
浅井拓久也 P-A-6-005
麻生 武 J-G-6
浅香 聡彦 J-C-8
浅川 弘子 P-E-2-010
浅川 正堂 P-F-3-007
朝倉なぎさ K-B-5-052
浅野 俊幸 K-A-6-030
浅野菜津子 P-B-4-010
浅野 由子 K-F-2-150
浅原 麻美 J-G-3
旭 彩希 P-B-3-008
浅見 優哉 P-D-1-009
浅見 佳子 J-C-6
P-G-2-001
朝元 尊 J-A-4
芦澤 清音 J-D-5
安達かえで P-D-5-011
阿南寿美子 P-B-3-006
阿部 明恵 J-F-4
阿部 和子 K-E-4-128

安部高太朗 K-F-2-149
阿部 敬信 P-E-2-005
安部 永 P-B-5-002
P-B-5-007
阿部 仁美 J-F-8
阿部 能光 J-F-7
天野 珠路 J-B-9
天野美和子 P-A-1-003
P-G-4-002
網島 大輔 P-D-5-008
新井 孝昭 J-C-2
新井美保子 P-F-1-006
荒木 裕子 P-D-4-004
有村さやか K-E-1-116
P-G-4-009
安藤 香 P-G-2-010
安藤 恭子 K-C-3-066
安藤みゆき P-E-3-012

い

飯泉祐美子 P-G-4-010
飯塚 広美 P-A-3-004
P-E-1-004
飯野 雄大 J-B-8
井岡 瑞日 K-B-3-045
五十嵐元子 J-E-4
伊川 千晶 J-G-2
井口 眞美 P-F-4-003
池上 奈摘 P-B-4-008
池谷 潤子 P-G-2-006
池田 幸代 J-A-1
K-B-1-034
伊澤 路子 P-D-4-007
石井 章仁 J-E-6
石井今日子 J-E-1
石井久美子 P-E-1-011
石上 洋明 P-F-5-008
石川かおる K-A-2-009
石川 徹 P-B-5-011
石川 智子 P-B-1-004
石川 昌紀 P-C-1-009
石川ますみ P-E-4-001
石川 幸枝 J-E-10
石黒 広昭 J-B-2
石黒万里子 K-E-6-138
K-E-6-139

石沢 順子 K-F-2-151
P-B-5-003
P-F-4-005
石田 祥代 P-E-1-008
石田 淳也 P-B-2-006
石田 貴行 J-F-8
石田 靖弘 P-A-6-004
石野 秀明 K-A-1-001
石橋 千晴 J-D-1
石濱 丈司 J-A-2
石原由貴子 P-G-4-008
石丸 るみ J-C-11
石森真由子 P-G-5-003
石山 幸恵 P-A-2-003
P-A-2-004
伊勢 慎 P-G-2-009
P-G-3-007
P-G-4-001
磯部 錦司 J-A-9
一前 春子 P-A-1-003
一色 里絵 P-B-1-001
井出麻里子 J-E-11
P-C-1-006
井手 裕子 P-G-2-009
P-G-3-007
P-G-4-001
伊藤あゆみ P-G-3-012
伊藤恵里子 P-F-4-002
伊藤 桂子 P-F-3-008
P-F-3-011
伊藤 幸子 J-D-4
伊藤 喬治 P-D-2-002
伊藤 拓也 P-F-5-009
伊藤 照美 P-B-2-007
伊藤 奈央 J-F-7
伊藤 美帆 J-F-5
伊藤美保子 P-A-5-009
伊藤美和子 P-A-3-008
伊東 桃代 J-A-7
伊藤 路香 K-F-6-167
稲見 康明 J-E-7
犬塚 典子 K-A-3-015
井上 郁 P-A-1-002
P-E-4-002
井上 果子 J-D-11
K-F-5-162
K-F-5-163

岡本 恵 K-B-4-047
 小川貴代子 P-B-1-011
 小川 直茂 J-B-7
 小川 久恵 P-F-3-008
 P-F-3-011
 小川真由子 J-F-10
 小川美由紀 P-E-3-007
 尾木 まり J-C-3
 沖本 悠生 P-G-1-009
 奥野 千夏 P-A-1-005
 奥 美佐子 P-A-5-006
 小椋 一也 P-D-3-007
 小倉 賢人 J-F-1
 P-B-1-001
 小椋 優作 P-C-3-007
 尾埜 健二 J-B-11
 押部 直也 P-C-3-003
 小田 良枝 P-C-1-001
 越智 紀子 P-C-2-003
 P-C-2-004
 乙部はるひ P-D-3-011
 音山 若穂 P-A-2-005
 P-B-1-006
 尾上 佳代 K-F-2-150
 小野 順子 P-A-4-005
 P-F-2-005
 小野瀬剛志 P-F-5-002
 小野 友紀 P-E-3-001
 小原 敏郎 P-C-2-003
 P-C-2-004
 小原 幹代 P-B-1-002
 小尾 晴美 J-A-8
 小柳津和博 P-C-1-008
 小山 顕 J-F-7
 P-C-5-009
 小山 望 J-B-11
 織壁佐和子 K-A-4-021

か

柿崎 次子 J-B-10
 蠣崎 尚美 K-A-6-033
 柿沼 芳枝 P-A-3-009
 柿元みはる P-B-2-004
 角地 佳子 K-F-3-153
 掛 志穂 P-G-5-001
 鹿嶋 桃子 P-F-5-010
 片岡今日子 P-A-1-009
 P-B-1-005
 片岡 元子 P-G-2-007
 片山 知子 J-F-2

片山 伸子 P-A-3-003
 P-C-4-002
 勝浦 眞仁 J-C-9
 勝見 慶子 J-A-10
 桂山たかみ P-A-6-009
 加藤 和成 J-B-11
 K-A-1-002
 加藤 繁美 J-E-5
 加藤 直子 P-E-2-008
 加藤 望 J-D-3
 加藤美世子 P-D-4-011
 加藤由紀子 K-C-3-066
 加藤 渡 P-F-3-007
 門田 理世 J-G-7
 P-B-2-005
 金倉 吏志 P-A-6-006
 金澤 妙子 K-E-2-120
 金谷 美穂 P-A-6-003
 金丸 智美 K-D-3-094
 金元あゆみ P-B-3-009
 金森 三枝 P-F-1-002
 金山英莉花 J-A-5
 P-D-2-010
 金山 和彦 J-A-4
 金山茉莉花 P-B-4-004
 金山美和子 P-D-2-010
 金子 功一 J-C-7
 P-G-1-011
 金子智栄子 P-G-1-011
 金子 智昭 P-G-1-011
 金田 利子 J-G-6
 P-E-2-001
 加納 拓朗 K-B-4-048
 狩野奈緒子 J-C-2
 梶島 香代 K-A-2-011
 鎌内 菜穂 P-B-2-004
 神尾美香子 P-B-3-009
 神尾 玲子 P-F-3-003
 上垣内伸子 P-E-3-010
 J-C-11
 神長美津子 K-C-4-073
 亀井 慶子 J-C-4
 亀井 湧介 J-G-9
 亀山 秀郎 P-G-3-012
 鴨志田加奈 J-A-4
 川北 典子 P-E-1-006
 川口めぐみ K-A-1-001
 P-F-2-006
 川島 直子 P-C-2-003
 P-C-2-004
 河田 聖良 P-E-5-011

川田 学 J-E-5
 川中 義博 K-C-1-059
 河邊 貴子 J-C-2
 P-D-3-002
 川邊 音生 P-B-2-009
 川俣 沙織 J-D-1
 川俣美砂子 P-D-2-004
 河村 圭 P-E-4-010
 河村 哲昌 P-B-3-012
 神崎 奈奈 J-A-5

き

城井 光広 J-E-1
 菊地 篤子 P-A-1-008
 菊池 理恵 P-F-3-007
 岸野 麻衣 J-G-8
 K-D-6-110
 K-D-6-111
 P-A-2-007
 木曾 陽子 K-F-1-143
 K-F-1-144
 P-C-2-005
 北澤 明子 J-E-1
 北野 幸子 J-G-3
 北濱千枝子 P-C-5-007
 P-D-1-011
 木戸 啓子 K-D-6-108
 木戸 啓絵 P-B-4-006
 城戸 裕子 P-F-5-009
 君岡 智央 P-G-5-001
 金 仙玉 J-D-5
 P-C-2-002
 金 珉呈 J-F-11
 木村 重介 J-A-11
 木村 奈々 P-B-5-008
 木村 充子 J-D-6
 木村 由希 J-B-6
 喜屋武 央 P-F-4-009
 刑部 育子 J-A-9
 P-C-5-005
 桐原 由美 P-F-1-011

<

空閑ゆき子 P-F-2-010
 樟本 千里 P-B-1-007
 P-B-3-007
 楠本 洋子 P-D-3-010
 葛谷 潔昭 P-D-3-009
 P-G-2-011

工藤 英美	J-D-5				
	P-C-3-002	小島 佳子	P-A-5-008	酒井 範子	P-F-3-003
久保 健太	J-C-4	小杉 裕子	K-F-4-157	酒井 基宏	J-B-6
久保田健一郎	K-A-5-025	小関 慶太	P-E-4-009	境 佑二	J-C-8
久保田真規子	K-E-4-126	小谷 卓也	P-B-3-005	坂上 裕子	J-C-3
久保山茂樹	J-C-9	小谷 悠	K-F-1-141	榊原尉津子	J-F-10
熊田 凡子	J-D-7	小谷 悠	P-D-5-005	榊 ひとみ	P-D-4-008
久米裕紀子	K-F-6-168	児玉 珠美	J-A-5	逆井 直紀	J-A-8
	K-F-6-169	小玉 亮子	K-E-6-138	坂田 紘子	P-A-2-006
倉石 哲也	J-C-3		K-E-6-139	坂巻 愛子	J-F-3
倉畑 萌	K-C-6-080	後藤 紀子	P-D-5-006	阪本 秀典	P-A-1-004
倉盛美穂子	J-G-4	後藤 祐子	K-D-3-095	坂本真理子	P-G-1-006
栗原 結海	J-D-4		K-C-2-062	阪本 満	K-F-4-159
	K-A-5-026	後藤 由美	K-C-2-063	坂元 美帆	P-C-2-010
黒岩 茉由	K-B-3-043		P-E-3-002	相樂真樹子	K-E-3-122
黒江 絵里	P-D-1-003	古野 愛子	P-E-4-004	佐木 彩水	P-D-5-009
黒木 晶	P-F-2-001	小橋 暁子	P-D-2-006	佐久本邦華	P-B-5-004
郡司 明子	J-F-5	小林さゆり	P-A-1-002	桜井 剛	K-B-2-038
け		小林 直実	K-A-1-002	櫻井 貴大	J-A-1
源嶋さやか	J-A-3	小林 真	P-E-4-002		P-C-2-011
巖 平	K-A-3-013	小林 真	P-B-2-010	桜井ますみ	P-D-3-005
こ		小林みどり	P-E-5-010	桜永 昌徳	J-D-11
小池美知子	P-A-5-005	小林美由紀	J-A-11		K-F-5-162
小泉 裕子	J-F-1	小林 佳美	J-F-9		K-F-5-163
小出 馨	P-D-4-011	小原 啓樹	P-E-4-002	迫田 圭子	K-F-2-148
小井手瑞代	J-E-3	駒 久美子	P-A-6-010	佐々木 晃	K-F-5-164
甲賀 崇史	K-D-1-087		P-A-6-011		P-A-1-005
	P-A-5-011	小松 歩	P-B-2-006	佐々木麻美	P-G-1-005
郷家 史芸	P-B-2-006	小室 明久	J-G-6	笹木 珠代	P-D-5-006
香崎智郁代	K-C-5-076	小山 朝子	K-C-6-080	佐々木美和	K-A-1-003
香曾我部琢	K-C-1-057	小屋 美香	P-F-3-002	佐々木美和	K-A-6-029
	K-E-5-134		P-E-5-001	佐々木優美	P-D-1-002
国府田はるか	P-B-2-006	近藤 千草	P-E-5-002		P-F-2-011
幸田 瑞穂	K-C-5-075		P-F-1-010	佐々木由美子	P-F-3-010
河内 奈穂	P-A-5-008	さ			K-A-2-009
古賀 琢也	J-A-6	細田 成子	K-E-5-135		K-B-3-042
古賀 松香	J-G-8	斎藤 晶海	P-E-4-002	佐々木友里	P-A-4-003
古賀 萌子	P-G-2-005	齋藤いずみ	K-D-2-089	佐治由美子	P-G-2-011
小木曾友則	P-B-1-010	齋藤 忍	J-A-7		K-A-1-003
小久保圭一郎	J-C-1	齋藤多江子	K-A-2-012	佐竹智恵子	P-C-2-006
	K-D-6-108		P-E-5-011	定行加保里	J-F-9
小崎 恭弘	K-C-1-057	齋藤 有	P-D-3-001	佐藤 厚	P-F-1-003
	K-E-5-134	齋藤 由佳	K-A-1-002	佐藤 和貴	J-A-4
	P-C-4-007	齊藤 勇紀	J-E-7	佐藤 かほり	P-G-3-001
小崎 遼介	K-C-3-068	佐伯 岳春	P-B-5-002		P-C-2-007
児嶋 輝美	J-C-10	佐伯 千穂	P-B-5-007	佐藤 純子	P-D-1-009
		三枝 桃子	J-B-7	佐藤 千晶	P-D-2-012
		境 愛一郎	P-C-2-006	佐藤 朝美	K-B-1-035
		酒井 幸子	K-F-4-156	佐藤 裕邦	J-A-10
			K-D-1-087	佐藤 寛子	J-F-4
					J-G-2
					P-D-5-006

佐藤 浩代 J-D-7
K-B-2-040
佐藤 恵 P-G-1-010
佐藤 有香 P-D-5-004
佐藤 陽介 J-E-7
佐野真一郎 P-D-3-009
鮫島 良一 J-E-2
澤田 優子 P-G-4-009

し

椎橋 元貴 K-F-2-151
椎橋げんき P-F-4-005
塩崎 美穂 J-E-5
塩野谷祐子 P-E-2-009
汐見 和恵 K-F-2-147
汐見 稔幸 J-B-5
P-F-4-009

志方智恵子 J-F-7
嶋畑 美穂 J-E-10
茂井万里絵 P-C-1-009
地下まゆみ P-D-2-003
穴戸佳央理 P-B-2-004
穴戸 良子 P-D-3-004
篠原 俊明 P-B-5-006
P-G-4-004
P-G-4-006

篠原 直子 J-G-10
四宮 晴香 J-D-1
司馬 政一 J-E-9
柴田 卓 P-F-5-003
P-G-5-002
P-G-5-003

柴田 長生 P-D-1-010
P-G-1-003
柴田 直美 K-F-2-147
渋谷 郁子 K-F-4-157
渋谷るり子 P-D-1-002
P-F-2-011
P-F-3-010

鳶田 弘子 P-F-3-006
島田由紀子 P-A-6-010
P-A-6-011
嶋野 珠生 P-F-1-004
P-F-1-005

清水 文 K-A-5-027
清水 憲志 K-A-4-022
清水 里美 P-F-1-004
P-F-1-005
清水 益治 P-E-1-003
P-G-3-002

清水真由子 P-B-4-003
P-E-2-007
清水 道代 P-B-1-011
清水 陽子 P-E-4-007
下稻 美里 P-B-1-009
下里 里枝 K-A-1-001
主藤 久枝 P-E-2-004
白井 景士 K-A-2-012
白石 淑江 J-B-2
白井 真里 K-F-3-154
白取 真実 P-C-5-004
城田 美好 K-F-1-145
新城 友紀 P-B-5-004
進藤 容子 P-D-1-005
新保 雄希 J-C-8

す

水津 幸恵 J-C-6
末嵯 雅美 P-B-3-006
末次 有加 J-B-11
末松 加奈 J-F-9
菅井 洋子 K-C-1-058
P-E-3-008
菅野 幸恵 J-F-6
菅 眞佐子 K-F-1-140
P-D-5-001

杉江 栄子 P-F-1-006
杉崎 雅子 K-D-1-088
杉田 美香 K-C-3-067
杉野 万季 P-A-6-004
杉村伸一郎 J-D-8
杉本 桂子 J-B-7
杉山佳菜子 J-F-10

P-C-2-002
杉山沙旺美 P-C-5-005
P-E-1-007
杉山 和 K-F-4-160
杉山 宗尚 P-C-2-001
杉山 祐子 K-F-6-165
鈴木 健史 J-G-9

鈴木 順子 P-D-2-009
鈴木 恒一 P-B-3-012
鈴木 直江 P-B-2-001
P-E-5-009
鈴木捺津美 P-B-4-005
鈴木 範之 J-B-6
鈴木 秀弘 J-C-4
鈴木 正敏 J-F-7

P-B-2-005
鈴木真由美 P-A-4-008

鈴木 まり K-A-4-020
鈴木美佐緒 K-C-6-081
鈴木 康弘 P-E-2-003
鈴木 裕子 P-C-3-004
砂上 史子 P-E-5-004
住岡 恭子 J-D-11

せ

関口はつ江 P-B-3-011
P-C-3-003
関根 映子 P-E-4-002
関根 優香 J-C-4
関山 隆一 J-C-6
瀬々倉玉奈 K-A-5-027
瀬田 雅江 J-C-9
瀬沼 幹太 J-E-9
瀬山さと子 J-A-11
仙田 考 J-E-2

そ

副島 里美 K-A-2-008
爾 寛明 J-A-12
P-C-4-006
園部 浅子 P-E-2-010
曾野 麻紀 P-G-3-009

た

高岩 恭子 J-D-11
K-F-5-161
高木早智子 P-E-2-010
高木 義栄 J-E-8
高口 知浩 P-G-2-009
P-G-3-007
P-G-4-001
高久 結衣 K-E-2-119
高坂 千里 P-D-5-002
高嶋 景子 P-B-1-003
P-D-3-002
P-G-3-006
高杉 洋史 P-E-4-001
高杉美稚子 P-E-4-001
高田 綾 P-E-2-010
高田 文子 P-G-2-003
P-G-2-004
高辻 千恵 J-C-3
高梨 智子 P-G-1-008
高根沢康浩 K-B-1-034
高橋 詩子 J-D-5

高橋 恵美 P-B-2-006
 高橋 潔 J-A-3
 高橋比呂美 K-D-2-091
 高橋 正樹 P-C-1-005
 高橋真由美 P-D-4-008
 高橋 弥生 P-A-3-004
 P-E-1-004
 高橋 陽子 P-D-5-006
 高橋 洋行 P-G-1-001
 高原 和子 P-A-6-012
 P-F-4-006
 高村 真希 J-C-8
 多川 則子 P-B-3-004
 瀧川 光治 J-F-9
 滝口 圭子 K-C-1-057
 K-E-5-134
 P-C-4-007
 瀧口 優 J-G-6
 P-E-2-001
 瀧澤 聡 J-A-1
 滝沢ほだか K-D-1-084
 瀧 信子 P-F-4-006
 滝本真理子 P-E-2-010
 田窪 玲子 P-F-2-001
 竹内あゆみ P-F-5-001
 武内 裕明 J-G-4
 P-C-4-004
 竹下 則子 P-G-1-004
 竹森 亜美 J-E-11
 P-C-1-006
 田坂 隆太 P-E-5-005
 田崎 教子 P-A-1-004
 田澤 里喜 J-C-5
 田島 大輔 J-C-5
 P-F-3-002
 P-G-3-008
 田島 美帆 K-A-3-017
 田代 梓 K-E-2-118
 館 秀典 K-C-3-065
 P-D-1-004
 田爪 宏二 P-A-6-008
 P-B-3-010
 立石 力斗 J-E-8
 田中 葵 P-F-4-002
 田中あかり J-B-8
 田中 彩 P-A-6-005
 田中 謙 J-A-1
 K-B-1-034
 田中 健介 J-C-5
 田中 浩司 J-E-4
 P-D-5-003

田中 沙織 K-B-4-049
 田中 孝尚 J-G-3
 田中 卓也 J-C-7
 P-A-2-002
 P-A-3-002
 P-D-1-009
 田中 敏明 K-D-3-094
 田中 文昭 P-D-2-011
 田中 正代 P-A-3-009
 田中 麻里 P-C-2-010
 田中三保子 P-B-3-011
 田中 幸 P-E-4-002
 田中 慈子 P-A-5-007
 田中 裕子 K-E-5-133
 田辺 昌吾 K-A-5-024
 谷川 祐美 J-A-11
 谷口 聖 P-A-6-005
 谷口 真紀 P-E-5-004
 谷口 良美 J-F-10
 谷戸 諒太 J-G-10
 谷 昌代 K-E-5-131
 K-E-5-132
 種村 暁也 P-C-2-009
 多保田治江 P-A-5-004
 玉城美千子 K-F-1-142
 玉瀬 友美 P-A-5-001
 田宮 希砂 P-B-2-006
 P-B-5-010
 田村 郁 J-G-2
 P-D-5-006
 田村 和子 J-D-11
 K-F-5-162
 K-F-5-163
 田村めぐみ P-F-3-008
 P-F-3-011
 垂見 直樹 J-E-8
 田甫 綾野 K-F-2-150

種村 暁也 P-C-2-009
 多保田治江 P-A-5-004
 玉城美千子 K-F-1-142
 玉瀬 友美 P-A-5-001
 田宮 希砂 P-B-2-006
 P-B-5-010
 田村 郁 J-G-2
 P-D-5-006
 田村 和子 J-D-11
 K-F-5-162
 K-F-5-163
 田村めぐみ P-F-3-008
 P-F-3-011
 垂見 直樹 J-E-8
 田甫 綾野 K-F-2-150

千葉 綾子 P-B-2-001
 P-E-5-009
 千葉 武夫 P-E-1-003
 P-G-3-002
 千葉千恵美 K-C-5-074
 千葉 直紀 J-C-1
 張 貞京 P-B-4-001
 張 玄 P-D-5-010
 丁子かおる P-A-5-003
 P-A-5-010

つ

塚越亜希子 P-A-2-002
 塚原 健太 J-G-4
 附田 賢一 J-A-5
 辻岡 美希 P-B-2-004
 辻谷真知子 K-E-6-138
 K-E-6-139
 辻 弘美 J-E-3
 津田 純佳 J-F-5
 津田 綾子 P-B-2-006
 土田 涼花 P-D-2-012
 恒川 丹 P-C-2-003
 P-C-2-004
 坪井 順子 K-D-1-085
 K-D-1-086
 K-F-5-164
 鶴 宏史 K-F-1-143
 K-F-1-144
 鶴巻 直子 J-B-11
 K-A-1-002

て

勅使 千鶴 J-F-11
 寺田 清美 P-G-3-004
 寺見 陽子 K-C-1-055
 手良村昭子 P-A-3-006
 天願 順優 P-F-4-009
 傳馬淳一郎 P-D-2-001

と

當銀 玲子 J-C-10
 藤後 悦子 J-G-1
 P-E-1-008
 堂山 亜希 J-G-10
 時田 詠子 P-A-2-002
 戸田 大樹 K-C-3-065
 P-D-1-004
 戸田 康之 J-C-2
 隣谷 正範 P-A-2-001
 土橋久美子 P-B-5-003
 鳥羽美紀子 P-C-1-005
 富田 昌平 J-G-6
 富田ひろ P-D-2-012
 富田 雅子 K-B-5-052
 K-B-5-053
 富山 大士 P-F-3-005
 友永 良子 K-F-6-165
 豊田 和子 P-C-4-002

豊永 麻美 P-G-1-007

な

内藤 知美 J-F-1
直島 正樹 P-C-2-001
仲 明子 P-F-1-011
永井久美子 P-B-1-008
中井佐栄子 J-D-9
長井 寛子 P-C-4-003
中井清津子 P-D-1-007
P-D-5-001
永井 弘人 K-D-2-090
長井 美怜 P-A-6-007
中内 麻美 J-B-8
中川 愛 P-E-3-004
中川 順子 P-G-5-001
中川 智之 J-D-2
P-F-3-001
中澤 智子 J-E-2
中嶋 一郎 J-F-2
P-G-3-011
永島さくら K-A-3-014
中島 眞吾 P-A-2-002
中島 伸子 P-A-2-007
中島 寿子 P-F-2-004
長島万里子 K-A-3-016
K-D-1-085
K-D-1-086
中島 緑 P-C-4-004
中島美那子 P-E-3-012
中條美奈子 P-D-2-010
永田恵実子 P-G-3-003
P-G-3-005
中武 亮子 P-E-5-008
中田 貴士 J-C-11
中田 範子 J-C-11
P-B-2-006
長田 瑞恵 P-C-3-003
仲田 美和 K-D-2-089
中塚 景子 P-D-1-005
P-D-1-007
中塚 健一 P-A-2-002
中坪 史典 J-B-1
P-B-2-005
P-G-5-001
長門久美子 K-B-1-037
中西さやか J-D-9
中根 佳江 P-E-1-002
中野 圭子 K-D-1-088
P-F-2-001

中野 圭祐 P-D-4-002
長野 康平 P-B-5-006
P-G-4-004
P-G-4-006
中野 晋 P-C-5-001
P-C-5-006
永渕美香子 K-D-3-094
中島 円 J-A-6
中丸 創 J-F-3
中村 章啓 J-E-9
中村香津美 P-B-1-011
中村 佐里 K-E-1-113
K-E-1-115
中村 妙子 J-A-7
中村 千草 K-C-1-054
中村麻衣子 K-F-6-166
中村 恵 J-A-10
K-D-5-106
中村 洋子 K-B-5-052
仲本 美央 P-E-5-001
P-E-5-002
中山 恵 P-C-3-009
P-E-2-006
長櫓 涼子 J-C-1
K-D-6-108
P-F-4-004
南雲 未央 J-E-7
名倉 一美 J-E-4
P-C-5-010
名須川知子 P-F-2-002
那須とよみ K-A-1-005
鍋倉 由佳 P-E-5-008
並木真理子 P-G-4-005
檜木 彩 K-E-4-128
成富 由弥 J-D-1
難波 純子 P-E-3-005
南谷 悠子 K-F-6-165

に

新名 里美 P-E-5-007
P-G-4-003
新名佐和子 K-D-5-107
K-F-3-154
二木 秀幸 P-G-3-003
P-G-3-005
西井 宏之 J-F-6
P-D-5-007
西海 聡子 J-C-10
西垣 浩康 K-A-5-023
K-E-4-129

西川 正晃 P-G-1-002
西川由紀子 P-E-3-009
西島 功 P-C-4-005
西田 祐恒 J-A-12
西田 希 K-A-2-011
P-F-1-010
西村あずさ P-C-3-006
西村 実穂 P-C-5-001
P-C-5-006
西本 裕子 K-B-5-052
西 隆太郎 P-A-5-009
日光 恵利 P-F-2-006
二宮 貴之 K-E-2-117
二宮 紀子 J-D-6
二宮 祐子 J-A-11
二宮 穰 P-G-5-007
倪 琳林 K-B-5-050
丹羽健太郎 K-D-1-087
P-C-1-003

ね

根本 朋子 K-A-2-007

の

野川 智子 P-A-3-004
野口 隆子 J-G-9
P-B-2-005
野澤 祥子 J-B-9
K-C-1-057
K-E-5-134
P-A-2-004
野尻 美枝 K-D-3-096
野田 敦史 J-G-1
野田さとみ P-D-1-001
野田 満 J-D-8
野中 奏 K-D-4-101
野々山 貴 P-C-1-008
P-C-1-010

は

灰谷 和代 J-F-4
灰谷 知子 P-D-5-006
萩尾耕太郎 J-D-1
萩野 道世 P-F-4-001
橋本 好市 P-C-2-003
P-C-2-004
橋本 樹 P-E-1-004
橋本 翼 J-B-3

橋元 知子 P-A-4-004
橋本 勇人 J-D-2
P-C-2-009
P-F-3-001
蓮井 和也 P-C-2-009
P-F-5-005
長谷川葵月 J-F-1
P-C-5-002
長谷川春香 K-D-2-093
波多 彩花 P-A-2-001
波田埜英治 P-E-1-003
P-G-3-002
波多野和彦 K-E-1-113
K-E-1-115
服部 伸一 J-G-11
花岡 清美 J-B-10
P-A-5-002
花島 慶子 K-C-2-064
P-D-4-010
P-E-1-001
花原真理子 P-E-1-001
花輪 充 K-C-2-060
羽根由美子 P-C-4-001
濱口実紗希 P-F-1-006
濱名 潔 J-D-3
P-F-1-007
林 薫 P-G-2-003
P-G-2-004
林 小夜子 P-G-2-002
林 秀紀 J-E-1
林 浩子 K-E-2-119
P-F-1-008
林 恵 J-G-1
林 悠子 J-E-6
原口 喜充 J-B-3
原口 るみ K-D-5-104
P-F-4-005
原 梢 J-B-3
原島有紀乃 K-F-2-147
原田 憲子 K-B-1-035
春高 裕美 P-F-4-006
韓 仁愛 J-F-11
韓 在熙 J-E-6
半田 結 J-G-11
板東愛理香 K-F-3-155
伴 浩美 P-G-3-010

ひ

日色 智絵 P-E-5-006
東尾 晃世 K-C-6-083

東 義也 J-D-7
K-F-2-146
樋口 詩菜 P-G-1-005
樋口 陽子 K-B-3-044
日隈美代子 P-F-3-003
久富 陽子 K-E-4-128
菱田 博之 J-F-10
P-A-2-001
肥田 武 J-B-1
平井 恭子 J-C-10
P-D-4-004
平岡 敦子 J-C-1
開 仁志 J-C-7
平澤 節子 K-D-2-091
平田由季子 P-B-3-007
平中 尚子 P-C-2-008
平沼 博将 J-E-10
平野 真紀 P-B-2-003
平松 知子 J-A-2
平松美由紀 P-F-4-008
平山 淑希 P-B-2-006
P-E-4-005
廣澤 満之 P-G-1-007
廣 陽子 J-G-11
廣瀬 聡弥 J-G-3
P-C-3-011
廣瀬真喜子 P-B-3-010
広瀬 由紀 J-A-3
K-A-1-002
K-A-1-004
K-D-1-088
廣田 幸子 K-C-1-054
廣戸 健悟 P-A-2-003
P-A-2-004
廣部 朋美 J-B-8

ふ

深谷悠里絵 P-G-5-002
福田 篤子 K-D-3-097
福永 優子 P-A-6-012
福原 由梨 P-D-4-005
普光院亜紀 J-A-2
藤井 豊 J-A-2
藤枝 静暁 P-E-1-010
藤崎亜由子 P-B-5-001
藤田 篤 J-B-7
藤谷 未央 K-B-2-041
藤田 寿伸 J-F-5
藤巻 裕昌 P-F-3-007
藤本 朋美 P-B-3-006

藤森 平司 J-A-12
藤原 明子 J-E-11
P-C-1-006
藤原 優子 J-E-3
二子石諒太 P-B-3-006
淵上 真帆 J-D-4
船田 鈴子 P-E-1-011
舟山 千佳 P-B-3-009
P-G-3-011
舟生 直美 K-C-2-061
麓 洋介 P-B-4-002
古尾谷幸野 J-F-8
古澤 勝彦 J-E-7
古林 ゆり P-B-3-006

へ

戸次 佳子 P-A-3-001

ほ

ポーター倫子 J-B-1
K-D-4-100
外薊 知子 P-A-1-006
星 早織 K-E-1-114
星崎 明里 K-C-2-062
K-C-2-063
星野 秀樹 P-F-3-007
星野 優芽 J-D-3
星 三和子 P-E-3-010
保泉 裕美 P-E-2-010
細川かおり P-C-1-011
細川 優子 J-A-12
細田 淳子 J-C-10
細谷 里香 J-D-8
堀田 博史 J-A-10
堀田 亮 J-E-8
堀内 亮輔 P-B-5-006
P-G-4-004
P-G-4-006
堀 建治 P-E-4-009
堀越 紀香 J-G-10
堀 科 J-C-3
K-E-4-130
P-E-1-010
P-E-3-008
堀之内信子 J-B-7
堀 昌浩 J-C-3
本江 理子 P-B-2-008
本間 和貴 J-F-4

ま	
間井谷容代	P-E-1-005
前田亜由美	P-B-1-009
前田 和代	K-E-4-130
	P-A-4-002
前田 武司	J-B-9
前田 寛子	K-D-5-103
前田 恭花	P-E-5-004
前原 寛	K-E-4-128
曲田 映世	P-D-1-005
	P-D-1-007
眞柄 絵里	P-F-1-008
牧野 順子	P-D-3-002
牧野 葉月	J-E-3
槇 英子	P-A-1-002
馬 春陽	K-E-6-137
増南 太志	P-E-1-010
益山 ゆき	P-E-5-004
町田 理恵	J-B-8
町山 太郎	J-D-10
松井 克徳	J-A-2
松井 剛太	J-A-6
	K-C-1-057
	K-E-5-134
	P-A-1-009
松浦 崇	K-A-6-032
松浦(小林)優子	J-F-9
松家まきこ	J-B-6
松嵯 洋子	P-B-5-003
松島 英恵	K-D-6-109
松田こずえ	K-E-6-136
	K-F-6-166
松田 聖子	J-B-6
	P-G-5-005
松田 登紀	P-B-2-004
松永 愛子	J-C-2
	K-F-2-150
松永 静子	J-B-9
	K-E-3-121
松延 毅	P-B-2-006
松原 憲治	J-F-9
松原 詩緒	P-C-3-009
	P-E-2-006
松原 未季	J-F-6
松原みゆき	P-A-3-005
松本亜香里	P-E-4-009
松本 和美	P-G-5-005
松本 信吾	J-D-9
	P-B-3-002
松元 剛	J-D-4

松本 法尊	J-G-3
松本 博雄	J-A-6
	P-A-6-006
松本真理子	P-E-4-004
	P-E-4-007
松本 優作	P-C-2-009
松山 綾子	P-C-1-004
松山 聖奈	K-F-1-143
	K-F-1-144
松山 有美	J-E-6
松山由美子	J-A-10
松山 洋平	K-E-1-114
	P-G-2-001
真鍋 健	K-D-1-088
	P-C-1-011
真鍋美智代	P-B-2-011
丸橋 亮子	P-D-3-004

み	
三浦 主博	P-C-2-003
	P-C-2-004
三浦 諒	J-A-9
三上祐里枝	P-B-3-009
三島 千明	J-A-11
水落 洋志	P-B-1-008
	P-F-3-009
	P-G-3-012
水崎 誠	J-C-10
	P-B-4-011
	P-G-1-008
水谷 誠孝	P-B-4-002
水谷 秀史	K-D-4-098
水野佳津子	J-B-1
	K-C-1-056
	K-E-4-126
水野 恭子	J-A-1
水野 道子	P-A-1-001
瑞穂 優	P-B-3-011
溝口 晴野	J-G-10
溝口 義朗	J-B-5
溝邊 和成	J-G-5
	P-A-2-006
三谷 碧依	J-B-3
三谷 大紀	J-B-5
	P-B-1-003
	P-G-3-006
三井 真紀	J-E-6
密城 吉夫	K-A-5-028
南 真由美	P-D-3-006
源 証香	K-E-3-121

	P-E-2-004
峯 恭子	P-G-5-011
嶺間 心	K-D-2-092
蓑輪 明子	J-A-8
箕輪 潤子	J-G-7
	K-C-1-058
	P-B-2-005
	P-E-3-008
三原 詔子	K-D-4-102
三宅 英典	P-C-3-001
三宅美千代	P-D-1-006
三宅 理恵	J-G-5
	P-A-2-006
みやざき美栄	K-E-5-133
宮崎 康子	J-F-3
宮里 暁美	J-D-4
	P-C-5-005
宮武 大和	J-B-5
宮田 徹	P-C-2-003
	P-C-2-004
宮田まり子	J-D-8
宮田美恵子	K-C-4-072
宮地あゆみ	P-E-4-007
宮野 周	P-E-2-003
三山 岳	J-E-4
三山美美子	K-F-2-148
宮本 航希	P-C-1-005
宮本美和子	P-G-5-009
宮本 雄太	K-D-6-110
	K-D-6-111
三好 伸子	J-B-4
	K-E-5-131
	K-E-5-132

む	
向井 美穂	P-E-3-010
向山 陽子	J-F-6
椋田 善之	J-G-7
	P-B-2-005
虫明 瞳	J-B-10
虫明 淑子	K-F-4-158
無藤 隆	J-G-8
村石理恵子	J-G-2
村井 尚子	J-F-3
村上 博文	K-E-3-121
	P-C-3-008
	P-E-5-003
村上 康子	J-D-10
村崎千津子	P-D-4-007
村田あゆみ	P-A-3-003

村田 康常 P-C-4-002
 村田 泰弘 K-B-3-043
 村松 直人 P-D-2-005
 J-C-4
 P-B-2-001
 P-E-5-009
 村松 幹子 P-G-3-003
 P-G-3-005
 村山 大樹 K-D-5-107
 村山 祐一 J-A-8
 室井 佑美 K-D-1-087
 室矢 真弓 P-A-3-004
 P-E-1-004

も

最上 秀樹 K-A-4-019
 K-F-2-148
 望月 文代 P-B-5-005
 本岡美保子 K-D-6-112
 P-F-1-007
 元木 廉 P-D-1-002
 P-F-2-011
 P-F-3-010
 本野 洋子 K-E-2-117
 本村 真弓 K-E-4-130
 本山 方子 J-F-6
 本山 益子 P-B-1-002
 百瀬ユカリ P-F-5-007
 森 佳奈 P-A-5-006
 森川みゆき P-F-2-003
 守川 美輪 K-D-2-089
 森口 達也 J-A-12
 森下 皓水 P-C-1-005
 守 巧 J-E-7
 K-A-1-004
 K-D-1-088
 森田 健宏 P-B-3-010
 森田満理子 P-E-1-010
 森 俊之 P-E-1-003
 P-G-3-002
 森 知子 P-B-4-001
 森 眞理 J-A-9
 森 美帆 P-D-4-009
 P-G-2-002
 森 美保子 P-E-2-002
 森本 寛訓 J-D-2
 P-C-5-008
 P-F-3-001
 P-F-5-005
 森元 眞理 K-C-4-070

森山千賀子 P-E-2-001
 森山 雅子 J-B-4
 P-F-1-001
 森 依子 K-D-1-088

や

矢崎桂一郎 K-C-6-082
 谷島 直樹 J-B-4
 谷地 理沙 J-G-2
 P-D-5-006
 矢藤誠慈郎 J-C-7
 柳井 郁子 K-D-1-085
 K-D-1-086
 箭内 友美 J-C-9
 柳瀬 洋美 J-G-1
 P-G-4-007
 柳瀬 瑞穂 P-A-2-003
 P-A-2-004
 矢野 景子 J-F-2
 矢野 咲子 P-F-4-006
 矢野 真 P-A-6-008
 矢野 眞理 P-D-3-008
 矢野由佳子 K-C-3-067
 矢萩 恭子 P-B-2-002
 P-F-3-002
 八幡眞由美 P-A-3-007
 薮崎伸一郎 P-G-5-008
 薮崎伸一郎 P-E-2-003
 山内 智子 P-E-2-007
 山口 香織 P-E-3-004
 山口 舞 P-A-2-003
 P-A-2-004
 山口 美和 J-E-2
 山口 遼 J-G-10
 山下雅佳実 J-D-1
 山下 恵子 P-E-5-007
 P-G-4-003
 山下 博 P-B-3-009
 山下 愛実 P-E-5-007
 P-G-4-003
 山下 佳香 P-F-5-007
 山路 千華 J-G-6
 山田 一子 J-D-11
 K-B-1-036
 山田千枝子 J-E-3
 山田 伸之 P-A-5-003
 山田 実 K-B-4-046
 山田裕宇記 K-B-1-034
 山田 悠莉 K-D-1-084
 山西 加織 P-F-1-009

山野 栄子 K-F-4-157
 山本 一成 J-F-3
 P-E-4-006
 山本 聡子 P-A-3-003
 P-C-4-002
 山本 智子 K-A-6-030
 K-A-6-031
 山本 直樹 J-D-6
 山本 華子 K-E-1-116
 山本 房子 P-A-4-005
 P-F-2-005
 山本 真希 J-E-3
 山本弥栄子 P-F-2-002
 山本 幸子 P-E-4-003
 山本 理絵 J-D-5
 山脇 功次 P-G-5-003

ゆ

湯川嘉津美 K-E-3-124

よ

横井 志保 P-D-4-003
 横沢 美鈴 P-G-5-001
 横田 典子 K-D-1-084
 横山 草介 J-C-6
 吉岡 尊 P-B-3-003
 吉岡眞知子 P-E-1-003
 P-G-3-002
 吉川 和幸 J-G-10
 P-C-1-002
 吉川 暢子 P-B-1-005
 吉島 紀江 P-E-1-006
 吉田 和馬 K-C-4-071
 吉田 龍宏 K-A-4-020
 吉田 直哉 K-E-6-137
 K-F-2-149
 吉田 昌弘 K-E-3-123
 吉田 真弓 P-E-4-004
 P-E-4-007
 吉田 ゆり P-B-3-001
 吉次 豊見 P-A-4-001
 吉津 晶子 P-A-6-008
 吉永 早苗 P-G-4-007
 吉村 譲 P-E-3-011
 善本 眞弓 J-E-1
 淀川 裕美 J-C-4
 K-C-1-058
 P-E-3-006
 P-E-5-004

ろ

呂 小耘 P-B-5-009

わ

若月 芳浩 J-G-10
 K-A-1-004
 若谷 啓子 P-B-4-009
 若山 育代 J-C-7
 脇田 和子 K-A-5-023
 脇 信明 P-B-3-006
 鷺尾 昌子 K-A-1-006
 和田 香誉 K-F-3-152
 渡邊恵梨佳 P-C-2-003
 P-C-2-004
 P-D-1-008
 渡辺俊太郎 P-B-1-008
 P-D-3-006
 渡邊 孝枝 J-D-4
 K-A-2-010
 渡邊 拓真 P-F-5-004
 渡部 努 P-F-3-007
 渡邊 哲也 J-D-7
 渡部 晃正 P-A-4-002
 渡邊 望 P-C-5-009
 渡邊 宣明 P-C-3-008
 渡辺 英則 J-C-11
 渡邊眞依子 J-D-5
 渡邊 真希 J-F-2
 渡辺 満美 P-D-5-006
 渡辺ユリナ P-A-1-007
 渡辺 令子 K-E-4-127
 綿貫 文野 K-A-4-018
 和田 美香 J-B-8
 P-G-4-007
 和田 靖子 P-B-4-007

7. 大会実行委員会について

一般社団法人日本保育学会 大会実行委員会規程

(目的)

第1条 日本保育学会大会実行委員会（以下、委員会）は、学会年次大会開催のために業務に当たることを目的として、組織される。

(開催ブロックの決定)

第2条 大会開催地区は、大会開催細則によって開催2年前の理事会で決定し、評議員会、社員総会において承認される。

2 大会開催地区および開催順については、大会開催細則による。

(委員会の発足および終了)

第3条 委員会の発足については、各ブロックの理事および評議員が協議し、組織発足および終了の任を負う。

(委員会の構成)

第4条 委員会は、委員長、事務局長ならびに実行委員によって構成される。

2 委員長は、会長により委嘱される。

(委員長、事務局長および委員会の業務)

第5条 委員長が評議員でない場合には、会長の推薦により評議員に任命される。

2 委員長は、理事会ならびに評議員会に出席する。また大会検討委員会のメンバーとなる。

3 事務局長は、委員長の代理を務めることができる。また大会検討委員会のメンバーとなる。

4 委員会は、大会日、大会会場の決定および運営を委託する場合は委託業者を決定する。

5 委員会は、大会に関する会計管理を行う。会計管理は、学会の規準による。

6 委員会は、大会に関する通信の作成および発送を行う。発送のための会員名簿の管理は、学会事務局で行う。

7 委員会は、講演、実行委員会主催シンポジウム等の企画・実施を行う。

8 委員会は、会員からの申し込みによる口頭発表・ポスター発表、自主シンポジウム発表等の受理・決定、座長の決定および依頼を行う。

9 委員会は、学会企画諸シンポジウムの受託を行う。

10 委員会は、大会プログラムを編成する。

11 委員会は、大会発表論文集の作成および発送を行う。

12 委員会は、大会会場の設営および当日の運営を行う。

13 委員会は、大会終了後、大会に関する決算報告、『保育学研究』掲載の大会諸報告、大会参加者・発表者数（発表取り消し、取り下げの確認を含む）の報告を行う。また大会発表論文集の残部を学会事務局へ引渡す。さらに、次回大会実行委員会への申し渡しを行う。

14 委員会は、その他大会運営に関わる業務を行う。

(改廃)

第6条 本規程の改廃は理事会が行う。

附則 本規程は平成20年9月14日（第63回大会）より実施する。

一部 平成22年4月1日改正

一部 平成27年9月26日改正

一部 平成30年9月1日改正

一部 令和5年9月17日改正

一般社団法人日本保育学会 大会開催細則

(開催ブロックの決定)

- 第1条 大会開催の6ブロックは、〈北海道・東北〉、〈関東〉、〈中部〉、〈近畿〉、〈中国・四国〉、〈九州・沖縄〉の6ブロックとする。
- 2 大会開催は全国を6ブロックで、持ち回りで行う。その開催順序は以下に定める。
①関東 ②九州・沖縄 ③近畿 ④中部 ⑤関東 ⑥中国・四国 ⑦北海道・東北 ⑧関東
⑨近畿 ⑩中部 ①へ戻る
関東3、近畿2、中部2、その他1は、会員数に応じての回数である。
- 3 特別な事情がある場合、開催順序を変更することができる。その場合は、開催3年前までに会長に申し出て、理事会の承認を得なければならない。

(大会実行委員会の発足)

- 第2条 各ブロックの理事および評議員は、委員会発足の任を負う。
- 2 各ブロックの理事および評議員は、開催実績や利便性等を考慮して相談のうえ、2年前までに開催地を決め、大会実行委員会を組織する。
- 3 各ブロックの理事および評議員は、各ブロック内において大会開催に係る検討委員会等を設置し、大会開催地や開催方法を検討する。

(大会開催に向けた評議員の役割)

- 第3条 各ブロックの理事および評議員は、実行委員会とともに、大会開催に先立ち研究集会等を開催し、ブロック内の会員の学術・実践交流を活性化できるように努める。

附則 本細則は、第77回大会より施行する。

日本保育学会第 78 回大会 協賛企業・団体

〔広告掲載企業〕

(賛助会員)

株式会社建帛社

株式会社北大路書房

中央法規出版株式会社

株式会社ミネルヴァ書房

株式会社萌文書林

株式会社わかば社

株式会社同文書院

(その他の協力企業・団体)

株式会社保育のデザイン研究所

株式会社風間書房

株式会社創成社

教育情報出版

株式会社 Q'sfix

株式会社サン・エデュケーショナル

〔展示〕

(賛助会員)

株式会社クマノミ出版

株式会社北大路書房

株式会社ミネルヴァ書房

有限会社アイ・ピー・エス

トル

有限会社ホソカワシュピールバーレン

株式会社一藝社

一般社団法人キリスト教保育連盟

株式会社萌文書林

株式会社わかば社

株式会社建帛社

ななみ書房・圭文社

中央法規出版株式会社

株式会社同文書院

株式会社新宿スタジオ

(その他の協力企業・団体)

株式会社浅尾

福村出版株式会社

公益財団法人ソニー教育財団

特定非営利活動法人日本セルフセンター

株式会社風鳴舎

株式会社保育のデザイン研究所

有限会社カルテット

株式会社明石書店

株式会社ひとなる書房

株式会社新読書社

株式会社いかだ社

株式会社かもがわ出版

合同出版株式会社

株式会社 Q'sfix

株式会社創成社

株式会社エイデル研究所

株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント
公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会
株式会社サン・エデュケーショナル
株式会社ミールケア

株式会社小学館
保育雑誌エデュカール
株式会社みらい

〔後援〕

長野県立大学
長野県
長野県教育委員会
長野県保育連盟

長野市
長野市幼稚園・認定こども園連盟
長野県私立幼稚園・認定こども園協会
長野市私立保育協会

〔助成・支援〕

公益財団法人 ながの観光コンベンションビューロー

本大会を開催するにあたりまして、上記の諸団体の皆様よりご協力いただきました。
ここにそのご芳名を記して、心からの感謝の意を表します。

2025 年 4 月
一般社団法人日本保育学会第 78 回大会実行委員長 太田 光洋

日本保育学会第 78 回大会 実行委員会

実行委員長 太田 光洋（長野県立大学）

事務局長 山本 直樹（長野県立大学）

実行委員 荒井 聡史（長野県立大学）

小笠原明子（長野県立大学）

加藤 孝士（長野県立大学）

白澤 舞（長野県立大学）

中山 智哉（長野県立大学）

前田 泰弘（長野県立大学）

安氏 洋子（長野県立大学）

大南 匠（長野県立大学）

大野 慶（長野県立大学）

金山美和子（長野県立大学）

匝瑳 岳美（長野県立大学）

春高 裕美（長野県立大学）

宮城 正作（長野県立大学）

渡邊 望（長野県立大学）

協力委員 岡田 暁子（名古屋学芸大学）

麓 洋介（愛知教育大学）

壬生 江美（飯田短期大学）

小山 顕（関西学院短期大学）

水谷 誠孝（名古屋学芸大学）

吉岡亜砂美（中村学園大学短期大学部）

（50 音順）

（2025 年 4 月 1 日現在）

保育のデザイン研究所 じっくぶ 2つの塾形式講座

対面・リモート・配信 ハイブリッド形式

研修講師養成塾

2025年6月14日 開講
～2025年11月22日

保育の質を高めることをめざす研修講師や
アドバイザーのための6か月間のプログラム

塾長 無藤 隆 と日本の保育をリードする
講師陣によるステップアップ研修

詳しくは
特設ページを
チェック



日本保育学会 前(第9代)会長
秋田 喜代美

保育・
幼児教育を
深く学ぶための

保育の塾 デザイン塾



詳しくは
特設ページをチェック

開催日時 6/25(水)、7/16(水)、7/25(金) 18:00～20:00

白梅学園大学 名誉教授
無藤 隆



第二回 秋田ゼミ 学習院大学 秋田 喜代美 × 白梅学園大学 宮田 まり子

対論『こどもの育ちを拓く保育』

調査・研究・実践を中核に、現場をよく知る宮田先生と共に『今』考えていることをお話いただきます

全3回テーマ 第1回「自然」、第2回「遊具」、第3回「文化財としての絵本とICT」

※2025年1月29日時点。研修内容・日程等、変更される場合がございます。

保育のデザイン研究所 オンデマンド研修

全360講座以上の保育研修で
充実した^{*}園内研修^{*}を気軽に始める

- 現場の課題に即した様々な分野のコンテンツ
 - 研修1本が約30分(自園でのディスカッションを含め45分)
 - 1単元よりロープライスで導入可能
 - 研修担当者は簡単な進行之みでOK
- ※ 計画から振り返りまで充実したサポートあり。

詳しくは
特設ページを
チェック



株式会社 保育のデザイン研究所

神奈川県藤沢市朝日町10-7
森谷産業旭ビル4階
0466-90-3952

(平日9:00-12:00/13:00-17:00)

<https://hoiku-design.co.jp/>
on@hoiku-design.net



新刊・関連図書のご案内

共生を考える

小山 望・江島尚俊 編著

A5判/184頁 定価 2,420円

●共生社会の実現に向けて、保育・教育、心理、福祉の研究者が様々な視点から「共生」を論じる。

根付く・伸びる・発展する こどもの遊び

—主体性をはぐくむ保育の手法とICTの活用

宮城教育大学附属幼稚園 編

B5判/112頁 予価 2,200円

●保育の場での実践書として、5領域やカリキュラムを学ぶ科目の副読本として活用できる一冊。

教職ライブラリシリーズ

生徒指導・進路指導論

住本克彦 編著

B5判/152頁 予価 2,530円

特別の支援を必要とする子どもの理解

細渕富夫・伊勢正明・大江啓賢 編著

A5判/192頁 定価 2,200円

教職入門

住本克彦 編著

B5判/144頁 定価 2,420円

教育原理

佐藤 環・菱田隆昭 編著

B5判/160頁 定価 2,530円



▶▶▶▶ 新刊・改訂版教科書 ◀◀◀◀

はじめて学ぶ 子どもの福祉

和田上貴昭・野島正剛 編著

A5判/192頁 予価 2,310円

はじめて学ぶ 子どもの養護

和田上貴昭・坪井 真 編著

A5判/208頁 予価 2,310円

シードブック 新版 子ども家庭福祉〔第2版〕

山田勝美・良 香織 編著

A5判/224頁 定価 2,530円

ICT×保育を考える 保育内容総論

香曾我部琢・駒久美子・島田由紀子 編著

B5判/136頁 定価 2,090円



なぜからはじめるカリキュラム論

中原朋生・池田隆英・楠本恭之 編著

B5判/176頁 定価 2,310円



コンパス 保育の心理学

寺見陽子 編著

B5判/168頁 定価 2,310円



コンパス 身体表現

岡澤哲子・遠藤 晶 編著

B5判/136頁 定価 2,200円

付録動画多数掲載!!

サンプル動画



建帛社
KENPAKUSHA

〒112-0011 東京都文京区千石 4-2-15
TEL 03 (3944) 2611 FAX 03 (3946) 4377
<https://www.kenpakusha.co.jp/>

価格(税10%込)
予価・頁数は変更する
場合がございます。

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

<https://www.kitaohji.com> (価格税込)

「愛と知の循環」としての保育実践^{〔仮題〕}

—多様で豊かな世界と出会い、学び、育つ— 無藤隆、古賀松香、岸野麻衣編著 予価2420円 無藤隆氏が集大成として導き出した「愛と知の循環」という幼児教育論。理論の背後には、これまで無藤氏が行ってきた膨大な観察と子ども・保育者との対話がある。現場との対話を通して紡ぎ、編まれてきた理論に基づく実践とは。9つの園の事例を通して描き出す。

子どもをあらわすということ

青山 誠、三谷大紀、川田 学、汐見稔幸編著 四六・272頁・定価2530円 なぜ、子どもをあらわすにはいられないのか——子どもに耳を傾け、記述し、写真に撮るなど、共に過ごした記録として、様々な方法であらわそうと試みる。そこには何があらわれるのだろうか。何のためにあらわすのだろうか。保育という営みのなかで子どもをあらわすことの意味を探る。

子どもの遊びを考える

—「いいこと思いついた！」から見えてくること— 佐伯 胖編著 四六・248頁・定価2640円 「遊び＝自発的な活動」というのは本当か？！「いいこと思いついた！」という現象を切り口に、「中動態」や「天然知能」などの概念を参照しながら、子どもの「遊び」の本質に迫る。

人はいかに学ぶのか

—授業を変える学習科学の新たな挑戦— 全米科学・工学・医学アカデミー編 秋田喜代美、一柳智紀、坂本篤史監訳 A5・396頁・定価4620円 『How People Learn (邦題：授業を変える)』から20年の間で明らかになった知見に基づき再構成された最新版。脳科学・神経科学、動機づけ研究や文化等多様な切り口から人の「学び」に迫る。

大豆生田啓友対談集 保育から世界が変わる

大豆生田啓友著 木村明子聞き手 A5・240頁・定価2200円 【対談者】渡邊英則、無藤隆、苦野一徳、山口慎太郎、明和政子、村上靖彦、荒牧重人、秋田喜代美 子どもたちの未来のために、保育・幼児教育の枠を越えて、多様な領域の研究者たちと「子どもをまんなかに置いて」語り合う。

生命と学びの哲学

—育児と保育・教育をつなぐ— 久保健太著 四六・328頁・定価2200円 人が育つ・学ぶ・生きるということをこれほど直接的に扱う実践的学問は保育・幼児教育をにおいて他になく、必ず「哲学」がある。本書では育児、保育・教育について熟考してきた著者の多彩な論考から、保育の実践知を言語化するために必要な〈実践に埋め込まれた哲学〉を掘り起こす。

子どもはいかにして文字を習得するのか

—遊びと対話の保育が育む言葉— 松本博雄著 A5・224頁・定価3300円 保育者と共に進めてきた実証研究から見えてきた「社会的関係の中で立ち上がる言葉」という面から「文字習得」を再定位し、遊びと対話の相互的な発展の先に、子どもの「声」を聴き取る存在として保育者が位置づいたとき、保育における文字と子どもの新たな関係が浮かび上がる。

子どもの声からはじまる 保育アセスメント

—大人の「ものさし」を疑う— 松井剛太、松本博雄編著 A5・228頁・定価2860円 近年、幼児教育では外的に読み取りやすいアセスメント（ものさし）が求められているが、固定化された「ものさし」によって見失うモノがあるのではないか。子どもの声に耳を傾け、対話し揺らぎながら、大人の「ものさし」を疑い、新たなアセスメントのカタチを探る。

持続可能な社会をめざす0歳からの保育

井上美智子、登美丘西こども園著 定価2420円

デジタル社会の 子どもの育ちを支える 保育内容 健康

田口喜久恵編著 定価2640円

発達心理学15講

高橋一公、中川佳子編著 定価2420円

北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集

C. ブレイジ著／西浦和樹編訳 定価2420円

社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」

無藤 隆、古賀松香編著 定価2530円

「気になる」子どもの社会性発達の理解と支援

本郷一夫編著 定価1980円

子どもの育ちをとらえるラーニング・ストーリー

穴戸良子、三好伸子著 定価2420円

はじめて学ぶ保育原理^{〔新版〕}

吉見昌弘、斎藤 裕編著 定価2420円

行列のできる児童相談所

井上 景著 定価2530円

ずれを楽しむ保育 シリーズ

保育現場では、子どもの想定外の言葉や動き、発想に驚かされる瞬間に出会うことがあります。そのような「ずれ」に気づき、そこから新しく楽しい展開につなげられる方法を、事例や研修例を通して学べる3巻シリーズです。

●定価各2,420円(税込) ●AB判 ●2024年12月発行



子どもの思いが輝く 遊び・生活

宮里暁美、田島大輔、中村章啓＝編集
152頁 ISBN978-4-8243-0107-9

日々の遊びや生活を通した13の事例を掲載。「ずれ」をチャンスととらえ、豊かな保育実践へとつなげる一冊。



少し変えたらおもしろくなる 行事・環境・計画

宮里暁美、田島大輔、芝崎恵子＝編集
176頁 ISBN978-4-8243-0108-6

子どもたちに寄り添いながら、園での行事、環境、計画を少し変えることで、子どもも保者も楽しめる保育に展開した14事例を紹介。



見方がひろがる 研修・学び合い

宮里暁美、田島大輔、松本信吾＝編集
164頁 ISBN978-4-8243-0109-3

園内研修や多様な研修方法に焦点を当てた12事例を収載。日々の保育を見直し、新しい観点を獲得できるヒントが満載。

遊び・学びを深める 日本のプロジェクト保育 協働探究への誘い

秋田喜代美、松本理寿輝＝監著／東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター、まちの保育園・こども園＝編著

定価2,640円(税込) B5判・184頁 2024年9月発行 ISBN978-4-8243-0007-2

子ども自身の関心をきっかけにして遊び・学びを深めていくプロジェクト保育。「協働探究」の面白さを、事例を通して伝える一冊。

アトリエからはじまる「探究」

日本におけるレッジョ・インスパイアの乳幼児教育

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター＝監修
浅井幸子、津田純佳、渋谷区立渋谷保育園＝編著

定価2,640円(税込) B5判・156頁 2023年12月発行 ISBN978-4-8058-8972-5

レッジョ・エミリアの幼児教育の特徴の一つである「アトリエ活動」を具体的に解説。日本の保育現場で実践するためのポイントを紹介する。

ボーダークロッシングス —行き来する、その先へ—

レッジョ・エミリアの子どもたちと自然との出会い、デジタルの可能性

ヴェア・ヴェッキ、シモーナ・ボニラウリ、イザベラ・メニンノ、マッダレーナ・テデスキ＝監修／カンチェーミ潤子、山岸日登美＝監訳／JIREA＝協力

定価6,050円(税込) A4変形判・128頁 2025年3月発行 ISBN978-4-8243-0191-8

古くからデジタル機器を保育実践に取り入れてきたレッジョ・エミリアの教育者たちの研究と、子どもたちの創造的な学びのプロセスを丁寧に紹介。

保育の質を高めるドキュメンテーション 園の物語りの探究

秋田喜代美、松本理寿輝＝監修／東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター、まちの保育園・こども園＝編著

定価2,420円(税込) B5判・180頁 2021年4月発行 ISBN978-4-8058-8207-8

写真や動画を使った保育の記録手法であるドキュメンテーション。作成のコツを子どもの育ちの共有の視点で紹介。

空間・時間・人を広げる 保育環境の構成

これまでの枠を超えれば「ワクワク」がみえてくる

境愛一郎＝編著、栗原啓祥・濱名潔＝著

定価2,420円(税込) AB判・132頁 2025年3月発行 ISBN978-4-8243-0192-5

既存の枠を広げることで子どもの好奇心・探究心の「ワクワク」が深まった事例を通して、空間・時間・人の三つの観点から保育環境の構成を考える。

子どもも大人も混ざり合う 児童発達支援×保育所等の併設で創る インクルーシブ保育

社会福祉法人どろんこ会＝著

定価2,860円(税込) B5判・128頁 2025年4月発行 ISBN978-4-8243-0202-1

児童発達支援事業所と保育所の併設のあり方やメリット、留意点について、先進的に併設施設を展開してきた社会福祉法人どろんこ会の事例を通して解説する。

保育士養成・幼稚園教諭養成テキスト

●定価各2,420円(税込) ●B5判・各約200頁 ●2025年2・3月発行

◆教育課程論 神長美津子、津金美智子、河合優子、塩谷 香＝編著 ISBN978-4-8243-0195-6
「育みたい資質・能力」につながるカリキュラムに焦点を当てて

◆幼児理解の理論と方法 神長美津子、岩立京子、岡上直子、結城孝治＝編著 ISBN978-4-8243-0197-0
発達や学びの過程に生じる「つまずき」に焦点を当てて

◆子どもと表現 島田由紀子・駒久美子＝編著 ISBN978-4-8243-0183-3
応答性豊かな保育者になるために

◆保育・教職実践演習 神長美津子、田代幸代＝編著 ISBN978-4-8243-0196-3
学びの軌跡の集大成を目指して

◆子どもと環境 神長美津子、高柳恭子、桂木奈巳、青木康太郎＝編著 ISBN978-4-8243-0198-7
子どもの感性をひらく保育者のかかわり

空想の翼と信じる力

シンディ・デル・クラーク著 富田昌平訳

子どもの神話と発達の人類学

A5判美装カバー272頁 2860円

発達が気になる子どもの 親子ふれあい遊び

尾崎康子監修・編著 東都ガーボル／藤川志つ子／和田美奈子著

A5判美装カバー212頁 2200円

福岡県保育士会発 連絡帳スタディブック

家庭に寄り添う
保育をめざして

田中沙織編著 上村眞生／福岡県保育協会保育士会著

B5判美装カバー152頁 2420円

社会的養護を必要とする子どもと権利擁護

谷口純世著●意図的支援の積み重ねによる権利を守る力の体得

A5判上製カバー256頁 6600円

児童養護施設の労働問題

子ども・職員双方の人権保障のために

堀場純矢著

A5判上製カバー336頁 7150円

最新保育小六法・資料集 2025

大豆生田啓友／三谷大紀編

A5判美装カバー予860頁 2200円 【2025年4月上旬刊行】

発達

B5判美装120頁/1650円
2・5・8・11月10日発売

秋田喜代美／大豆生田啓友／川田 学 監修

178号からの『発達』は、これからの保育・発達を考えるにあたり、さまざまな論点を子どもたちの生活の文脈から捉える特集を展開。遊ぶこと、食べること、寝ること、自然をはじめとする環境、親・家族、地域などの論点から、子どもの暮らしを問い直します。

178

特 子どもの生活を問い直す (2024年5月10日刊)

集 秋田喜代美／大豆生田啓友／川田 学／遠藤利彦／荒牧美佐子／浅井幸子／池本美香／良 香織／秋山千枝子／砂上史子／野口孝則／鈴木みゆき／木戸啓絵／宮里六郎／鍋倉 功

179

特 あそぶ (2024年8月10日刊)

集 大豆生田啓友／無藤 隆／島田将喜／河邊貴子／岩田恵子／富田昌平／箕輪潤子／奥谷佳子／宮田まり子／仙田 考／矢野勇樹／富岡麻由子

180

特 たべる (2024年11月10日刊)

集 秋田喜代美／上野有理／多賀徹太郎／河原紀子／淀川裕美／村松幹子／薄田愛美／濱名清美／島本一男／大柴由紀／水野智美／駒崎弘樹／和井田結佳子

181

特 やすむ・ねる (2025年2月10日刊)

集 川田 学／加藤繁美／道信良子／藤田史織／河野友香／清水民子／熊谷真愉子／山仲勇二郎／猪熊弘子／菊地加奈子

▶近刊のご案内

保育職・教職を
めざす人のための **保育用語・法規**

戸江茂博／隈元泰弘／広岡義之／猪田裕子編

創造性を育む乳幼児からの音楽表現

佐野仁美／岡林典子編著

可能性の育み 芸術士 アーティストと子どもたち
15年の歩み

特別非営利活動法人アーキペラゴ著

指導校を日本一に導いた **子どもの歯と口の健康法**
歯科医師に学ぶ

江口康久万著



ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 ☎075-581-0296 宅配可/価格税込
E-mail eigyo@minervashobo.co.jp URL <https://www.minervashobo.co.jp/>

2025 新刊・近刊案内

*テキスト採用の見本をご希望の場合は、弊社HPのお申込みフォーム、またはE-mail、FAXにてお申込みください。
*掲載している内容の一部は、予定で、変更になる場合があります。

1冊でわかる教育実習・保育実習

野津直樹・山本陽子 編著 B5判 170頁 定価2,090円（税込）
978-4-89347-445-2

知識を広げ、保育実践に活かす 表現（造形）

吉田 収 著 B5判 オールカラー 148頁 定価2,200円（税込）
978-4-89347-439-1

保育者・教育者になる人のための 特別支援教育 ―当事者の声を聴く―

小林芳文 監修・著 武藤篤訓 著者代表 B5判 276頁
定価2,200円（税込） 978-4-89347-435-3

保育内容「言葉」と指導法 ―子どもの心のことばに耳を澄ませて

仲本美央・吉永安里 編著 B5判 310頁 定価2,200円（税込）
978-4-89347-442-1

保育を綴る ―対話型マップ記録の提案―

お茶の水女子大学附属幼稚園 著 B5変型判 オールカラー 128頁
定価2,640円（税込） 978-4-89347-451-3

幼児教育の原理

請川滋大 編著 加藤直子・徳田多佳子・松原乃理子 著
B5判 212頁 定価2,310円（税込） 978-4-89347-378-3

レッジョ・インスピレーション ―驚きと発見、対話と思索の教育のために―

太田素子・小玉亮子 編著 B5判 カラー口絵付 224頁
定価2,860円（税込） 978-4-89347-428-5

図解で学ぶ保育 子ども家庭支援論

杉山宗尚 編著 A5判 160頁 予価2,310円（税込）
978-4-89347-448-3

近刊

図解で学ぶ保育 レポート・卒論

井戸ゆかり 編著 A5判 160頁 予価2,310円（税込）
978-4-89347-449-0

近刊

動画で学ぶ 子どもとともにひらく音楽遊び

馬立明美・小澤和恵・鈴木泰子・園川 緑 共著 B5判 208頁
予価2,200円（税込） 978-4-89347-436-0

近刊

2025 改訂新版

★ 演習保育内容「健康」〈第3版〉―大人から子どもへつなぐ健康の視点
井狩芳子 著 A5判 定価2,090円（税込）

★ 子ども家庭支援論〈第2版〉
―保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす―
守 巧 編著 佐藤 恵・齊藤 崇・齊藤勇紀・松井剛太 著 B5判 定価2,090円（税込）

★ 実践に生かす障害児保育・特別支援教育〈第2版〉
前田泰弘 編著 立元 真・中井 靖・小笠原明子 著 B5判 定価2,200円（税込）

★ 図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉〈第2版〉
直島正樹・河野清志 編著 A5判 定価2,310円（税込）

★ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型
認定こども園教育・保育要領の成立と変遷
―こどもまんなか社会の実現に向けて―
民秋 言 編者代表 西村重稀ほか 編 A5判 定価1,540円（税込）

★ 子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養〈第12版〉
堤ちはる・土井正子 編著 B5判 定価2,640円（税込）

★ 子どもが共に育つための障害児保育〈第2版〉 近刊
―障害についての深い学びから子どもの支援に生かす―
齊藤勇紀・守 巧 編著 山田謙一 医療監修・著 B5判 予価2,200円（税込）

★ 障害児保育 子どもとともに成長する保育者を目指して〈第4版〉
藤永 保 監修 阿部五月ほか 著 A5判 定価2,090円（税込）

★ 保育の英会話〈第3版〉
赤松直子・久富陽子 著 B5判 定価1,540円（税込）

★ 幼稚園・保育所・施設 実習ワーク〈認定こども園対応 改訂版〉
小林育子・長島和代・権藤真織・小櫃智子 著 B5判 定価1,760円（税込）

好評既刊

カラー5領域

新訂

事例で学ぶ
保育内容

各巻 定価2,200円（税込）〈領域〉表 現 無藤 隆 監修／浜口順子 編者代表

〈領域〉健 康 無藤 隆 監修／倉持清美 編者代表

〈領域〉人間関係 無藤 隆 監修／岩立京子 編者代表

〈領域〉環 境 無藤 隆 監修／福元真由美 編者代表

〈領域〉言 葉 無藤 隆 監修／宮里暁美 編者代表

〈領域〉表 現 無藤 隆 監修／浜口順子 編者代表



*書籍詳細は、左のQRコードから
弊社HPでご覧ください。
<https://houbun.com>



株式会社 ほうぶんしょりん
萌文書林

〒113-0021 東京都文京区本駒込6-15-11 TEL 03-3943-0576 FAX 03-0943-0567 E-mail: info@houbun.com



保育の活動・遊び パーフェクトガイド

子どもや利用者と“一緒に楽しむ”「活動・遊び」から
保育の学びを深めよう！

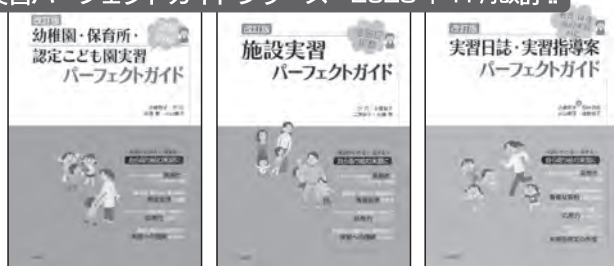
幼稚園・保育所・認定こども園・施設実習対応！
責任実習の指導案作成に役立つ一冊！

保育の中での「活動・遊び」を考え、その基本から子どもの
発達に応じたポイント、さらに保育場面での実践例をイラスト
や写真などを用い、わかりやすく解説しています。

また、責任実習（部分実習・一日実習）での「活動・遊び」
の展開やそのポイントなども、具体的に解説しています。

実習に役立ち、実習での学びを深めることのできる一冊です。

実習パーフェクトガイドシリーズ 2023年11月改訂！！



2024年7月発行

小山朝子・小櫃智子 代表
井上裕美子・小島好美

B5判 144頁（本文2色刷） 定価 本体 1,500円＋税

Part 1 実習における活動・遊びを学ぼう

Part 2 活動・遊びを実践してみよう

＜取り上げる活動・遊び＞ 絵本、紙芝居、お話、
手遊び、歌・歌遊び、ペープサート、パネ
ルシアター、スケッチブックシアター、ゲー
ム、運動遊び、絵画遊び、製作遊び、折り紙、
水・泥遊び、感触遊び、触れ合い遊び、レ
クリエーション

Part 3 保育の中での活動・遊びの学びを深めよう

● 各巻B5判 144頁（本文2色刷） 定価 本体1,500円＋税

- ・『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』
小櫃智子他
- ・『改訂版 施設実習パーフェクトガイド』 守巧・小櫃智子他
- ・『改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』 小櫃智子編

改訂版 子どもとともに
未来をデザインする

保育者論・教育者論

こども家庭庁創設および各種法改正等に伴い、
最新の内容に修正した最新「改訂版」！

田中卓也・松村齋・小島千恵子 編著

B5判 160頁 定価 本体 1,800円＋税

保育士養成課程、幼稚園教諭養成課程の
「保育者論」のテキストとして、
保育士養成課程を構成する各教科の目標
及び教授内容や、
教職課程コアカリキュラムに沿った内容です。



子ども理解と援助

— より深い専門性の獲得へ —

「幼児理解の理論及び方法」（幼稚園教諭免許）および

「子どもの理解と援助」（保育士資格）の最新テキスト！

乳幼児期に必要な生活や活動を展開するためには、保育者はクラス全体の状況
性を見極め、適宜個別対応を行い、遊びや教材の理解、環境構成や子どものわか
わりといったさまざまな視点での子ども理解が必要です。

本書では、より深い専門性を獲得するために、保育の中核にある子ども理解の
内実を具体的な事例や保育記録などを通して解説しています。

堂本真実子

B5判 144頁

定価 本体 1,700円＋税



2025年 発行予定

※現在制作中のため、発刊時に異なる場合があります。

好評「指導法」シリーズの最新刊！

- 『実践例から学びを深める 保育内容・領域 人間関係 指導法』
小櫃智子編 2025年秋頃発行予定

最終学年の学びの確認と園への就職前に役立つ実践的テキスト！

- 『これまでの学びをフル活用！
必ず役立つ 保育のステップアップBOOK』
久富陽子編 2025年秋頃発行予定

わかば社

〒173-0004 東京都板橋区板橋 2-46-12-202 [e-mail] info@wakabasya.com
電話：03-6905-6880 FAX：03-6905-6812 [URL] https://www.wakabasya.com

『子ども学』第13号 発刊

定価(本体1,800円+税)
B5判美装 240頁予定(年1回刊行)

❖本書は、子どもの育ちや、子どもを取り巻く生活・教育・文化・環境などに関する今日的なあらゆる問題に対し、多様な角度から研究を進められている先生方の子どもを論じる開かれた場でありたいと願っています。また、年1回の定期刊行を通じて、わが国の子ども学の新たな研究成果の蓄積も目的としています。

白梅学園大学・短期大学子ども学研究所
「子ども学」編集委員長 小玉重夫

・ 編集委員会 ・

編集委員顧問	● 汐見 稔幸	(白梅学園大学・短期大学名誉学長)
	無藤 隆	(白梅学園大学名誉教授)
編集委員長	● 小玉 重夫	(白梅学園大学・短期大学学長)
編集委員	● 安倍 大輔	(白梅学園大学子ども学部准教授)
(50音順)	五十嵐 元子	(白梅学園大学子ども学部准教授)
	石黒万里子	(東京成徳大学子ども学部教授)
	井原 哲人	(白梅学園大学子ども学部准教授)
	白川 佳子	(共立女子大学家政学部教授)
	砂上 史子	(千葉大学教育学部教授)

第13号

目次

【巻頭特集】子ども・子ども学トピックス2025

【特集1】子どもとポストヒューマン・エージェンシー

・保育実践と保育研究における
回折的方法論の可能性 ほか

【特集2】構造とケアの現代的課題に迫る

・今日の社会的養護における
ケアの「構造」的課題 ほか

【特集3】子どものこころとからだ

・子どもの“からだと心”の現在地 ほか

【子ども学研究所報告】

・古田足日研究プロジェクト

【投稿論文】

・園長の課題対処スタイルの違いにみる
園長職の熟達化

※目次は発刊時までに変更される可能性があります。

【第14号】2026年5月 発刊予定

◎ 第3号より投稿論文の受付を開始しました(査読付)。詳しくは、本誌発売元の萌文書林のホームページを確認してください。投稿にあたっての手引きを掲載しています。

<https://houbun.com/kodomogaku>

【編集】白梅学園大学・短期大学子ども学研究所「子ども学」編集委員会

【発売】(株)萌文書林

【お問い合わせ】TEL:03-3943-0576
(株)萌文書林 FAX:03-3943-0567

保育学関係学術図書のご案内

関係性に基づく幼児の情動調整

勝野 愛子著

6050円

生きるための絵本—命生まれるときから 命尽きるときまでの絵本127冊—

正置 友子著

4180円

保育者のバーンアウトと生活リズムの関係

川俣美砂子著

6050円

幼児が示す規範に関する検討

辻谷真知子著

7700円

子どものことばとうたの結びつきに関する研究

坂井 康子著

7150円

保護者との関係構築に関する保育者の語りの検討

衛藤 真規著

7700円

質の認識としての音楽科カリキュラム—デュイの芸術哲学を基に—

西園 芳信著

5500円

マルチステークホルダーの視座からみる 保幼小連携接続—その効果と研修のあり方—

一前春子・秋田喜代美・天野美和子著

3520円

「子どもの論理」に培う小学校国語教育の実践研究

春木 憂著

5280円

幼児教育と小学校教育における言葉の指導の接続

吉永 安里著

6050円

高橋五山の総合的研究—デザイン・絵雑誌・紙芝居—

高橋 洋子著

8250円

「共生」の教育創造に向けた〈関係形成〉〈理解・認識〉の内容と連関

金丸 彰寿著

8800円

低学年児童の情動に対する教師の支援

芦田 祐佳著

7700円

保育者は子どもとどのようにわかり合おうとするのか

上村 晶著

7150円

デュイのオキュペーション概念に基づく芸術的構成活動

小島 律子著

8250円

子どもの社会的行動のアセスメント

—早期発見と支援に生かせる乳幼児健診でのまご遊び— (DVD付)

神尾陽子監修／別府悦子・宮本正一編著

2970円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風間書房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp (価格税込)

保育テキスト 2025年度ラインナップ

はじめて学ぶ 乳児保育 第四版 **改訂**

【理論編】【実践編】【アイディア集】の3部構成
乳児保育の理論と実践をイラストで解説
送迎バス置き去りなどの事故を例に安全管理を加筆

【巻末に切り取り式ワークシート付】

電子教科書対応

統計データと
法令等を全面更新！

志村聡子 編著

B5変/2色刷/216頁/定価2,530円 ISBN978-4-8103-1528-8



新版 遊びの指導

電子教科書対応

乳幼児が夢中になる約1000種類の
遊びを網羅・用言解説した

遊びの百科全書!!

「実習」「表現」「運動あそび」等
幅広い科目に活用

(公財) 幼少年教育研究所 編著

B5変/2色刷/400頁/定価3,520円 ISBN978-4-8103-0037-6



保育内容 子どもと環境 第三版

—基本と実践事例—

改訂

心身の発達を育む環境教育の実践に最適
「概論」と「保育の実践」の2部構成
約30の実践事例を絵と写真で学べる内容

田尻由美子・無藤隆 編著 B5判/1色刷/224頁

定価2,420円 ISBN978-4-8103-1524-0



知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第二版

2025年 春
アップデート

「こども家庭庁」「児童福祉法」対応
実習記録や読み聞かせ、弾き歌い等の
実技についてもわかりやすく解説

石橋裕子・林幸範 編著 B5判/2色刷/304頁

定価2,200円 ISBN978-4-8103-1475-5

新訂



株式会社 **同文書院**

〒112-0002 東京都文京区小石川5-24-3 詳しくは弊社HPへ

TEL:03-3812-7777 FAX:03-3812-7792

価格は税込みです



新しい時代に求められる 保育者の専門性

—子どものwell-beingをめざして—

新しい時代の保育者養成研究会【編】

B5・192頁/2,100円+税

多様な子どもを主体者として支える保育者に必要な役割を探った。



これからの時代を生きる 子どもたちのための 保育方法論

堀 科【編著】

B5・216頁/2,300円+税

カリキュラムマネジメントやICTの活用など、多様な子どもたち・子育て家庭を受け入れるための手がかりが身につく。



よくわかる幼稚園実習 **【第五版】**

百瀬ユカリ【著】

B5・208頁/2,000円+税

実習日誌と指導案を豊富に掲載した好評書。
新たにドキュメンテーション型日誌・指導案も追加した。



子どもの保健 **【改訂版】**

B5・204頁/2,400円+税

子どもの健康と安全

【改訂二版】 B5・282頁/2,500円+税

鈴木美枝子【編著】



予習・復習にも役立つ 社会的養護Ⅱ **【改訂版】**

松本なるみ・中安恒太・尾崎真三【編著】

B5・168頁/2,000円+税



援助者を目指す人の「社会福祉」

石垣儀郎【編著】

A5・208頁/2,200円+税



子どもの「今」を護れるか —待機児童問題から見える社会の姿—

前原 寛【著】

新書・160頁/800円+税

エピソードから楽しく学ぼう シリーズ

人間関係

及川留美【編著】 A5・208頁/2,100円+税

保育内容総論 **【新版】**

福岡淳子・及川留美【編著】 A5・272頁/2,400円+税

環境指導法 **【改訂版】**

佐々木由美子【編著】 A5・192頁/2,000円+税

子ども理解と支援

福岡淳子【編著】 A5・224頁/2,000円+税



保育現場で日々繰り返される
エピソードを多数掲載！

株式会社 **創成社**

〒112-0003 東京都文京区春日 2-13-1-5F

TEL:03-3868-3867/FAX:03-5802-6802

URL: <http://www.books-sosei.com> (価格税込)



cutie_sosei
cool_sosei
crazy_sosei



新刊

マンガと事例でポイントをつかむ 幼児教育・保育方法論

編著 開 仁志

ISBN 978-4-909378-72-9 B5判・176頁 カラー口絵付
定価 2,310円（税込）

あなたとともに考える

子ども家庭福祉

こどもまんなか社会を実現するために

編著 渡邊慶一

ISBN 978-4-909378-68-2 B5判・184頁 カラー口絵付・本文2色刷
定価 2,420円（税込）

保育の心理学

—子ども理解をケアにつなげる—

編著 串崎幸代

ISBN 978-4-909378-70-5 B5判・176頁 カラー口絵付
定価 2,310円（税込）

哲学的な考えをいかす

新・教育原理

—教育と保育を考える—

編著 伊藤潔志

ISBN 978-4-909378-71-2 B5判・176頁 カラー口絵付・本文2色刷
定価 2,310円（税込）

新・子どもの食と栄養

2025年2月
第2版

編著 今津屋直子・久藤麻子 B5判・定価 2,200円（税込）

マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ

保育内容総論

2024年2月
改訂新版

編著 開 仁志 B5判・定価 2,497円（税込）

資質・能力を育む

保育内容 領域 人間関係

—こどもにとっての人間関係とは—

編著 齊藤 崇 B5判・定価 2,200円（税込）

新・保育内容「環境」

ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録

編著 永渕泰一郎 A5判・定価 2,200円（税込）

指導法もいっしょに学ぶ

保育内容「言葉」

2025年1月
第2版

編著 浅井拓久也 B5判・定価 2,090円（税込）

考え、実践する

施設実習

2024年10月
新版

編著 浦田雅夫 B5判・定価 2,530円（税込）

新・保育の計画と評価

—理論と実践をつなぐ保育カリキュラム論—

編著 前田和代 B5判・定価 2,200円（税込）

実践事例を通して具体的ななかかわりを学ぶ

保育現場における特別支援

編著 松井剛太・七木田敦 B5判・定価 2,200円（税込）

子どもの発達連続性を支える

保育の心理学

2025年1月
第2版

編著 浅井拓久也 B5判・定価 2,530円（税込）

新しい時代の保育者論

編著 須藤麻紀 A5判・定価 2,200円（税込）

哲学的な考えをいかす

新・保育原理

—保育の未来を考える—

編著 伊藤潔志 B5判・定価 2,300円（税込）

〈子どもの遊びと児童文化をつなぐ〉

子どもの文化

理論と実践から学び、考えよう

編著 宮野 周 B5判・定価 2,200円（税込）



発行・販売
教育情報出版

〒557-0055 大阪市西成区千本南1-18-24
TEL 06-6658-8741（代） 06-6651-5012（編集部）
FAX 06-6652-2928



info@kyoiku-joho.jp
http://www.kyoiku-joho.jp

↓ 123%拡大しました

簡単操作で行動を記録

BECO2

Behavior Coding System2

観察による量的分析を必要とする幅広い分野で活用されています。



- ・発達/保育
- ・特別支援教育
- ・臨床心理
- ・スポーツ
- その他



Q'sfix

保育者研修に最適なDVD教材

好評発売中!

保育の 重大事故を防ぐ

～子どものいのちを守るリスクマネジメント～

監修：猪熊 弘子(駒沢女子短期大学教授)

推薦：大豆生田 啓友(玉川大学教授)



保育現場における危機管理を映像で学ぶ

DVD
全3巻

価格 各巻 19,800円
(税抜18,000円)
(学校・公共図書館版)
各巻 39,600円
(税抜36,000円)
(視聴覚ライブラリー版)

時間 各巻約30分

- ① 食べる、寝る
～乳児期に多い事故とその対策～
- ② 水遊び、散歩、見失い
～幼児期に多い事故とその対策～
- ③ 事故を起こさないための園づくり



超少子高齢化社会、多様化する
社会における保育のあり方を考える

【企画・監修・解説】

増田まゆみ
(湘南ケアアンドエデュケーション研究所所長
／元東京家政大学教授)

【監修・解説】

無藤 隆 (白梅学園大学名誉教授)
北野幸子 (神戸大学大学院教授)

価格

各巻 19,800円(税抜18,000円)
(学校・公共図書館版)
各巻 39,600円(税抜36,000円)
(視聴覚ライブラリー版)

時間

各巻約30分

- ① こども主体の保育
- ② 多様な人と関わる保育

～地域と共に創造する～

共生社会における保育

DVD
全2巻

株式会社 サン・エデュケシヨナル

〒192-0065 東京都八王子市新町1-8 かんべビル5階
TEL. 042-634-1930 FAX. 042-634-1931 <http://www.sun-edu.co.jp>

